

# 授 業 計 画

平成 27 年度

# *Syllabus 2015*

---

生涯福祉学部 社会福祉学科

生涯福祉学部

社会福祉学科

# 兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

## 兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



### アドミッションポリシー (AP)

#### 入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

### カリキュラムポリシー (CP)

#### 教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

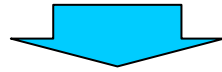
### ディプロマポリシー (DP)

#### 学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

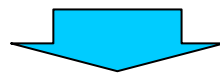


兵庫大学

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)

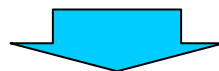


生涯福祉学部

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)



社会福祉学科

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)

みなさんは、

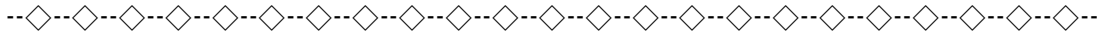
APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

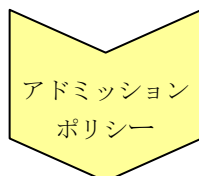
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

## 生涯福祉学部ポリシー

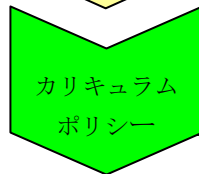
アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・生涯福祉学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲と学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力し、向上しようとする心を忘れず、柔軟な姿勢を有する学生を受け入れます。</p>	<p>・生涯福祉学部では、「和」の精神に基づく教養を広く基礎として、人と人の生涯発達について理解するとともに、主に小都市・町村での学びを通して、生涯発達に応じ人を支援する地域社会に貢献できる「幅広い職業人」の育成を目指してカリキュラムを編成します。</p>	<p>・生涯福祉学部では、人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係を踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



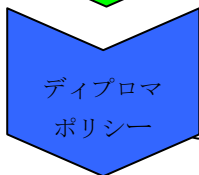
### 3つの方針（ポリシー）について



・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。



・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。



・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

## 社会福祉学科ポリシー

社会福祉学科は、学部ポリシーに基づき、「和」の精神と地球規模でのソーシャルワークの価値と倫理を理解し、主に小都市・町村において実践する福祉の専門職を養成するとともに、生涯にわたって福祉社会の一翼を担う市民の育成を目指します。

### アドミッション ポリシー

・生涯福祉学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. ソーシャルワークの専門職を希望し、自ら学ぶ意欲のある人
2. ソーシャルワークの価値である、社会的な弱者を支援することを希望する人
3. 社会福祉の分野に関心を持ち、将来にわたり地域や社会に貢献する意欲のある人

### カリキュラム ポリシー

・社会福祉学科のディプロマポリシーで示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学で学ぶための基本的学習技術を習得し、ソーシャルワークの価値を理解し倫理を身につけるために、調べ、考え、議論をする学習態度を身につける
2. ソーシャルワークの価値と倫理を認識し身につけるために、「人」と「人を取り巻く社会」との関係及び文化など社会の基盤と高い精神性を養う幅広い学問分野の知識や技能を身につける
3. 人の生涯に関わり、社会の変革者たるソーシャルワークの実践的専門家になるために必要な、学際性のある専門的知識や技能を習得し、運用する力を身につける
4. 主に小都市・町村を中心として、社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や技能を運用し行動する力を身につける
5. 福祉社会の一員たる市民として、また、ソーシャルワークの実践的専門家として、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける

### ディプロマ ポリシー

・生涯福祉学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士（社会福祉学）の学位を授与します。

1. ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力
2. ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力
3. ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力

#### 「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

社会福祉学科カリキュラムマップ【基礎・教養科目】(平成27、26、25、24年度入学者)

授業科目の区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○						
		兵庫大学ディプロマポリシー						
		1) 自己を認識し、物事に進んで取り組む力 2) まわりに働きかけ、共に行動する力 3) 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力						
		A	B	C	D	E	F	G
		コミュニケーション力	情報リテラシー(情報処理能力、情報収集・発信力)	多様なものの見方、考え方ができる力	自己を認識し、他者を理解する力	社会・文化について理解する力	自然・健康について理解する力	論理的思考力
基礎科目	日本語(読解と表現)	◎				○		○
	英語	◎		○		○		
	コンピュータ演習	○	◎					○
	生物基礎			○			◎	○
教養科目	宗教と人生			○	◎	○		
	生命倫理学			○			◎	
	哲学			◎	○			○
	文学			◎	○	○		
	芸術			◎		○		
	心理学			◎	○			○
	仏教と現代社会			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			◎	○	○		
	色彩とデザイン		○	○		◎		○
	法と社会			○		◎		○
	日本国憲法			○		◎		○
	人権の歴史			○	◎	○		
	政治学			◎		○		○
	社会学			○		◎		○
	経済学			◎		○		○
	化学			○			◎	
	生物学			○			◎	
	食と健康	○				○	◎	
科目	実用英語(初級)	◎				○		
	実用英語(中級)	◎				○		
	中国語(初級)	◎				○		
	中国語(中級)	◎				○		
	韓国語(初級)	◎				○		
	韓国語(中級)	◎				○		
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)			○			◎	○
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	○			○		◎	
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	○			○		◎	
	私のためのキャリア設計	○		○	◎			○

社会福祉学科カリキュラムマップ(H27年度入学者)

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係の踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○															
		社会福祉学科のディプロマポリシー															
授業科目の区分	授業科目の名称	1					2					3					
		ソーシャルワークの価値と倫理を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力															
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせた柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づける政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)	
専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病									◎							
	心理学理論と心理的支援	○	◎						○	○	○						
	社会理論と社会システム	○	◎						○								
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ								○	◎		○	○	○			
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ								○	◎		○	○	○			
	介護概論		○							○	○	◎	○				
	法学			○							◎					○	
	行政法					○					◎				○		
	生涯発達心理学	○									○		○		○		
	こころの基盤の理解	○	◎						○		○						
	コミュニケーション論		○								◎	○	○		○	○	
	社会心理学	○	◎			○			○		○						
	態度の心理学		◎			○			○		○						
	専門教育科目	基礎ゼミナールⅠ			○	◎		○	○	○							
		基礎ゼミナールⅡ			○	◎		○									
専門プレゼミナールⅠ						○	○		◎	○							
専門プレゼミナールⅡ						○	○		◎	○							
現代社会と福祉Ⅰ				○						◎	○	○	○				
現代社会と福祉Ⅱ				○						◎	○	○	○				
社会保障論Ⅰ		○	○							○	○					○	
社会保障論Ⅱ		○	○							○	○					○	
社会調査の基礎							◎										
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ				○					○	○	○	◎	○				
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ				○					○	○	○	◎	○				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度			○			○					◎		○		○	○	
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度											◎	○	○		○	○	
地域福祉の理論と方法Ⅰ												○		◎	○		
地域福祉の理論と方法Ⅱ												○		◎	○		
保健医療サービス				○	○		○				◎				○		
医療ソーシャルワーク論									○	○	○			◎	○		
医療ソーシャルワーク演習									○	○	○			◎	○		
低所得者に対する支援と生活保護制度				○							○		◎		○	○	
権利擁護と成年後見制度					○							◎	○		○		
福祉行財政と福祉計画												◎			○	○	
福祉行財政と福祉計画(応用)												◎			○	○	
相談援助の理論と方法Ⅰ			○	○		○				○	○	○	◎				
相談援助の理論と方法Ⅱ			○						○	○	○		◎	○			
相談援助演習ⅠA									○	○	◎	○		○			
相談援助演習ⅠB									○	○	◎	○		○			
相談援助演習Ⅱ													◎	○	○		
相談援助演習(統合)													◎	○	○		
相談援助実習指導Ⅰ		○	○	○	○								◎				
相談援助実習指導Ⅱ										○	○		◎	○	○		
相談援助実習指導Ⅲ		○							○	○		◎		○			
相談援助基礎実習					○	○				◎		○	○				
相談援助実習					○	○		○	○			◎					
専門ゼミナールⅠ												○	○		◎		
専門ゼミナールⅡ												○	○		◎		
卒業演習			○	○		○	○		○	○				○	◎		



		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○															
		社会福祉学科のディプロマポリシー															
		1					2					3					
授業科目区分	授業科目の名称	ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力					
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成することができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つこと(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感性、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づける政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)	
専門教育科目	就労支援サービス										○	◎	○				
	更生保護制度		○										◎				
	福祉サービスの組織と経営								○				◎	○			
	福祉サービスの組織と経営(応用)								○				◎	○			
	心理検査法									◎			○	○			
	臨床心理学									◎							
	統計学の基礎								◎								
	加齢及び障害に関する理解											◎	○	○			
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解		○	○		○	○	○	◎	○	○		○	○	○	○	
	福祉住環境論		○							◎			○	○	○		
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ		○										◎		○		
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ		○										◎		○		
	精神障害者の生活支援システム		○										○		◎		
	精神疾患とその治療Ⅰ													◎			
	精神疾患とその治療Ⅱ													◎			
	精神保健の課題と支援Ⅰ	○						○	○	○	◎						
	精神保健の課題と支援Ⅱ	○	○					○	○	○	◎						
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)			○							◎						
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠA		○	◎													
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠB		○	◎													
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡA	○							○	◎							
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB	○							○	◎							
	精神保健福祉援助演習(専門)A											○	○	◎			
	精神保健福祉援助演習(専門)B											○	○	◎			
	精神保健福祉援助実習指導										○	○	○	◎	○		
精神保健福祉援助実習										○			○		○		
専門発展科目	レクリエーションワーク												◎	○			
	福祉レクリエーションⅠ												◎	○			
	福祉レクリエーションⅡ												◎	○			
	福祉レクリエーション演習Ⅰ												◎	○			
	福祉レクリエーション演習Ⅱ												◎	○			
	生活支援技術	○								○			◎				
	病気の理解									◎		○	○				
	ケアマネジメント論	○	○					○	○		◎						
	在宅ケア論									◎		○	○				
	児童・高齢者・障害者の心理	○								◎	○	○	○				
	教育心理学	○	○						○		○			○	◎		
	国際福祉論	◎	○							○	○				○		
	インターンシップ									◎	○						
社会福祉特別講義Ⅰ	○	◎							○	○	○						
社会福祉特別講義Ⅱ	○	◎							○	○	○						

社会福祉学科カリキュラムマップ(H26年度入学者)

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係の踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		社会福祉学科のディプロマポリシー														
		1					2					3				
		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力				
授業科目の名称		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つこととする態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づける政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)
専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病									◎		○	○			
	心理学理論と心理的支援	○	◎					○	○	○						
	社会理論と社会システム	○	◎					○								
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ								○	◎		○	○	○		
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ								○	◎		○	○	○		
	介護概論		○								○	◎	○			
	法学			○								◎				○
	行政法					○						◎			○	
	家族福祉論		○								◎					
	生涯発達心理学	○									○	○		○		
	こころの基盤の理解	○	◎						○		○					
	コミュニケーション論		○								◎	○	○		○	○
	社会心理学	○	◎			○		○	○		○					
	態度の心理学		◎			○		○	○		○					
	基礎ゼミナールⅠ			○	◎		○	○	○							
	基礎ゼミナールⅡ			○	◎		○									
専門プレゼミナールⅠ					○	○		◎	○							
専門プレゼミナールⅡ					○	○		◎	○							
専門教育科目	現代社会と福祉Ⅰ			○						◎	○	○	○			
	現代社会と福祉Ⅱ			○						◎	○	○	○			
	社会保障論Ⅰ	○	○							○	○					○
	社会保障論Ⅱ	○	○							○	○					○
	社会調査の基礎						◎									
	社会福祉調査							◎								
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ			○					○	○	○	◎	○			
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ			○					○	○	○	◎	○			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度		○			○				◎		○		○	○	
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度									◎	○	○		○	○	
	地域福祉の理論と方法Ⅰ										○			◎	○	
	地域福祉の理論と方法Ⅱ										○			◎	○	
	保健医療サービス			○	○		○				◎				○	
	医療ソーシャルワーク								○	○	○			◎	○	
	低所得者に対する支援と生活保護制度			○							○	◎			○	
	権利擁護と成年後見制度				○							◎	○		○	
	福祉行財政と福祉計画											◎			○	○
	福祉行財政と福祉計画(応用)											◎			○	○
	相談援助の理論と方法Ⅰ		○	○		○				○	○	○	◎			
	相談援助の理論と方法Ⅱ		○							○	○		◎	○		
	相談援助演習ⅠA										○	◎	○		○	
	相談援助演習ⅠB									○	○	◎	○		○	
	相談援助演習Ⅱ												◎	○	○	
	相談援助演習(統合)												◎	○	○	
	相談援助実習指導Ⅰ	○	○	○	○						○	○	◎			
	相談援助実習指導Ⅱ									○	○		◎	○	○	
	相談援助実習指導Ⅲ		○								○	◎			○	
	相談援助実習				○	○				○	○		◎			
	専門ゼミナールⅠ											○	○			◎
	専門ゼミナールⅡ											○	○			◎
卒業演習			○	○			○	○		○	○			○	◎	

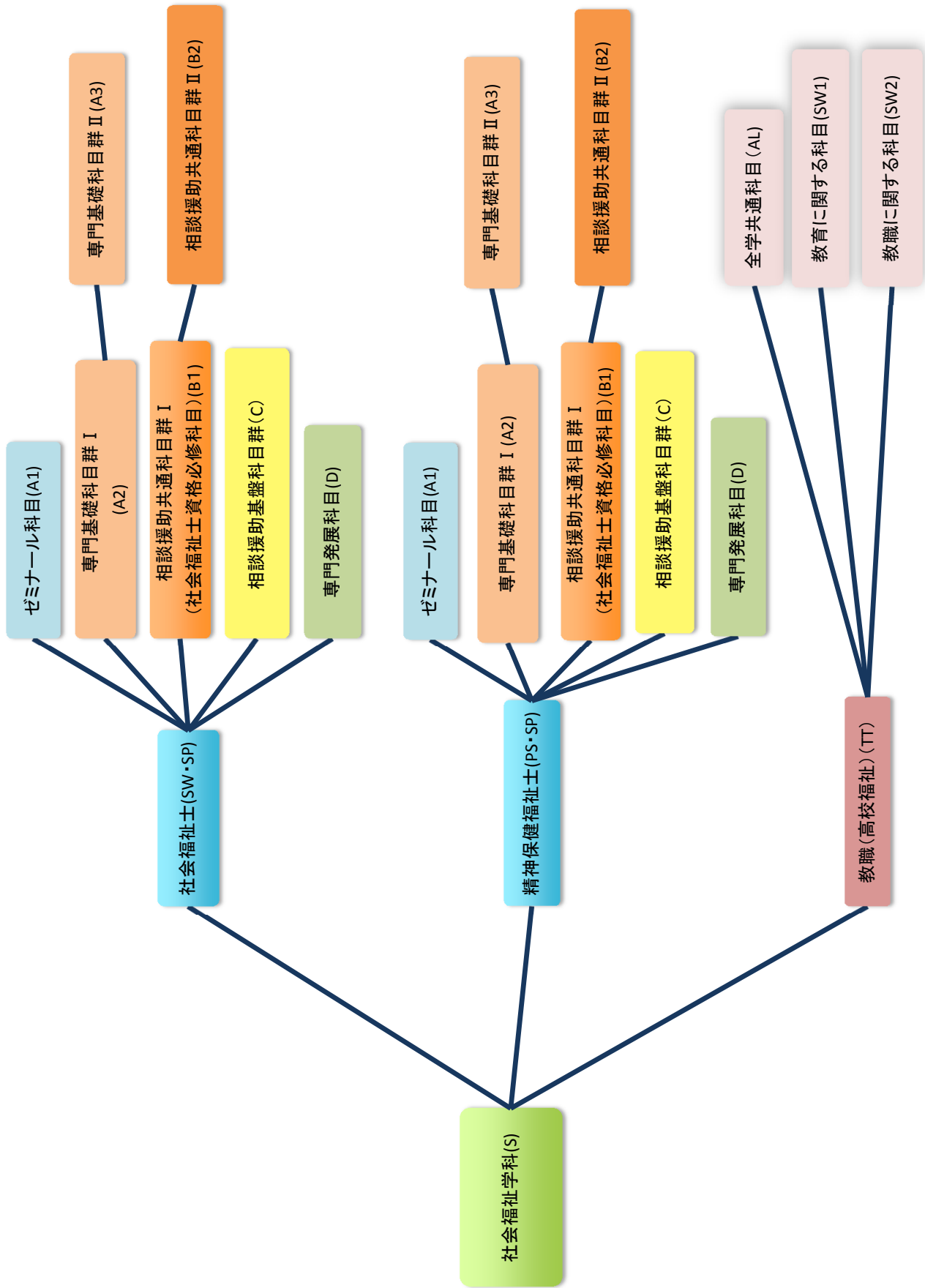
		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○																
		社会福祉学科のディプロマポリシー																
授業科目区分	授業科目の名称	1					2					3						
		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力																
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5		
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成することができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つこと(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感性、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づける政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)		
専門教育科目	就労支援サービス											○	◎	○				
	更生保護制度		○											◎				
	福祉サービスの組織と経営									○				◎	○			
	福祉サービスの組織と経営(応用)									○				◎	○			
	心理検査法											◎		○	○			
	臨床心理学											◎						
	統計学の基礎											◎						
	加齢及び障害に関する理解												◎	○	○			
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解		○	○		○	○	○	◎	○	○		○	○	○	○	○	
	福祉工学												◎		○	○		
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ		○										◎		○	○		
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ		○										◎		○	○		
	精神障害者の生活支援システム		○										○			◎		
	精神疾患とその治療Ⅰ													◎				
	精神疾患とその治療Ⅱ													◎				
	精神保健の課題と支援Ⅰ	○						○	○	○	◎							
	精神保健の課題と支援Ⅱ	○	○					○	○	○	◎							
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)			○									◎					
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠA		○	◎														
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠB		○	◎														
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡA	○								○	◎							
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB	○								○	◎							
	精神保健福祉援助演習(専門)A											○	○	◎				
	精神保健福祉援助演習(専門)B											○	○	◎				
	精神保健福祉援助実習指導											○	○	◎	○			
	精神保健福祉援助実習											○			○	○	○	
	専門発展科目	福祉レクリエーションⅠ													◎	○		
		福祉レクリエーションⅡ													◎	○		
		福祉レクリエーション演習Ⅰ													◎	○		
		福祉レクリエーション演習Ⅱ													◎	○		
		生活支援技術	○									○		◎				
		病気の理解										◎		○	○			
ケアマネジメントⅠ		○	○					○	○		◎							
ケアマネジメントⅡ											◎		○	○				
在宅ケア論											◎		○	○				
児童・高齢者・障害者の心理		○									◎	○	○	○				
教育心理学		○	○							○		○			○	◎		
国際福祉論		◎	○								○	○				○		
インターンシップ											◎	○						
社会福祉特別講義Ⅰ		○	◎							○	○	○						
社会福祉特別講義Ⅱ	○	◎							○	○	○							

社会福祉学科カリキュラムマップ(H25、24年度入学)

【生涯福祉学部ディプロマポリシー】人の生涯発達を理解し、それを重んじ、「人」と「人を取り巻く社会」との関係の踏まえて、望ましい変化をもたらすように福祉や教育の現場で実践する志をもつ人に、学士の学位を授与します。

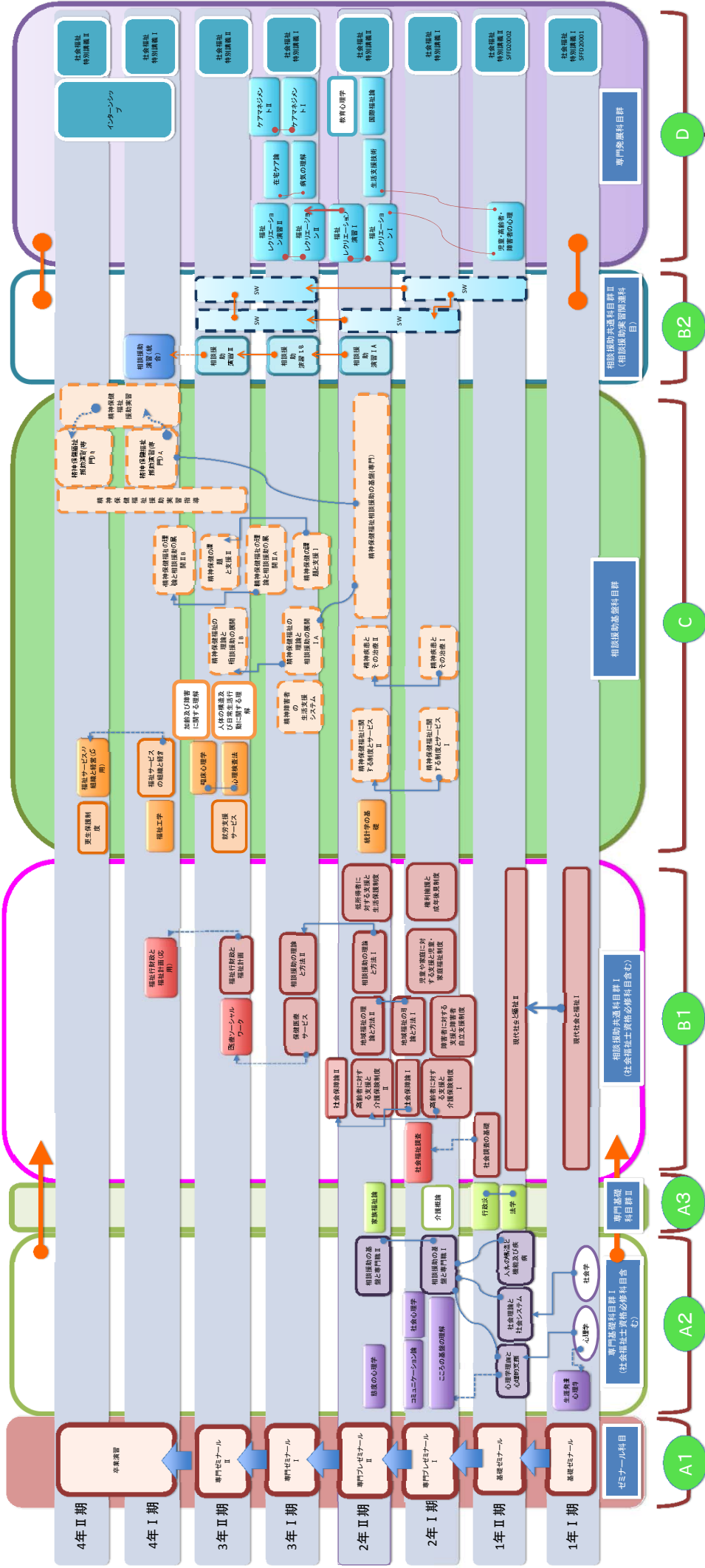
授業科目区分		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		社会福祉学科のディプロマポリシー														
		1					2					3				
		ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力														
授業科目の名称		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つとす態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれた状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせた柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づける政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)
専門基礎科目	人間の生物学的機能と反応		◎							○						
	人間の心理・社会的機能と支援	○	◎					○	○	○						
専門教育科目	社会学論と社会システム	○	◎					○								
	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ		○	○		○	○		○	◎	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ		○	○		○	○		○	◎	○	○	○	○	○	○
	美と感性	○	◎							○						
	法学			○							◎					○
	生涯学習社会とライフデザイン									○			○			◎
	行政法					○					◎			○		
	家族社会学		○							◎	○		○			
	家族福祉論		○							◎	○		○		○	
	発達心理学	○	◎							○		○				
	社会心理学	○	◎			○			○		○					
	演習Ⅰ			○	◎		○									
	演習Ⅱ						○	○	◎	○	○					
	ソーシャルワーク共通科目	現代社会と福祉Ⅰ	○	○							◎	○	○	○		
現代社会と福祉Ⅱ		○	○							◎	○	○	○			
社会保障Ⅰ		○	○							○	○	○				○
社会保障Ⅱ		○	○							○	○	○				○
社会調査の基礎							◎									
社会調査の応用								◎								
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ		○	○							◎	○	○	○			
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ		○	○							◎	○	○	○			
障害者に対する支援と障害者自立支援制度		○	○			○				◎	○	○	○	○	○	
地域福祉の理論と方法Ⅰ									◎		○					
地域福祉の理論と方法Ⅱ											○			◎	○	
保健医療サービス		○		○	○		○			◎	○					
医療ソーシャルワーク		○		○	○		○		○	○	○	○		◎		
低所得者に対する支援と生活保護制度										○	○	○	○	◎	○	
ソーシャルワーク基礎科目	権利擁護と成年後見制度				○						◎	○			○	
	福祉行財政と福祉計画										◎				○	○
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	○	○	○		○			○	○	○	○	◎	○	○	○
	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	○	○	○		○			○	○	○	○	◎	○	○	○
	ソーシャルワーク基礎演習	○	○	○	○	○	◎									
	社会福祉特別演習											○	○			◎
	卒業演習			○	○		○	○		○	○				○	◎
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度									◎	○	○			○	○
	就労支援の制度とサービス									◎	○	○	○	○	○	
	介護概論					○				◎						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	◎	○	○	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	◎	○	○	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	◎	○	○	
	ソーシャルワーク実習	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	◎	○	○	○
ソーシャルワーク演習Ⅰ									○	○	○	◎	○	○	○	
ソーシャルワーク演習Ⅱ									○	○	○	◎	○	○	○	
地域ソーシャルワーク実践		○	○		○	○	◎	○	○	○		○	○	○	○	
成人教育と地域発展										◎			○	○		
更生保護制度		○						○				◎				
福祉サービスの組織と経営									○			◎	○			
精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ		○									◎			○		
精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ		○									◎			○		
精神障害者の生活支援システム		○									○			◎		
精神疾患とその治療Ⅰ												◎				
精神疾患とその治療Ⅱ												◎				
精神保健の課題と支援Ⅰ	○		○	○		○		○	◎							
精神保健の課題と支援Ⅱ	○		○	○		○		○	◎							
精神科ソーシャルワーク論Ⅰ	○		○	○		○		○	◎							
精神科ソーシャルワーク論Ⅱ	○		○	○		○		○	◎							
精神科ソーシャルワーク論Ⅲ	○		○	○		○		○	◎							
精神科ソーシャルワーク演習									○	○	○	◎	○	○	○	
精神保健福祉援助実習指導									○	○	○	◎	○	○	○	
精神保健福祉援助実習									○	○	○	◎	○	○	○	
インターンシップ	○			○	○				○	○				◎	○	

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		社会福祉学科のディプロマポリシー														
		1					2					3				
授業科目区分	授業科目の名称	ソーシャルワークの価値を理解し、倫理を身につけ、必要な知識や技能を身につけるために取り組む力					ソーシャルワークの価値と倫理に基づき、地域において、ソーシャルワークを実践するために人や社会に働きかけ、望ましい方向へと共に行動する力					ソーシャルワークの価値と倫理を踏まえ、社会福祉や生涯学習についての知識や技能を学際的に運用し、生涯にわたって地域や社会で活用できる力				
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
		何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)	文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)	適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)	学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)	自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任)	収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)	統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)	地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)	人の置かれた状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感性、観察力、問題発見力)	地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)	人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)	人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)	人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)	地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)	市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)
専門教育科目	レクリエーションワーク											◎	○			
	人間関係論	○								◎						○
	親子関係の心理学									◎	○					
	健康心理学	○	○			○		○		◎						
	集団心理学	○	○			○		○		◎						
	コミュニケーション心理学	○	○	○			○	○		◎						
	教育心理学			○						◎						
	認知心理学	○	○							◎						
	心理統計学			○			○	◎	○							
	臨床心理学									◎						
	心理学研究法	○	○	○			◎	○	○	○	○					
	心理学基礎実験	○	○	○	○	○	◎	○								
	心理学研究実習	○	○	○	○	○	◎	○								
	心理療法									○		○	◎			
	心理検査法実習									◎		○	○			
	行動分析論	○	○				○	○		◎						
	加齢及び障害に関する理解									◎		○	○			
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解									◎		○	○			
	福祉工学	○	◎							○	○	○		○		
	まちづくり論	○	○						○		○			○	◎	
	国際福祉論	◎	○							○	○		○	○	○	
	スクールソーシャルワーク		○	○		○	○		○	○	○	○	○	◎	○	○
	仏教と社会福祉	◎	○						○			○	○			○
社会福祉特別講義 I	○	◎						○	○	○						
社会福祉特別講義 II	○	◎						○	○	○						





# カリキュラムツリー2(精神保健福祉士取得課程)



履修科目	備考
心理学理論と心理的支援	本科学修SW・SP=社会福祉士・精神保健福祉士資格必修
介護概論	
心理学	
生涯発達心理学	
精神保健福祉士実務必修	履修本学付与SP=精神保健福祉士資格必修
相談援助実務演習科目	履修本学付与SW=相談援助実務演習科目



# シラバスの見方

## 「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1					2					3				
自己を認識し、他者を理解し、思いやる心と志をもって社会で生き抜く力					経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりの働きかけ、とむに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
王様明太子のコミュニケーション	プリンター	...	...	...	経済学初級	システム初級	ビジネス基礎	...	...	...	...	...	...	...

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

### 《シラバス例》

**授業の概要：**科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

**授業の到達目標：**科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

**成績評価の方法：**学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

**授業計画：**授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

科目名														
担当者氏名														
授業方法	単位	選択区分	開講年次											
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎	1-1 多様なものの見方、考え方												
	○	1-2 主体的に学び考える力												
	○	2-4 ビジネス 基礎力												
	○	3-1 キャリア 形成力												
	○	3-4 経営学の知識の応用												
《授業の概要》	《テキスト》													
《授業の到達目標》	《参考図書》													
《成績評価の方法》	《授業時間外学習》													
《授業計画》	《備考》													
週	テーマ (全角22文字)	学習内容など												
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														

**テキスト：**授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。  
**参考図書：**テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

**授業時間外学習：**履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

**備考：**担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

## 授業科目のナンバリングについて

### <ナンバリングとは？>

科目ごとに数字とアルファベットを用いて「ナンバー」を割り振ることを指します。これにより、科目の学修内容の順番や科目間のつながりなどがわかりやすくなります。また、学生が自分に合った科目のレベル（難易度）や専門内容を考えて履修計画を立てることができます。

### <ナンバリングの見方>

各授業科目には、9桁のナンバーが付与されています。

そのナンバーは次の基準等により設定しています。

#### (基礎・教養科目、専門教育科目)

詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ナンバー	学科	科目の位置づけ			履修区分	学年 (レベル)	通し番号 (001～)

#### 詳細①：学科

S	社会福祉学科
---	--------

#### 詳細②③④：科目の位置づけ

② ③		
S	W	社会福祉士専門科目
P	S	精神保健福祉士専門科目
S	P	共通専門科目
T	T	教職専門科目
F	F	自由選択科目
H	U	教養科目 (人文)
S	O	教養科目 (社会)
N	A	教養科目 (自然)
L	A	教養科目 (語学)
P	H	教養科目 (体育)
C	A	教養科目 (キャリア)

④	
A	専門基礎科目
B	相談援助共通科目
C	相談援助基盤科目
D	専門発展科目

#### 詳細⑤：履修区分

1	必修
2	選択
3	選択必修

#### 詳細⑥：学年（レベル）

1	1年
2	2年
3	3年
4	4年

#### 詳細⑦：通し番号

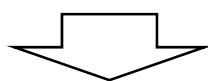
001～
------

(教職に関する科目)

詳細	学科	科目の位置づけ				免許必選の別	学年レベル		通し番号						
	①	②	③		④	⑤	⑥		⑦						
ナンバー	E N H K S	T	教職科目	A	L	全学科共通	4	必修	1	1年相当	001~				
				I	N	情報			5	選択		2	2年相当		
				P	U	公民						4	3	3	3年相当
				A	C	商業								5	4
				E	I	栄養	5	4	4	4		4年相当			
				H	H	保健							5	4	4
						保健体育	5	4	4	4		4年相当			
				Y	O	養護							5	4	4
S	W	福祉	5	4	4	4	4年相当								

例えば、「人体の構造と機能及び疾病」という科目には、＜SSPA11001＞というナンバーが付与されています。このナンバーは、次の組み合わせにより付与されたものです。

詳細①：学科 → 社会福祉学科「S」
詳細②：科目の位置づけ → 共通専門科目「S」
詳細③：科目の位置づけ → 共通専門科目「P」
詳細④：科目の位置づけ → 専門基礎科目「A」
詳細⑤：履修区分 → 必修科目「1」
詳細⑥：学年レベル → 1年生相当「1」
詳細⑦：通し番号 → 通し番号「001」



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
詳細	社会福祉学科	共通専門科目	—	専門基礎科目	必修科目	1年生相当	通し番号
ナンバー	S	S	P	A	1	1	001

# 生涯福祉部社会福祉学科

## 【卒業要件単位数】

### ■平成 27～26 (2015～2014) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		22 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	専門基礎科目	22 単位	22 単位	9 科目
	相談援助共通科目	30 単位	30 単位	10 科目
	相談援助基盤科目	4 単位	—	—
	専門発展科目	4 単位	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		48 単位	—	—
合計		130 単位	60 単位	23 科目

### ■平成 25～24 (2013～2012) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		22 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	専門基礎科目	20 単位	20 単位	7 科目
	ソーシャルワーク共通科目	28 単位	28 単位	10 科目
	ソーシャルワーク基盤科目	8 単位	—	—
	専門発展科目	8 単位	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		44 単位	—	—
合計		130 単位	56 単位	21 科目



平成 27～24（2015～2012）年度入学者

基礎科目・教養科目

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成27年度（2015年度）入学者対象  
 （ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	PSW	教員 免許 福祉	学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成27年度の 担当者	ページ	
				必修	選択				1年	2年	3年	4年			
基礎 科目	日本語（読解と表現）	SBAS11001	演習	2					2					[野田]・[辻本]	26
	英語	SBAS11002	演習	2					2					[小泉毅]	27
	英語	SBAS11002	演習	2					2					[Michael. H. FOX]	28
	コンピュータ演習	SBAS11003	演習	2					2					[佐竹邦子]	29
	生物基礎	SBAL21004	講義		2				2					[立谷正樹]	30
教 養 科 目	宗教と人生	SHUL11001	講義	2					2					本多彩	31
	生命倫理学	SHUL11002	講義		2									[古荘匡義]	32
	哲学	SHUL11003	講義		2									[三浦摩美]	33
	文学	SHUL11004	講義		2									(安井重雄)	34
	芸術	SHUL11005	講義		2									[柳楽節子]	35
	芸術	SHUL11005	講義		2									[岩見健二]	36
	心理学	SHUL11006	講義		2									北島律之	37
	仏教と現代社会	SHUL11007	講義		2									本多彩	38
	国際理解と宗教（キリスト教）	SHUL11008	講義		2									[根川幸男]	39
	国際理解と宗教（イスラム教）	SHUL11009	講義		2									[重親知左子]	40
	色彩とデザイン	SHUL11010	講義		2									[浜島]・[稲富]	41
	法と社会	SSOL21011	講義		2									[豊福一]	42
	日本国憲法	SSOL21012	講義		2									[笹田哲男]	43
	人権の歴史	SSOL21013	講義		2									[岩本智依]	44
	政治学	SSOL21014	講義		2									(斎藤正寿)	45
	社会学	SSOL21015	講義		2				2					吉原恵子	46
	経済学	SSOL21016	講義		2									(石原敬子)	47
	化学	SNAL21017	講義		2									[阿部真幸]	48
	生物学	SNAL21018	講義		2									(佐藤隆)	49
	食と健康	SNAL21019	講義		2									(嶋津裕子)	50
	実用英語（初級）	SLAS21020	演習		2									[松盛美紀子]	51
	実用英語（中級）	SLAS22021	演習		2									[修曉寧]	53
	中国語（初級）	SLAS21022	演習		2									[修曉寧]	54
	中国語（中級）	SLAS21023	演習		2									[高秀美]	55
	韓国語（初級）	SLAS21024	演習		2									[高秀美]	56
	韓国語（中級）	SLAS21025	演習		2									(三宅一郎)	57
	健康・スポーツ科学（講義）	SPHL21026	講義		2									(矢野琢也)	58
健康・スポーツ科学（講義）	SPHL21026	講義		2									(三宅-)・(徳田)	59	
健康・スポーツ科学（演習）	SPHS21027	演習		2									(三宅-)・(徳田)・(梅本)	60	
健康・スポーツ科学（演習）	SPHS21028	演習		2									[三上嘉代子]	61	
私のためのキャリア設計	SCAL21029	講義		2											

は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目

は福祉教員免許必修科目

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成26年度（2014年度）入学者対象  
 ( )は兼任、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	教員免許 福祉	学年配当 (数字は週当り授業時間)				平成27年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年	2年	3年	4年		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2				2						
	英語	演習	2				2						
	コンピュータ演習	演習	2				2						
	生物基礎	講義		2				2					
教養科目	宗教と人生	講義	2					2					
	生命倫理学	講義		2								[古荘匡義]	32
	哲学	講義		2								[三浦摩美]	33
	文学	講義		2								(安井重雄)	34
	芸術	講義		2								[柳楽節子]	35
	芸術	講義		2								[岩見健二]	36
	心理学	講義		2								北島律之	37
	仏教と現代社会	講義		2								本多彰	38
	国際理解と宗教（キリスト教）	講義		2								[根川幸男]	39
	国際理解と宗教（イスラム教）	講義		2								[重親知左子]	40
	色彩とデザイン	講義		2								[浜島]・稲富	41
	法と社会	講義		2								[豊福一]	42
	日本国憲法	講義		2								[笹田哲男]	43
	人権の歴史	講義		2								[岩本智依]	44
	政治学	講義		2								(斎藤正寿)	45
	社会学	講義		2				2				吉原恵子	46
	経済学	講義		2								(石原敬子)	47
	化学	講義		2								[阿部真幸]	48
	生物学	講義		2								(佐藤隆)	49
	食と健康	講義		2								(嶋津裕子)	50
実用英語（初級）	演習		2								[松盛美紀子]	51	
実用英語（中級）	演習		2								[松盛美紀子]	52	
中国語（初級）	演習		2								[佟曉寧]	53	
中国語（中級）	演習		2								[佟曉寧]	54	
韓国語（初級）	演習		2								[高秀美]	55	
韓国語（中級）	演習		2								[高秀美]	56	
健康・スポーツ科学（講義）	講義		2								(三宅一郎)	57	
健康・スポーツ科学（講義）	講義		2								(矢野琢也)	58	
健康・スポーツ科学（演習）	演習		2								(三宅-)・(徳田)	59	
健康・スポーツ科学（演習）	演習		2								(三宅-)・(徳田)・(樽本)	60	
私のためのキャリア設計	講義		2									[三上嘉代子]	61

は社会福祉士国家試験受験資格必修科目  
 は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目  
 は福祉教員免許必修科目

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。



# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成25年度(2013年度)入学者対象  
( )は兼任、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	教員免許 福祉	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成27年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年	2年	3年	4年		
基礎科目	日本語(読解と表現)	演習	2				2						
	英語	演習	2				2						
	コンピュータ演習	演習	2				2						
	生物基礎	講義		2				2					
教養科目	宗教と人生	講義	2					2					
	生命倫理学	講義		2								[古荘匡義]	32
	哲学	講義		2								[三浦摩美]	33
	文学	講義		2								(安井重雄)	34
	芸術	講義		2								[柳楽節子]	35
	芸術	講義		2								[岩見健二]	36
	心理学	講義		2								北島律之	37
	仏教と現代社会	講義		2								本多彰	38
	国際理解と宗教(キリスト教)	講義		2								[根川幸男]	39
	国際理解と宗教(イスラム教)	講義		2								[重親知左子]	40
	色彩とデザイン	講義		2								[浜島]・稲富	41
	法と社会	講義		2								[豊福一]	42
	日本国憲法	講義		2								[笹田哲男]	43
	人権の歴史	講義		2								[岩本智依]	44
	政治学	講義		2								(斎藤正寿)	45
	社会学	講義		2				2				吉原恵子	46
	経済学	講義		2								(石原敬子)	47
	化学	講義		2								[阿部真幸]	48
	生物学	講義		2								(佐藤隆)	49
	食と健康	講義		2								(嶋津裕子)	50
実用英語(初級)	演習		2								[松盛美紀子]	51	
実用英語(中級)	演習		2								[松盛美紀子]	52	
中国語(初級)	演習		2								[佟曉寧]	53	
中国語(中級)	演習		2								[佟曉寧]	54	
韓国語(初級)	演習		2								[高秀美]	55	
韓国語(中級)	演習		2								[高秀美]	56	
健康・スポーツ科学(講義)	講義		2								(三宅一郎)	57	
健康・スポーツ科学(講義)	講義		2								(矢野琢也)	58	
健康・スポーツ科学(演習)	演習		2								(三宅-)・(徳田)	59	
健康・スポーツ科学(演習)	演習		2								(三宅-)・(徳田)・(樽本)	60	
私のためのキャリア設計	講義		2									[三上嘉代子]	61

は社会福祉士国家試験受験資格必修科目  
 は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目  
 は福祉教員免許必修科目

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成24年度（2012年度）入学者対象  
 ( )は兼任、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	教員免許 福祉	学年配当 (数字は週当たり授業時間)				平成27年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年	2年	3年	4年		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2				2						
	英語	演習	2				2						
	コンピュータ演習	演習	2				2						
	生物基礎	講義		2				2					
教養科目	宗教と人生	講義	2				2						
	生命倫理学	講義		2								[古荘匡義]	32
	哲学	講義		2								[三浦摩美]	33
	文学	講義		2								(安井重雄)	34
	芸術	講義		2								[柳楽節子]	35
	芸術	講義		2								[岩見健二]	36
	心理学	講義		2								北島律之	37
	仏教と現代社会	講義		2								本多彰	38
	国際理解と宗教（キリスト教）	講義		2								[根川幸男]	39
	国際理解と宗教（イスラム教）	講義		2								[重親知左子]	40
	色彩とデザイン	講義		2								[浜島]・稲富	41
	法と社会	講義		2								[豊福一]	42
	日本国憲法	講義		2								[笹田哲男]	43
	人権の歴史	講義		2								[岩本智依]	44
	政治学	講義		2								(斎藤正寿)	45
	社会学	講義		2			2					吉原恵子	46
	経済学	講義		2								(石原敬子)	47
	化学	講義		2								[阿部真幸]	48
	生物学	講義		2								(佐藤隆)	49
	食と健康	講義		2								(嶋津裕子)	50
実用英語（初級）	演習		2								[松盛美紀子]	51	
実用英語（中級）	演習		2								[松盛美紀子]	52	
中国語（初級）	演習		2								[佟曉寧]	53	
中国語（中級）	演習		2								[佟曉寧]	54	
韓国語（初級）	演習		2								[高秀美]	55	
韓国語（中級）	演習		2								[高秀美]	56	
健康・スポーツ科学（講義）	講義		2								(三宅一郎)	57	
健康・スポーツ科学（講義）	講義		2								(矢野琢也)	58	
健康・スポーツ科学（演習）	演習		2								(三宅一)・(徳田)	59	
健康・スポーツ科学（演習）	演習		2								(三宅一)・(徳田)・(樽本)	60	
私のためのキャリア設計	講義		2									[三上嘉代子]	61

は社会福祉士国家試験受験資格必修科目  
 は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目  
 は福祉教員免許必修科目

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	日本語(読解と表現)	科目ナンバリング	SBAS11001
担当者氏名	野田 直恵、辻本 恭子		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって、日本語の教養とコミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と定期試験(50%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くなどの課題を行うので、国語辞典(電子辞書も可)を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明・漢字の書き取り	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	漢字の書き取り・四字熟語	漢字の音読み・訓読みを理解し、同音異義語・同訓異義語を書き分ける。
3	漢字の書き取り・四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれど、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語・、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体について振り返り、授業内容をまとめる。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	SBAS11002
担当者氏名	小泉 毅		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《テキスト》

プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy English〕（長崎出版）

《授業の到達目標》

英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《参考図書》

NHKラジオの「新基礎英語」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表（40%）、宿題（30%）、小テスト（30%）

《授業時間外学習》

毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までです。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《備考》

1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会う ありがとう	小テスト、会話（挨拶）、Phonics（Alphabet）英検5級リスニングテスト
3	場所を聞く いつ練習するの？	小テスト、会話、Phonics（Alphabet）英検5級リスニングテスト
4	何時ですか？	小テスト、会話、Phonics（子音）英検4級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics（子音）英検4級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）英検3級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）英検3級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級（全体）
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級（全体）
10	～しましょうか？ ～しませんか？	小テスト、会話、Phonics（silent E）英検4級（全体）
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics（silent E）英検3級（全体）
12	～はいかがですか？と物を すすめる	小テスト、会話、Phonics（polite vowels）英検準2級（全体）
13	乗り物で行き先を尋ねる 道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics（polite vowels）英検5、4級の総復習
14	いい考えねと自分の考え をいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検3級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検準2級総復習

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	SBAS11002
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する。生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	まとめ or 自己評価	まとめ or 自己評価

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習		科目ナンバリング	SBAS11003	
担当者氏名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行います。

《授業の到達目標》

コンピュータやインターネットが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらを使いこなしていくための基礎知識を身につけられる。メールやインターネット、各種ソフトウェアの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

- (1) 平常点 (20%)
- (2) 提出課題 (80%)

《テキスト》

「学生のためのアカデミック情報リテラシー(2013対応)」, noa出版

《参考図書》

- ・情報モラル&情報セキュリティ, FOM出版
- ・Microsoft Word 2013 ドリル, FOM出版
- ・Microsoft Excel 2013 ドリル, FOM出版
- ・Microsoft PowerPoint 2013 応用, FOM出版

《授業時間外学習》

- 1) 予習の方法：次回の授業範囲のテキストに読んでおくこと。分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。
- 2) 復習の方法：授業範囲のテキスト・配布プリントを読み返すこと。分からない内容があるときは、関連図書を読んだり直接質問したりすること。

《備考》

- 1) 欠席した場合、次回までに自習する。プリントはオフィスアワーなどに受け取りに来る。2) 質問等はオフィスアワーなどに来る。授業時間直前は、質問や欠席回プリント要求は控える。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業概要の説明、学内情報システムに関する理解 実習室サインインアカウントの確認、パスワード管理方法の理解
2	Windowsの基礎、インターネットとメール(1)	Windowsの基本操作、 Webメールの送受信、署名の設定、連絡先機能の利用
3	インターネットとメール(2)	ファイル添付、メールに関するマナー 検索サイトの利用、検索オプションの活用
4	情報モラル	情報モラル、著作権・肖像権の理解 個人情報保護の理解
5	レポートをまとめる(1)	Wordの画面構成、ページ設定、表紙の作成、フッター、 フォントの装飾、インデント
6	レポートをまとめる(2)	表の作成、参考文献、脚注、全体の形式を整える、 印刷
7	Word演習課題	Wordを用いる演習課題
8	データを整理する(1)	Excelの画面構成、範囲指定、四則演算、SUM関数、AVERAGE関数等。 相対参照・絶対参照等。
9	データを整理する(2)	各種関数の利用。 セル書式の設定、罫線設定、グラフ作成、データの並べ替え、シート操作
10	Excel演習課題	Excelを用いる演習課題
11	スライド資料を作る(1)	目的、PowerPointの画面構成、スライド作成とプレゼンテーションの流れ、 テーマ、アウトラインペイン、入力
12	スライド資料を作る(2)	SmartArt、画面切り替え効果、アニメーション、スライドショー、 ノートの入力、スライドの印刷、リハーサル
13	PowerPoint演習課題	PowerPointを用いる演習課題
14	総合課題(1)	これまでのまとめとなる課題を行なう。
15	総合課題(2)	これまでのまとめとなる課題を行なう。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	生物基礎	科目ナンバリング	SBAL21004
担当者氏名	立谷 正樹		
授業方法	講義	単位・必修	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点を置いて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の免疫系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して総合的に評価します。  
(アチーブメントテスト70%、平常点30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能 細胞膜の性質	細胞は生物の基本単位。 細胞膜は半透膜・・・半透膜はどんな膜？
2	細胞をつくる物質	主役はタンパク質。 生体元素と生体を構成する化合物
3	酵素の機能と性質 体細胞分裂	酵素は働き者。生命現象と化学反応。 遺伝情報の分配。
4	小テスト 呼吸と光合成	生きるにはエネルギーがいる。 細胞がエネルギーを得る仕組み。
5	多様な生殖法 減数分裂	生物は寿命があるが、子孫を残す。生物はどのように増えるのか？ 染色体と遺伝子。遺伝的なバラエティーはどのようにして生まれるか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで。
7	遺伝 メンデルの遺伝の法則	遺伝の基本的なしくみ。
8	遺伝 様々な遺伝・ヒトの遺伝	親の形質の伝わり方。 あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
9	小テスト 核酸の構造と複製	遺伝情報の複製のしくみ。
10	タンパク質の合成	遺伝子からタンパク質へ。転写と翻訳。
11	神経細胞と伝導・伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク。
12	小テスト 血液・肝臓・腎臓の働き	体内の物質の移動・循環。 ものを作り、貯え、分解する化学工場（肝臓）、そして排出する浄化装置（腎臓）。
13	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ。内分泌系で持続的な調節。 自律神経とホルモンの連携で体内環境を調節。
14	免疫系	体を外敵から守るしくみ。
15	アチーブメントテスト	学習の総括。評価。

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」  
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

「タンパク質の一生 生命活動の舞台裏」  
永田和宏（岩波新書）  
「細胞のはたらきがわかる本」伊藤明夫（岩波ジュニア新書）  
「DNAがわかる本」中内光昭（岩波ジュニア新書）  
「カラー図説アメリカ版大学生物の教科書」全5巻  
グレイグ・H・ヘラー他著（ブルーバックス）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	宗教と人生	科目ナンバリング	SHUL11001
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修 開講年次・開講期 1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%  
 小テスト・レポート 約20%  
 定期テスト 約50%  
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	建学の精神	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
5	建学の精神：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
6	キリスト教を知る	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学ぶ
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
9	イスラームを知る	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
10	仏教を知る	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の仏教を知る	身近にある日本仏教の特性を理解することを目指す 建学の精神と関連の深い仏教の教えについて理解を目指す
14	日本の仏教を知る	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	建学の精神	建学の精神と仏教について理解を深め自ら考える

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。  
 仏教の本を読んでみよう。



科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	SHUL11002
担当者氏名	古庄 匡義		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

近年格段に進歩した生命科学や医療技術は、一方で私たちの生命の質を大幅に向上させましたが、他方で生や死、人間、家族などに関するこれまでの考え方を根底から揺るがしています。今後、科学技術の一層の進歩が見込まれる中で、私たち自身の生命についてどのように考えていけばよいかを、生命倫理学の立場から検討していきます。

《授業の到達目標》

- (1)生命倫理学の主要概念を説明できる。
- (2)倫理学の考え方をを用いて、生命倫理の具体的な問題を分析することができる。

《成績評価の方法》

- (1)授業中に作成するミニ・レポート(50%)
  - (2)学期末の試験(持ち込み不可、50%)
- ただし、授業の出席回数が授業実施回数の2/3を満たしていない場合は、定期試験の受験資格はありません。

《テキスト》

毎回配布するレジュメや資料を用いて授業を行います。

《参考図書》

田上孝一『本当にわかる倫理学』日本実業出版社、2010年；三井美奈『安楽死のできる国』新潮新書、2003年；E・キューブラー・ロス『死ぬ瞬間』中公文庫、2001年；村上喜良『基礎から学ぶ生命倫理学』勁草書房、2008年；F・ブルジェール『ケアの倫理』白水社、2014年；赤林朗『入門・医療倫理』勁草書房、2005・2007年。

《授業時間外学習》

授業に関連する小説や映画などの紹介も行いますので、気になった作品を鑑賞し、授業内容を参考にしつつ、その作品に関する自分の考えをまとめておいてください。学期中に、参考図書を少なくとも1冊読み通してください。

《備考》

受講者の関心に合わせて、講義で取り扱う学習内容や順序を適宜変更することがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業の進め方を説明する。倫理学がどのような学問なのかを理解する。
2	生命倫理学とは何か	医療資源の配分の問題を取り上げながら、生命倫理学がどのような考え方に基づいて、何を考察しているのかを理解する。
3	医療倫理の4原則	臓器移植などを例に、医療現場における倫理問題を考えるときの指針となる「医療倫理の4原則」を理解する。
4	自己決定権	現代の生命倫理学において重視されている「自律の尊重」と、それに対立する「パターナリズム」について理解する。
5	インフォームドコンセント	過去の事例を分析しながら、インフォームドコンセントの重要性と課題を理解する。
6	安楽死・尊厳死(1)	さまざまな事例をもとに、安楽死と尊厳死を2つの視点から分類して理解する。
7	安楽死・尊厳死(2)	海外と日本の安楽死の実情を把握し、各国が安楽死をめぐる抱えている問題を理解する。
8	人工妊娠中絶と出生前診断(1)	日本における人工妊娠中絶をめぐる状況や歴史的経緯を把握し、生命の尊厳や女性の自己決定権について理解する。
9	人工妊娠中絶と出生前診断(2)	出生前診断の発達によって生じてきた選択的人工妊娠中絶の問題を把握し、パーソン論の議論を理解する。
10	人工生殖技術(1)	人工生殖技術や生殖ビジネスの発展がもたらした現実を把握する。
11	人工生殖技術(2)	人工生殖技術が人間の生や家族について再考を迫っていることを理解し、これからの人間や家族のあり方を考える。
12	脳死と臓器移植	脳死や臓器移植に関するこれまでの議論を把握し、死を定義することの困難さを理解する。
13	ターミナルケア(1)	終末期におけるターミナルケアの方法や現状を把握し、終末期ケアの課題を理解する。
14	ターミナルケア(2)	終末期医療を例として、ケアの倫理の立場から生命倫理の考え方を再考する。
15	まとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

科目名	哲学	科目ナンバリング	SHUL11003
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。講義では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの間に提出された哲学上のいくつかの問題について概観しつつ、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行為と言語の関係について、現代哲学のテーマをもとに考察したい。

《授業の到達目標》

- ・「哲学」とはどのような知的営みであるかについて理解できるようにする。
- ・人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにするとともに、心身問題や思考と言語の関係といった哲学的問題について理解できるようにする。
- ・粘り強く考察できるようにする。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《テキスト》

板書を中心とした講義を行う。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることでさらに理解を深めるように努める。
- ・レポートをまとめる。

《備考》

- ・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
- ・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か	ガイダンス 「哲学」の創始および定義
2	哲学とは何か	古代自然哲学から近代の知識論へ
3	「知識」に関する自然主義と反自然主義	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度
4	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのか
5	「知識」の二つのあり方について	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識
6	ア・プリオリな知識の問題	知識論におけるプラトニズムおよび心理主義の問題
7	ア・プリオリな知識の問題	知識論における規約主義の問題
8	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における素朴实在論の問題
9	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における表象主義的实在論の問題
10	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における観念論と科学的实在論の問題
11	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における基礎付け主義の問題
12	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論と整合説の問題
13	心身問題における自然主義と反自然主義	心の現象と志向性の問題
14	心身問題における異なる立場	心身問題における随伴現象説、同一説および機能主義の問題
15	まとめ	これまでの議論の特徴について

科目名	文学	科目ナンバリング	SHUL11004
担当者氏名	安井 重雄		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

古典文学について講義し、「古典」とは何かを考える。日本の古典文学作品は数百年、あるいは千年以上もの間読み継がれてきている。なぜその作品が現代まで残り、「古典」となるのか。「古典」とはただ古い作品ということではない。授業では、いくつかの作品を取り上げて少しずつ読みながら、テーマや構想、文章、また作者と制作された時代について説明し、如上の問題を考える。

《授業の到達目標》

文学作品の言葉を読み解き、作品のテーマについて考え、また作者と時代について考えること。および、そのことによって文学および「古典」について深く理解することを目指す。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。その上で、授業時に提出する課題やレポートによる平常点(40%)、及び、定期試験(60%)によって評価する。

《テキスト》

毎回、プリントを配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

配布したプリントを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『万葉集』を読む	最古の歌集である『万葉集』は8世紀半ばに成立した。内容は、宮廷を中心としたもの、防人や東歌など労働に関するものなどさまざまである。その歌を考える。
3	『古今和歌集』を読む	905年に成立し、和歌を春夏秋冬に分類して日本の四季の認識を確立するなど以降の文学や人間生活に大きな影響を及ぼした作品である。その歌を考える。
4	『伊勢物語』を読む	主人公在原業平が東国に下ったり、高貴な女性を盗んだりなど、当時としては驚かされる行動をとる。すべての章段に和歌がある物語であり、歌をめぐる面白さを読む。
5	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第一部・第二部の、主人公光源氏の女性たちとの恋愛、またさまざまな困難を乗り越えて栄華に至り、さらに死を迎えるまでの物語を読む。
6	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第三部の、光源氏死後、その子薫と孫匂宮が宇治を舞台として浮舟など女性たちをめぐる争い、恋のはかなさを認識するに至る物語を読む。
7	『新古今和歌集』を読む	最高権力者後鳥羽院が自ら撰集した勅撰和歌集である。藤原定家らの歌は、古典和歌との関係によって制作され、古典とは何かを考えさせる。
8	『方丈記』を読む	鴨長明作『方丈記』は無常をテーマとして災害の記述で有名である。災害は住居の破壊に繋がる。住居とはどうあるべきかを語る長明の思考について考える。
9	『愚管抄』を読む	著者慈円は撰家出身である。時代は鎌倉幕府を無視できない歴史の転換期にきている。そのとき貴族は歴史をどのように捉えるのか、考える。
10	『宇治拾遺物語』を読む	文学の担い手は貴族層から、武士や庶民に広がっていく。優雅さだけが価値ではなく、時代は俗を取り込み変化する。貴族文学とは異なる美意識や価値観について考える。
11	『奥の細道』を読む	江戸時代に入り、平和が訪れ、安全な旅が可能になる。松尾芭蕉の旅を追いながら、俳諧と紀行について考える。
12	『五輪書』『葉隠』を読む	『五輪書』は宮本武蔵が兵法の極意について語ったもの、『葉隠』は鍋島藩士山本常朝が、理想的武士像について説いたものである。江戸時代の武士について考える。
13	『雨月物語』を読む	江戸時代に書かれた上田秋成作の怪異小説を二回に分けて読む。恐怖の中にも人間を見つめたテーマ設定がなされている。この回は「白峯」「菊花の契り」を読む。
14	『雨月物語』を読む	女性や異類を主人公とした怪異譚である、「吉備津の釜」「蛇性の姪」を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた古典文学についてふりかえり、「古典」とは何かについて考える。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術	科目ナンバリング	SHUL11005
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、日本について考えることでもあります。この講義では、現代美術作家の紹介とともに日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、について探ります。実物の資料をはじめ、視聴覚資料を多く提示し、受講生が日本美術の面白さを発見する手がかりとなる授業をめざします。

《授業の到達目標》

日常生活にある行事や習慣のなかに日本の美を見出すことができる。日本の文化について広く関心を持ち、自ら学ぶことができる。芸術全般を楽しむことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの提出（100%）により評価します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介 授業内容説明	教員の版画制作の経験と日本美術との関連性について聞くとともに、授業のこれからのありかたと計画の説明を理解する。
2	現代の美術作家紹介-1	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
3	現代の美術作家紹介-2	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
4	現代の美術作家紹介-3	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
5	現代の美術作家紹介-4	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
6	現代の美術作家紹介-5	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
7	日本人の信仰	自然崇拜 神道 仏教が美術に及ぼした影響を知り、日常生活にあるしきたりや習慣のなかにある日本の美を発見することができる。
8	仏教美術-1	仏教伝来から天平時代までの仏像を中心に鑑賞し、中国から朝鮮を経て日本に伝えられた仏像が、日本に定着していく過程の変化と魅力を感じ取ることができる。
9	仏教美術-2	平安時代の密教と鎌倉時代の禅宗について知り、それぞれに大きく異なる仏教信仰のありかたと、美術への表れを、鑑賞から感じ取ることができる。
10	日本の美術-1	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。倭絵 水墨画
11	日本の美術-2	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。狩野派 等伯
12	日本の美術-3	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。琳派
13	日本の美術-4	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。奇想の絵師
14	日本の美術-5	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。浮世絵
15	日本の美術-6	日本美術の特質について、そのいくつかをイメージすることができる。

《テキスト》

なし。

《参考図書》

『日本美術の特質』矢代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示します。

《備考》

レポートの作成と提出の要領については、12月中旬の授業時に連絡する予定です。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術	科目ナンバリング	SHUL11005
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代 ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス 印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派 現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	心理学	科目ナンバリング	SHUL11006
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。  
 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。  
 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%，レポート・小テストなど10%，受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣  
 (より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房  
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。  
 ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 §1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 §1~2, §6~7》
3	覚えているって、どういつこと？(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 §5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 §1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 §2~4》
8	君って、どんな人？(性格)	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って、どんな人？(性格)	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 §2~3》
11	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 §1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 §4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論・心理療法《第5章 §4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	SHUL11007	
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義では幅広く仏教文化を解説する。そして仏教と人間、グローバル社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。現代社会や文化を通して仏教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える  
 現代仏教についての理解をめざす  
 仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす  
 浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%  
 小テスト・レポート 約25%  
 期末プロジェクト 約45%  
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化と社会の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	基本となる教えについての理解をめざし社会や文化への影響について学ぶ
3	仏教・仏教文化の概説	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	仏教・仏教文化の概説	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
5	現代日本の仏教文化	現代の日本文化を取りあげて仏教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における仏教	社会を読み解くカギとして仏教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における仏教	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
8	仏教と社会	現代日本社会における仏教や仏教施設と人々との関わりについて学ぶ
9	浄土仏教の展開と日本浄土仏教	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
10	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
11	宗教多元世界と仏教	海外でみられる仏教の広がりについて学ぶ
12	宗教多元世界と仏教	海外で展開される仏教と日本仏教について理解する
13	宗教多元世界と仏教	グローバル社会における日本仏教と教えについて学ぶ
14	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《備考》

科目名	国際理解と宗教 (キリスト教)		科目ナンバリング	SHUL11008
担当者氏名	根川 幸男			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

本講義では、キリスト教の教義、歴史、現在、キリスト者などについて学ぶとともに、それを通じて国際理解を深める。キリスト教をめぐるさまざまな事柄を手がかりに、教師と学生がコミュニケーションを深めながら、自分たちの人生や将来、それを取りまく世界や社会、文化、人間関係などについて考える。

《授業の到達目標》

- \*キリスト教について学ぶことによって、世界の歴史や国際関係、人間関係について理解できるようになる。
- \*キリスト教について学ぶことによって、自分たちと異なる地域や集団の人々の文化や生き方が理解できるようになる。
- \*復習シートやレポート作成を通じて、自覚的にテーマを選び、資料を探し、考え、発信する能力を獲得する。

《成績評価の方法》

- \*毎回の講義後に提出する復習シート(40%)と期末レポート(40%)、授業参加態度(20%)を合算して評価する。
- \*授業の性格上、講義を聞き、教師とコミュニケーションすることが大切です。

《テキスト》

講義の際に適宜資料を配布する。

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著(PHP研究所)2004、
- 『ふしぎなキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸(講談社現代新書)2011、
- 『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編(岩波書店)2002

《授業時間外学習》

- \*その日の復習シートと質問(400字程度)をまとめ、次回の授業に提出する。用紙は授業ごとに配布する。
- \*キリスト教の正典である聖書にふれておく。
- \*配布資料が散在しないように整理しておく。
- \*新聞・雑誌等でキリスト教に関する記事があれば目を通し、できればコメント付きのコピーを提出

《備考》

- \*授業進行は概ね授業計画に拠るが、学生の理解度やニーズに応じて変更していく。
- \*携帯電話・メール使用、食事の禁止

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	何のためにキリスト教について学ぶのか? 講義の目的とシラバスの説明。履修学生のキリスト教との関わり、イメージについて問う。
2	国際問題と宗教1	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
3	国際問題と宗教2	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
4	聖書の世界観・人間観1	旧約聖書の物語を追いながら、ユダヤ・キリスト教の世界観・人間観を読み解いていく。
5	聖書の世界観・人間観2	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
6	聖書の世界観・人間観3	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
7	キリスト教の歴史1	イエスと彼の弟子たちによるキリスト教の成立からローマ帝国での国教化、東西教会の分裂とイスラム教との接触を概観する。
8	キリスト教の歴史2	宗教改革による旧教と新教の分裂、キリスト教会の変容・再編成、日本への伝道を世界史的視野で概観する。
9	キリスト教の歴史3	近現代におけるキリスト教の歴史と変遷、位置づけについて学び、その影響について考える。レポートのテーマ中間発表。
10	キリスト教と文化・芸術	キリスト教と西洋の文化・芸術について概観し、それが非西洋、特に日本の文化・芸術とどのように交渉をもったのかについて学ぶ。レポートのテーマ中間発表。
11	キリスト教と国際人口移動1	大航海時代以降の歴史を、宗教改革とキリスト教伝道の観点から読み解き、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのテーマ中間発表。
12	キリスト教と国際人口移動2	19~20世紀の人口移動をキリスト教の観点から読み解き、日本人の海外移民も含めて、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのアウトライン発表。
13	キリスト教と日本	日本に伝わったキリスト教がどのような影響を与えたのかを時系列的に概観し、自分たちの生活とどう関係しているのかを考える。レポートのアウトライン発表。
14	キリスト教の現在	生命、ジェンダー、中絶、同性愛、戦争、環境問題など、現代社会が抱えている問題を取り上げ、キリスト教との関係で読み解き、考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことをふりかえり、キリスト教がどのような宗教であり、自分たちとどう関わっているか、また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。



科目名	国際理解と宗教 (イスラム教)		科目ナンバリング	SHUL11009
担当者氏名	重親 知左子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラム教徒）の数は約16億人、総人口の1/5以上を占める。ムスリム訪日人数や国内のモスク（イスラムの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラムに関心を持ち、激動期に入ったイスラムをめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。日本とイスラムの関係史にも触れる。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事等も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラムに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(60%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(40%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
14	日本とイスラム(1)	奈良時代から江戸時代における日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。
15	日本とイスラム(2)	明治時代から現在に至る日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

白杵陽『世界史の中のパレスチナ問題』講談社、2013/小杉泰・長岡慎介『イスラムを知る12 イスラム銀行』山川出版社、2010/ 杉田英明『日本人の中東発見 逆遠近法のなかの比較文化史』東京大学出版会、1995/辻上奈美江『イスラム世界のジェンダー秩序』明石書店、2014/樋口真人他『国境を越える 滞日ムスリム移民の社会学』青弓社、2007

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムと接点を持つ（例：モスク見学）。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	色彩とデザイン	科目ナンバリング	SHUL11010
担当者氏名	浜島 成嘉、稲富 恭		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの様々な分野について理解する。

《授業の到達目標》

- ・一般教養としてのデザインに関する知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・社会とデザインの関わりについて理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

毎回の授業で示されるレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。授業ノートの提出が必要である。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業中に指示された課題を行う。授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

出欠規準については「栄養マネジメント学科」の申し合わせを用いる。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、デザインの基礎(1):色 色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
2	デザインの基礎(2):色色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明する。(担当:浜島)
3	デザインの基礎(3):色配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
4	デザインの基礎(4):かたち	「かたち」について、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。(担当:稲富)
5	デザインの基礎(5):素材	「素材」について椅子を分析対象として、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。(担当:稲富)
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	19世紀以降のデザインの歴史(アーツ・アンド・クラフツ~モダニズム)について概観し、近代国家の成立と工業化の影響について考察する。(担当:稲富)
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。(担当:浜島)
8	デザインの各分野(2):映像デザイン	映画・ドラマを対象に、映像作品の内容・形式・撮影技法について分析的に理解する。(担当:稲富)
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「実用的価値」、「美的価値」、「社会的価値」の表現について考察する。(担当:稲富)
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、デザインと色彩の関わりを中心に解説する。(担当:浜島)
11	デザインの各分野(5):ファッション	20世紀のファッション(ポール・ポワレ~コムデギャルソン)を取り上げ、社会の大衆化に伴うデザインの変遷について考察する。(担当:稲富)
12	デザインの各分野(6):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について解説する。サステイナブルな都市のあり方について考察する。(担当:稲富)
13	デザインと社会(1):社会体制とデザイン	アメリカ、南欧、北欧のプロダクトデザインを例に、国家の社会体制とデザインの関係について考察する。(担当:稲富)
14	デザインと社会(2):和風のデザイン	建築、茶、生け花、書画等における真行草の概念について考察し、和風デザインの歴史的な系譜について理解する。(担当:稲富)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲富)

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	法と社会	科目ナンバリング	SSOL21011
担当者氏名	豊福 一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

現在の日本社会において生活するうえで、法との関わりは避けて通ることのできないものである。そこで、日常生活と密接に関係すると思われる法制度について、その概略を紹介し、基礎的な法律知識への理解を深める。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活において目にしたり、耳にしたりする法律用語、あるいは遭遇した法律问题やトラブルにおいて、その最低限の意味を理解できるようになること。

《授業時間外学習》

予習は不要であるが、授業内容の性質上、講義を聞くことによって初めて知識を得ることができるので、積極的に出席するように。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出 (100%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり	日本の法制度の概略について理解し、今後の授業の流れも理解する。
2	土地・建物の賃貸借契約	賃貸借契約の内容、土地や建物を賃貸借する際に決めておくべきことやその注意点について理解する。
3	クレジット・キャッシング	クレジットカードやキャッシュカードを利用した金銭のやり取りに関する法律関係について理解する。
4	住宅・自動車ローン	住宅や自動車を購入する際に締結される売買契約とそれに関する法律関係、さらには不動産や自動車の登記・登録制度等について理解する。
5	住宅・自動車ローン	住宅や自動車を購入する際に金融機関からお金を借りる場合の法律関係とその注意点等について理解する。
6	債務の整理・清算	負担した債務（ローン）の返済が困難になった場合のその清算方法について、私的整理・公的整理に分けてその制度について理解する。
7	刑事事件	犯罪が発生し、その被疑者（容疑者）が逮捕された場合の刑事手続きの流れについて理解する。
8	刑事事件	逮捕された被疑者（容疑者）が起訴された場合の刑事裁判手続きについて理解する。
9	婚姻・離婚	結婚・離婚する場合の法律関係、注意点、さらに養子縁組や離縁についても理解する。
10	相続	相続人の範囲や順位、相続割合、遺言の書き方等相続に関する一般的知識を理解する。
11	成年後見制度	自らの財産を自らの意思で管理することが困難になった場合の主として高齢者保護のための成年後見の制度の概略を理解する。
12	交通事故	交通事故に遭遇した場合、どのような損害が発生し、それをどの程度賠償する必要があるのか、交通事故に関する一般的知識を理解する。
13	各種保険制度	日常生活に馴染みの深い自動車保険・生命保険・傷害保険・火災保険等の一般的知識を理解する。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟とは別に日常生活で市民が利用できる民事訴訟制度についてその概略を理解する。
15	知的財産権	著作権・特許権・意匠権・商標権等知的財産権の種類とその内容について、概略を理解する。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	SSOL21012
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006  
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	人権の歴史	科目ナンバリング	SSOL21013
担当者氏名	岩本 智依		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社  
 長野ひろ子・姫岡とし子『歴史教育とジェンダー 教科書からサブカルチャーまで』青弓社  
 岩本孝樹『「いのち」の保育 一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	部落差別と現代社会	「部落差別とは何か」を学ぶ。
4	部落差別と現代社会	部落差別と部落解放運動の歴史を学ぶ。
5	部落差別と現代社会	「身元調査」を通じて部落差別の現代的な課題を学ぶ。
6	教育と差別	いじめや体罰等、教育現場における差別の現実と反差別の教育としての「同和教育」を学ぶ。
7	いのちと人権	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権	障がい者差別について学ぶ。
9	いのちと人権	戦争やヘイト・クライムなど差別によっていのちを奪われた歴史を学び、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
12	性差別と現代社会	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

科目名	政治学	科目ナンバリング	SSOL21014
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実には起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。

現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年  
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年  
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学	科目ナンバリング	SSOL21015
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。  
 (配点：文章作成能力および知識の定着度45点)  
 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。  
 (配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2013, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000, 日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析 (4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類(社会的カテゴリー)
6	行為の分析 (5)予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレーム
8	学習の総まとめ(1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	学習の総まとめ(2)	「秩序の解読」「社会の構想」についてふりかえる
10	秩序の解読 (1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
11	秩序の解読 (2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
12	秩序の解読 (3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
13	秩序の解読 (4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
14	社会の構想 (1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
15	社会の構想 (2)国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズム

科目名	経済学	科目ナンバリング	SSOL21016
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益・協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」をとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。 その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化にかかわる問題、その解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を 用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動 を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について 考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。



科目名	化学	科目ナンバリング	SNAL21017
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《テキスト》

『コ・メディカル化学』  
 齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《参考図書》

特に指定しません（授業時に適宜紹介します）。

《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読んでおくこと。
- 各自で演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《成績評価の方法》

定期試験（80%）および授業中に行う小テスト（20%）を加味して総合的に判断します。

《備考》

- 授業中分からないところが有れば、その都度、挙手をして質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値	授業方針の説明 指数・有効数字、物理量と単位
2	化学結合と分子	イオン結合、金属結合、共有結合、配位結合、結合の極性、水素結合と分子間力
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、濃度
4	酸・塩基	酸と塩基の定義、価数と強弱、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、緩衝液
5	酸化・還元	酸化と還元、酸化・還元反応、電池の原理
6	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
7	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質
8	異性体と立体構造	構造異性体、立体異性体、光学異性体、シス・トランス異性体
9	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、律速段階、酸化・還元反応
10	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
11	糖類	単糖類、二糖類、多糖類
12	脂質類	単純脂質、複合脂質、生体膜、石けん（両親媒性分子）
13	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸の種類、（ポリ）ペプチド、タンパク質の立体構造、酵素
14	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能、ATP・ADP・AMP・リン酸
15	高分子化合物	高分子の種類、高分子化合物の分子構造、イオン交換樹脂

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生物学	科目ナンバリング	SNAL21018
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版（南雲保編、羊土社）

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻（デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳）

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

授業内容の予習と復習

《成績評価の方法》

定期試験（100%）により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能
2	生命体を構成する物質	アミノ酸、タンパク質、糖質
3	生命体を構成する物質	脂質、核酸、ビタミン
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系
6	光合成	光合成の機構
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化
9	多細胞生物の自己維持機構	細胞間情報伝達システム
10	多細胞生物の自己維持機構	恒常性（ホメオスタシス）、生体防衛機構
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病
12	生態系	生物と環境
13	生態系	環境問題、動物の行動
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	食と健康	科目ナンバリング	SNAL21019
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに 食を中心に消費生活全般における消費者力の向上を目指す。

《テキスト》

進行にあわせて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

「くらしの豆知識2015年版」 国民生活センター  
 「ハンドブック消費者2015」 消費者庁

《授業の到達目標》

基礎的な暮らしの知識、食品の機能性や食文化、食の安全・安心に関する知識、ライフサイクルに応じた消費生活のあり方について理解し、説明できる。

現在の日本の消費者問題を理解し、健全な消費生活のあり方について情報発信することができる。

自らの消費生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《成績評価の方法》

課題レポート・提出物（50%）、定期試験（50%）

《備考》

授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。

課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業内容や成績評価について説明する。食に関する法律や資格について理解する。
2	消費者問題と歴史	消費者被害と事例、消費者の権利を理解する。
3	消費者政策と行政	消費者行政と行政の対応、消費生活センターの業務等を理解する。
4	消費者教育とコンプライアンス経営	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成できる。
5	食品表示	食品の表示（法律による表示、保健機能食品、マークによる表示等）を理解し、選食力を修得する。
6	食品表示	食品の表示（法律による表示、保健機能食品、マークによる表示等）を理解し、選食力を修得する。
7	食の安全・安心	脅かされる食の安全（BSE、鳥インフルエンザ、農薬、食品添加物、寄生虫、食物アレルギー）について理解する。
8	食の安全・安心	脅かされる食の安全（BSE、鳥インフルエンザ、農薬、食品添加物、寄生虫、食物アレルギー）について理解する。
9	食の安全・安心	食中毒の予防（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、寄生虫）について理解する。
10	食の安全・安心	食中毒の予防（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、寄生虫）について理解する。
11	食の安全・安心	食品の流通・製造での安全安心（コールドチェーン、HACCP、トレーサビリティシステム）について理解する。景品表示法について理解する。
12	日本と世界の食料事情	食料自給率や食品ロス（食品廃棄）を通して、日本および世界の食料事情を理解する。
13	日本と世界の食料事情	フードマイレージ、食とエコ等食と環境について理解する。
14	消費者教育とコンプライアンス経営	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を修正し、情報発信ができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を修正し、情報発信ができる。情報交換ができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（初級）	科目ナンバリング	SLAS21020
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につけ、文法事項を再確認する。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』  
 (桐原書店、2015年)

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法事項：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法事項：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法事項：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法事項：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法事項：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法事項：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法事項：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞 (to do) や動名詞 (~ing) について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法事項：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法事項：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（中級）	科目ナンバリング	SLAS22021
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

TOEICに必要な語いを強化し、文法事項を再確認する。リスニングでは、応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。各テーマに沿った練習問題を繰り返し学習することで、必要な情報を的確に捉える力をつける。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford『Successful Keys to the TOEIC TEST 1(3rd Edition)―レベル別TOEICテスト総合トレーニング1（第3版）』（桐原書店、2015年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア500点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明、TOEIC Pre-Test
2	Unit 1 Daily Life	品詞の違い 広告を読む
3	Unit 2 Places	カードを読む
4	Unit 3 People	代名詞 図表と手紙を読む（1）
5	Unit 4 Travel	案内を読む
6	Unit 5 Business	動詞の形 通知・メモを読む
7	Unit 6 Office	手紙を読む
8	Unit 7 Technology	語い関連 図表と手紙を読む（2）
9	Unit 8 Personnel	記事を読む（1）
10	Unit 9 Management	接続詞 通知を読む
11	Unit 10 Purchasing	手紙とレシートを読む
12	Unit 11 Finances	時制 レシピを読む
13	Unit 12 Media	記事を読む（2）
14	Unit 13 Entertainment	前置詞 Eメールを読む
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	SLAS21022
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度30%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。  
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法  
CDを聞くこと  
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法  
CDを聞くこと  
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	SLAS21023
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。  
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。  
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。  
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。  
会話 簡単な日常会話ができる。  
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法  
CDを聞くこと  
新出単語をチェックすること
- ・復習の方法  
CDを聞くこと  
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	SLAS21024
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』  
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』  
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年  
 『パスポート朝鮮語小事典』  
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年  
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』  
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音 基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音 子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音 子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音 二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音 子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えると意味)について勉強する。
6	文化項目(1)：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(합니체)、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	～です・ですかの(해요체)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習する。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答



科目名	韓国語（中級）		科目ナンバリング	SLAS21025	
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

- 1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
- 2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
- 3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』  
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』  
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年  
 『パスポート朝鮮語小事典』  
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年  
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』  
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、「韓国語（初級）」を必ず受講してから「韓国語（中級）」を受講するのをすすめます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	「韓国語（初級）」の学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞)について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	健康・スポーツ科学（講義）	科目ナンバリング	SPHL21026
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《授業時間外学習》

<予習方法>  
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。  
<復習方法>  
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学（講義）		科目ナンバリング	SPHL21026	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出60%、期末の課題レポート20%、小テスト20%で評価します。出席回数が授業回数の2/3未満は評価対象外とします。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する(減量など)。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養(リカバリー)の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）	科目ナンバリング	SPHL21027
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
7	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
8	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
9	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
10	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
11	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
12	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
13	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
14	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館)  
『からだロジック入門』宮下充正(大修館)

《授業時間外学習》

<予習方法> シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
<復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）		科目ナンバリング	SPHL21028	
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）  
『からだロジック入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>  
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
<復習方法>  
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
随時テーマに対するレポート提出(20%)  
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計		科目ナンバリング	SCAL21029
担当者氏名	三上 嘉代子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》

この講義では、みなさん自身が学生生活の目的や目標を明確にし、それを実現するための考え方を学びます。さらに社会で求められる、マナーやコミュニケーション能力、課題解決能力等の養成にも取り組みます。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《成績評価の方法》

平常点(授業への取組姿勢) 50%、各分野の学習後に課するレポート 50%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック~自己理解編~』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備(自分を語るシート記入)、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表



平成 27（2015）年度入学者

専門教育科目



# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成27年度（2015年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

業 科 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	ナ バ リ ン グ	授 業 方 法	単 位 数		社 会 福 祉 士	P S W	高 等 学 校 教 諭 福 祉	学 年 配 当 （ <small>数字は週当たり授業時間</small> ）				平 成 27 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
				必 修	選 択				1 年	2 年	3 年	4 年			
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能及び疾病	SSPA11001	講義	2					2					(長尾 光城)	67
	心理学理論と心理的支援	SSPA11002	講義	2					2					北島 律之	68
	社会理論と社会システム	SSPA11003	講義	2					2					吉原 恵子	69
	相談援助の基盤と専門職	SSPA12001	講義	2						2					
	相談援助の基盤と専門職	SSPA12002	講義	2							2				
	介護概論	STTA22003	講義	2						2					
	法学	SFFA21004	講義	2						2				[塩見 佳也]	70
	行政法	SFFA21005	講義	2						2				[塩見 佳也]	71
	生涯発達心理学	SFFA21006	講義	2					2					原 志津	72
	こころの基盤の理解	SFFA22005	講義	2						2					
	コミュニケーション論	SFFA22006	講義	2						2					
	社会心理学	SFFA22007	講義	2						2					
	態度の心理学	SFFA22008	講義	2							2				
	教 相 談 援 助 共 通 目 的	現代社会と福祉	SSPB11009	講義	2					2					牧田 満知子
現代社会と福祉		SSPB11010	講義	2					2					牧田 満知子	76
社会保障論		SSPB12011	講義	2						2					
社会保障論		SSPB12012	講義	2							2				
社会調査の基礎		SSWB21011	講義	2					2					田端 和彦	77
高齢者に対する支援と介護保険制度		SSWB22013	講義	2						2					
高齢者に対する支援と介護保険制度		SSWB22014	講義	2							2				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度		SSPB22015	講義	2						2					
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度		SSWB22016	講義	2						2					
地域福祉の理論と方法		SSPB12017	講義	2							2				
目 的	地域福祉の理論と方法	SSPB13002	講義	2							2				
	保健医療サービス	SSPB23003	講義	2						2					
	医療ソーシャルワーク論	SFFB23011	講義	2							2				
	医療ソーシャルワーク演習	SFFB23012	演習									4			
	低所得者に対する支援と生活保護制度	SSPB22018	講義	2							2				
	権利擁護と成年後見制度	SSPB22019	講義	2							2				
	福祉行財政と福祉計画	SSPB23004	講義	2								2			
	福祉行財政と福祉計画（応用）	SFFB24002	講義	2									2		
	相談援助の理論と方法	SSPB12020	講義	4							4				
	相談援助の理論と方法	SSPB13005	講義	4								4			
	相談援助演習 A	SSPB12021	演習	2							2				
	相談援助演習 B	SSPB23006	演習	4								4			
	相談援助演習	SSPB23007	演習	4									4		
	相談援助演習（統合）	SFFB24003	演習	2									2		
目 的	相談援助実習指導	SSWB21012	実習	1						2				田端、稲富	78
	相談援助実習指導	SSWB22022	実習	1						2					
	相談援助実習指導	SSWB23008	実習	1							2				
	相談援助基礎実習	SFFB22013	実習	2						2					
	相談援助実習	SSWB23009	実習	4								12			
	専門ゼミナール	SFFB13010	演習	2							2				
	専門ゼミナール	SFFB13011	演習	2								2			
卒業演習	SFFB14004	演習	4									4			

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成27年度（2015年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	ナバリガ	授業 方法	単位数		社会 福祉士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	学年配当（数字は週当り授業時間）				平成27年度の 担当者	ページ		
				必修	選択				1年	2年	3年	4年				
専 門 教 育 目  相 談 援 助 基 盤 科 目	就労支援サービス	SSWC23012	講義	2							2					
	更生保護制度	SSWC24005	講義	1								1				
	福祉サービスの組織と経営	SSWC24006	講義	2									2			
	福祉サービスの組織と経営（応用）	SFFC24007	講義	2										2		
	心理検査法	SFFC23013	講義	2									2			
	臨床心理学	SFFC23014	講義	2									2			
	統計学の基礎	SFFC22023	講義	2							2					
	加齢及び障害に関する理解	STTC23015	講義	2									2			
	人体の構造及び日常生活行動に関する理解	STTC23016	講義	2									2			
	福祉住環境論	SFFC21001	講義	2					2						稲富 恭	79
	精神保健福祉に関する制度とサービス	SPSC22024	講義	2						2						
	精神保健福祉に関する制度とサービス	SPSC22025	講義	2							2					
	精神障害者の生活支援システム	SPSC23017	講義	2								2				
	精神疾患とその治療	SPSC22026	講義	2							2					
	精神疾患とその治療	SPSC22027	講義	2							2					
	精神保健の課題と支援	SPSC23018	講義	2								2				
	精神保健の課題と支援	SPSC23019	講義	2									2			
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	SPSC22028	講義	2							2					
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 A	SPSC23020	講義	2								2				
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 B	SPSC23021	講義	2									2			
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 A	SPSC23022	講義	2								2				
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 B	SPSC23023	講義	2									2			
	精神保健福祉援助演習（専門）A	SPSC23024	演習	2										2		
	精神保健福祉援助演習（専門）B	SPSC23025	演習	2											2	
	精神保健福祉援助実習指導	SPSC23026	実習	3										6		
	精神保健福祉援助実習	SPSC24009	実習	4										12		
専 門 展 示 科 目	レクリエーションワーク	SFFD22028	講義	2					2						原・[田島]	80
	福祉レクリエーション	SFFD22029	講義	2						2						
	福祉レクリエーション	SFFD23027	講義	2							2					
	福祉レクリエーション演習	SFFD22030	演習	2							2					
	福祉レクリエーション演習	SFFD23028	演習	2								2				
	生活支援技術	SFFD22031	演習	2							2					
	病気の理解	SFFD23029	講義	2							2					
	ケアマネジメント論	SFFD23001	講義	2									2			
	在宅ケア論	SFFD23032	講義	2									2			
	児童・高齢者・障害者の心理	SFFD21013	講義	2					2						原 志津	81
	教育心理学	STTD22032	講義	2							2					
	国際福祉論	SFFD22033	講義	2							2					
	インターンシップ	SFFD24010	実習	4										12		
社会福祉特別講義	SFFD20001	講義	2											不開講		
社会福祉特別講義	SFFD20002	講義	2											不開講		

は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目、 は精神保健士(PSW)国家試験受験資格選択科目

は福祉教員免許必修科目、 は福祉教員免許選択科目

は認定心理士免許必修科目、 は認定心理士免許選択科目

# カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成27年度（2015年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	学年配当（数字は週当たり授業時間）				担当者	ページ	
				必修	選択				1年	2年	3年	4年	平成27年度の担当者		
教職に関する科目	教職概論	STAL41001	講義	2					2					[砂子 滋美]	82
	教育原理	STAL41002	講義	2					2					(古田 薫)	83
	教育制度論	STAL42003	講義	2					2					(古田 薫)	84
	教育課程論	STAL42004	講義	2						2					
	福祉科教育法	STSW43001	講義	4							4				
	特別活動論	STAL42005	講義	2						2					
	教育方法・技術論	STAL42006	講義	2						2					
	生徒指導論	STAL42007	講義	2						2					
	進路指導論	STAL42009	講義	2							2				
	教育相談（含カウンセリング）	STAL41008	講義	2					2					原 志津	85
	事前・事後指導	STSW43002	演習	1								1			
	高等学校教育実習	STSW44003	実習	2									4		
	教職実践演習（高）	STSW44004	演習	2											2

は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目、 は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格選択科目

は福祉教員免許必修科目、 は福祉教員免許選択科目

は認定心理士免許必修科目、 は認定心理士免許選択科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を履修すること。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	人体の構造と機能及び疾病		科目ナンバリング	SSPA11001	
担当者氏名	長尾 光城				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

医学とりわけ臨床医学の近年の進歩はめざましく、疾病構造やそれに伴う医療も変化している。そこで、社会福祉関係者にも人体の構造と機能及び疾病への幅広い専門的理解と必要な知識を学べるよう指導する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病』（中央法規）

《参考図書》

①『新版 病気の地図帳』講談社（最新版）

《授業の到達目標》

授業終了時には、クライアントを支援する際に、疾病の特徴を理解し、疾病と生活との関連を考慮した支援を展開できるようになることを到達目標とする。

《授業時間外学習》

テキストの予習を心がけること。興味を持った医学関連の記事について自ら調べる習慣を持つこと。

《成績評価の方法》

授業態度（20%）  
レポート課題（30%）  
定期試験（50%）

《備考》

医学の入り口に立って、人体の構造、機能、疾病についての理解を深めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身体構造と心身の機能 1	部位名称について理解する。
2	身体構造と心身の機能 2	循環器・消化器系について学習する。
3	身体構造と心身の機能 3	神経内分泌・感覚器系について学習する
4	メタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームの診断基準および生活習慣について学習する。
5	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの診断基準及び予防について考える。
6	疾病の概要 1	生活習慣病－悪性腫瘍・脳血管疾患について学習する。
7	疾病の概要 2	生活習慣病－循環器・代謝疾患について学習する
8	疾病の概要 3	生活習慣病－呼吸・消化器・免疫・腎疾患について学習する。
9	疾病の概要 4	生活習慣病－泌尿器・整形外科・感覚器等疾患について学習
10	障がいの概要 1	感覚器・肢体・内部障がいについて学習する。
11	障がいの概要 2	知的・認知・精神等障がいについて学習する。
12	ドックと職場健診	職業と健康、健康診断について学習する。
13	感染症	感染症の治療と生活習慣について考える。
14	健康とはなにか	障がいを持っていても、持っていないでも健康に生活することの意義を考える。
15	生涯現役のすすめ	老いと健康について考え、生涯現役を過ごせるのか考える。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	心理学理論と心理的支援		科目ナンバリング	SSPA11002	
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力）</li> </ul>				

《授業の概要》

社会福祉領域で実践を行うためには、人間理解が欠かせません。本講義では教養科目「心理学」の基礎部分を確認しつつ、社会環境の中で生じる心の変化を学びます。特に、「対人交流」、「発達」、「ストレス」、「心理療法と見立て」に関する内容について中心的に解説します。

《テキスト》

「心理学理論と心理的支援—心理学」 [編集] 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規

《参考図書》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《授業の到達目標》

- 教養科目「心理学」の基本テーマについて論じることができる。
- 対人交流、発達、ストレス、心理療法と見立てといった主要テーマについて、理解し説明できる。
- 社会福祉と心理学の関わりを説明できる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。どういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。
- ・復習の方法 授業中に整理するプリントを中心に復習してください。その際、用語の意味を理解し覚えてください。

《成績評価の方法》

筆記テスト60% レポート・確認テスト等20% 受講態度20%

《備考》

本科目は、教養科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	心理学の歴史と分野
2	教養科目「心理学の復習」①	性格、感情
3	教養科目「心理学の復習」②	欲求と動機づけ、感覚・知覚・認知
4	教養科目「心理学の復習」③	学習・記憶、知能・創造性・思考
5	確認テスト	これまでのテーマ内容の確認テスト。後半は解説。
6	人間環境と集団	社会的認知、集団、福祉現場とのかかわり
7	対人交流とコミュニケーション	コミュニケーションの特徴、自己表現の方法(アサーション)
8	発達の概念①	子どもの発達心理学とこころの発達心理学
9	発達の概念②	生涯発達心理学をめぐって
10	適応とストレス①	ストレスと身体、ストレスに関する心理学的理論
11	適応とストレス②	ストレスと性格、ストレスと心理的反応、ストレスからの回復
12	面接・見立て	ソーシャルワーカーの見立ての面接と様々な心理テストに関する知識
13	心理療法	ソーシャルワーカーの面接と様々な心理療法
14	脳と心	脳の働きと高次脳機能障害
15	まとめ	全体のふりかえり

科目名	社会理論と社会システム		科目ナンバリング	SSPA11003	
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）</li> </ul>				

《授業の概要》

本講義は、ソーシャルワークの基本となる「人・社会・生活と福祉の理解」のうち社会理論と社会システムについて学習する。現代社会における個人と社会の関係について、社会理論に関する専門用語によって、体系的に理解するとともに、社会的現実や実態について科学的手続きによってアプローチができるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会理論と社会システム』社会福祉士養成講座編集委員会〔新・社会福祉士養成講座3〕（2014, 中央法規出版）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000, 日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学の理論における専門用語を習得して、現代社会の特徴を説明できる。
- (2) 人々の「生活」を構成する要素について体系的に学び、説明できる。
- (3) 社会問題について批判的に捉えるだけでなく、自分なりの考えをまとめて発表できる。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りのためファイリングして活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

- ミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
- 学習のまとめにより学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学的ものの見方	社会学の成立、社会学とは何か、個人と社会、社会学と社会福祉
2	現代社会の理解 (1) 社会システム	社会システム、社会指標、国民生活指標、新国民生活指標と行政評価、社会階層と社会移動
3	現代社会の理解 (2) 法とシステム	法の疎遠性、法の普遍性、法の不変性、開かれた法・・
4	現代社会の理解 (3) 経済と社会システム	交換と市場、市場における力の不均衡、市場の社会性と外部、労働市場と格差、経済の社会的制御
5	現代社会の理解 (4) 社会変動	社会変動、近代化、産業社会の発展、グローバル化
6	現代社会の理解 (5) 人口からみた社会変動	人口、人口転換、少子高齢化、人口の地理的分布
7	生活の理解 (1) 生活のとらえ方	生活構造の概念、ライフステージ、生活時間、生活様式、消費、生活の質
8	生活の理解 (2) 家族	家族の概念、家族の変容、家族の構造と形態、家族の機能、ジェンダーの視点、福祉国家と家族
9	生活の理解 (3) 地域	地域の概念、地域社会の集団・組織、都市化と過疎化、地域のグローバル化とエスニシティ
10	人と社会の関係 (1) 社会的行為と社会的役割	マイクロ-マクロリンク、社会的行為、秩序問題、自己と他者、役割と地位
11	人と社会の関係 (2) 社会集団と組織	社会集団の概念、集団の諸類型、集団のメカニズム、組織の概念、官僚制的組織
12	人と社会の関係 (3) 社会的ジレンマ	囚人のジレンマ、共有地の悲劇、社会的ジレンマ
13	人と社会の関係 (4) 社会関係資本・連帯	近代化と社会的連帯、社会関係資本の理論、社会的排除
14	社会問題の理解 (1) 日本社会と社会問題	社会問題の構築、新しい社会問題、転換期の社会問題、共生社会と権利、人権・生存権・社会権、社会運動、ネットワーキング
15	学習のまとめ	学習内容を適宜提示する

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	法学	科目ナンバリング	SFFA21004
担当者氏名	塩見 佳也		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）		

《授業の概要》

社会生活や社会福祉士に必要な基礎的法知識・考え方を学ぶ。法的責任を、誰が誰に対し、どのような根拠で、どう主張・実現してゆくか学び、併せて、法の背後に在る正義・福祉・人間の尊厳などについて考える。

《テキスト》

久塚純一ほか『医療・福祉を学ぶ人のための法学入門』法律文化社、2012（行政法も同じ）

《参考図書》

精神保健福祉士・社会福祉士養成セミナー 法学（出版社不問）  
池田真朗『スタートライン民法総論』日本評論社、2011  
同 『スタートライン債権法』日本評論社、2012

《授業の到達目標》

- ①契約に関する法的基礎知識を理解しうる。
- ②国試の出題中心となる民法（「権利擁護と成年後見」で扱う成年後見制度を除く）の基礎知識・考え方を身につける。
- ③裁判の手続・役割を理解しうる。

《授業時間外学習》

教科書のキーワードとスライドのイメージで説明された具体例を関連づけ説明できるよう復習すること。

《成績評価の方法》

- ①ペーパーテスト（60%）＋小テスト（20%）＋その他課題（20%）
- ②出席は小テスト・課題・クイズ等で確認。

《備考》

国試は「法学」「行政法」「権利擁護と成年後見」が3セットとなる。特に成年後見は履修せよ。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	①国家試験科目における法律関連科目の位置づけ ②社会福祉と契約 ③授業の予定
2	法学の基礎	①法学を学ぶ上での共通の約束事 - 民事事件と刑事事件の相違 - ②法律の読み方のルール
3	法・権利・義務・裁判	①犯罪捜査→起訴→裁判→処罰（刑罰） ②民事紛争と権利・義務 ③法的責任の種類
4	憲法入門	①人権とは何か？ ②人権の効力と司法審査 ③社会福祉と人権の関わり
5	民法① 法律上の「人」	民法上の「人」（未成年者、法人、代理人、消費者）と成年後見（概要）
6	民法②契約の基礎（1）	①契約の成立 ②契約の種類・一般法と特別法 ③取消と無効
7	民法③契約の基礎（2）	契約を実現する過程や実現そのものに問題がある場合のルール（債務不履行を中心に）
8	民法④ 物権法入門	不動産取引と民法 ①所有権と占有権 ②物権変動・対抗要件主義・登記
9	民法⑤ 債権法入門	借金と民法 ①担保物権 ②恐ろしい連帯保証 ②債権の実現と法律上の債権回収手段
10	民法⑥ 不法行為法入門	事故・名誉毀損・欠陥商品被害と裁判 ①過失責任主義 ②無過失責任主義
11	民法⑦家族法入門（1）	ライフスタイルと法 ①結婚と離婚 ②親子関係 ③ライフスタイルの多様化
12	民法⑧家族法入門（2）	相続の法 ①親族の範囲 ②相続のルール ③成年後見制度の利用
13	労働法入門	労働基準法などはたらく場面での基本的な法リテラシー
14	紛争解決の様々な仕組み	①裁判 ②執行・破産・再生 ③裁判外での紛争処理（ADR）や苦情処理
15	補充説明とまとめ	授業で扱えなかった問題についての補足、授業内容についての確認

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	行政法	科目ナンバリング	SFFA21005
担当者氏名	塩見 佳也		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

これから皆さんが学習する社会福祉行政に関する基礎知識を学ぶ。特に行政組織や地方自治、許認可・免許などの行政活動の仕方、行政活動の誤りなどに対する裁判等による市民の権利救済等の概要を学ぶ。

《テキスト》

久塚純一ほか『医療・福祉を学ぶ人のための法学入門』法律文化社、2012（法学も同じ）

《参考図書》

- ①原田大樹『例解行政法』（東京大学出版会、2013）
- ②吉田利宏『つかむつかえる行政法』（法律文化社、2011）
- ③政経や現代社会の教科書

《授業の到達目標》

- ①行政の活動の仕方を理解できる。
- ②行政組織の概要を理解できる。
- ③行政と市民の相互関係を理解できる。
- ④行政活動に問題がある場合の監視や法的救済を理解できる。
- ⑤社会福祉士国家試験問題を解くことができる。

《授業時間外学習》

予習と復習（上記参考図書は図書館にある）。毎回質問時間を設ける。授業のテーマと関連する新聞・ニュースなどの記事を紹介する。必要に応じ国家試験問題を素材に課題を実施する。

《成績評価の方法》

- ①ペーパーテスト（60%）＋小テスト（20%）＋その他課題（20%）
- ②出席は小テスト・課題・クイズ等で確認。

《備考》

法学を併せて履修すること。国試「権利擁護と成年後見」科目の一分野である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	①学習内容 ②社会福祉士国家試験科目との関連 ③社会福祉と行政 ④三権分立
2	国会・内閣・裁判所	①行政組織の概要 ②国会と内閣（議院内閣制） ③行政権と司法審査
3	行政権の力	①許可・免許 ②違反車両レッカー移動・違法建築とブルドーザー ③交通反則金
4	行政権と行政の組織	①行政権と「内閣」 ②行政組織・内部関係と外部関係 ③地方公共団体
5	激動の中の行政	①行政改革 ②地方分権改革 ③拡大する条例制定権 ④条例制定権の限界と法律
6	行政立法（行政基準）	①「委任立法」と「法律による行政」 ②法規命令と行政規則 ③「通達行政」とは？
7	行政指導とは？	①行政指導とは？ ②行政指導のメリット ③行政改革と行政手続法 ④情報公開
8	行政行為とは？	①行政処分 ②許可・免許とは？ ③申請と届出とは？
9	行政行為の効果と行政裁量	①行政行為の効力 ②行政行為の取消と無効
10	行政契約・行政計画	①公共事業の発注・民間委託 ②公害防止協定など ③行政計画と評価・統制
11	行政争訟① 行政救済手続	①不利益処分と行政不服申立手続 ②社会福祉での役割 ③その他の苦情処理
12	行政争訟② 行政事件訴訟法	「主婦連ジュース訴訟」と「新潟空港訴訟」を考える—行政が実現する「公益」—
13	行政争訟③ 抗告訴訟	①公害や建築紛争における周辺住民の「権利」とは ②重大な損害への行政の作為義務
14	行政争訟④ 国家賠償法	「公権力の行使」が違法である場合の裁判による救済—公園や学校等での事故の責任—
15	行政と個人情報保護	①個人情報保護法と医療・社会福祉活動



《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	生涯発達心理学	科目ナンバリング	SFFA21006
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> </ul>		

《授業の概要》

従来の「発達心理学」は、乳幼児期から青年期までをその領域としていたが、近年の人の長寿化傾向と高齢化社会を背景に、成人期から高齢期までを含む「生涯発達心理学」として考えられるようになってきた。この授業では、人間の誕生前後から死に至るまでの一生涯を対象とし、人は一生発達し・成熟していくという存在であるということを様々な教材を用いて考えていきたい。

《授業の到達目標》

発達心理学や生涯発達心理学で用いられる基礎的な用語について説明できる。  
 発達段階ごとの発達課題や発達段階の問題について説明できる。  
 自分自身を生涯発達する者として認識し、向上しようとする意欲が持てる。また出会う人に対しても、そのような意識をもって尊重し、その方の可能性を見いだせるような視点を持てる。

《成績評価の方法》

受講態度 30%  
 日常のレポート 20%  
 授業最終日のまとめ 50%

《テキスト》

「老いる」とはどのようなことか 河合隼雄 講談社+α文庫  
 (本体640円)

《参考図書》

授業中に随時紹介する

《授業時間外学習》

人生に関する新聞記事などの印刷物を目にしたらメモしておく。終末期を考える講演会などに積極的に参加し最新の生涯福祉の情報を得て今後活かせるように学ぶ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	生涯発達心理学の考え方を知る
2	胎児期・新生児期	ヒトとしての発達は、胎内にいる時から始まっているのか、ということを考える
3	乳児期	乳児が「泣く」ことと母親との相互関係について学ぶ
4	幼児期	幼児期に獲得する力・社会性の発達について知る
5	児童期	児童期に獲得する力を知る
6	青年期①	思春期について知る
7	青年期②	アイデンティティの統合について考える
8	成人期①	他者と社会との関わりについて知る
9	成人期②	一人前になること（パートナーとの関係・仕事・子育て）について考える
10	中年期①	中年期の危機について知る
11	中年期②	『人生の後半からの心理学』ユングの心理学について知る
12	高齢期①	時計の時間とこころの時間について考える
13	高齢期②	高齢者の知恵をどのように発揮するか考える
14	生涯発達心理学	死に至るまでの限りある生をいかに生きるか・自己実現について考える
15	生涯発達心理学のまとめ	全体のふり返しを行う

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	基礎ゼミナール I		科目ナンバリング	SFFA11007
担当者氏名	稲富 恭、吉原 恵子、本多 彩			
授業方法	演習	単位・必修	4・必修	開講年次・開講期
				1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input checked="" type="radio"/> 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） <input type="radio"/> 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）			

《授業の概要》

本演習は、大学ではじめて学ぶ者が、(1)学ぶ空間であるキャンパスにできるだけ早く慣れ、(2)大学の授業を受けるための基礎的学習スキルを身につけ、(3)4年間の見通しをもって専門教育への準備ができるようになること、また、学生生活を自分自身で設計できるようになることを目的としている。この演習は少人数で構成され、相互に交流をはかりながら、個々の能力を開発し発揮することをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 大学生活に慣れる
- (2) 大学での学び方を身につける
- (3) 大学生に必要な学習スキルを習得する
- (4) 4年間の学習方針を明確にする
- (5) 社会福祉分野における基礎的知識を習得する

《成績評価の方法》

・授業への参加態度およびグループ活動への参加（配点：意欲・関心、協力性20点）  
 ・課題、提出物（配点：知識とスキルの獲得度80点）  
 ・課題提出が遅れた場合は減点対象とする。

《テキスト》

なし

《参考図書》

『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』吉原恵子・間渕泰尚・富江英俊・小針誠（2011、実教出版）『知へのステップ（改訂版）』学習技術研究会編（2007、くろしお出版）『プラクティカル・プレゼンテーションスキル』上村和美・内田充美（2005、くろしお出版）『大学生の学び・入門』溝上慎一（2006、有斐閣アルマ）

《授業時間外学習》

ほぼ毎回課題が出されるので、提出要領にしたがい、指定期日・提出場所を守って提出すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション(1)	0. アイスブレイク 1. オリエンテーション 担任、アンケート、シラバス、履修等を理解する 2. プレゼンテーションソフトを用いた自己紹介を行う
2	オリエンテーション(2)	1. 講義の受け方、ノートテイキング、予習復習の方法等について確認する 2. 図書館、学習支援センター等の学習をサポートする施設について理解する
3	オリエンテーション(3)	1. 国家試験の概要と内容について理解する 2. 対人関係を形成するためのレクリエーションについて学ぶ
4	大学の理解(1)	1. 兵庫大学について理解する 2. バリアフリーについて理解し、学内バリアフリー調査を計画する
5	大学の理解(2)	1. バリアフリーと車いすによる移動について理解する 2. グループで車いすによる学内探索を行う
6	大学の理解(3)	1. 学内バリアフリーマップを作成する 2. グループ発表を行う
7	クラスの理解(1)	1. アンケート手法について理解する。クラスの仲間を知るためのアンケートをワープロソフトを用いて作成する 2. アンケートを実施する
8	クラスの理解(2)	1. 表計算ソフトを用いてアンケートの集計と分析を行う 2. アンケート結果を、プレゼンテーションソフトを用いて発表する
9	社会福祉の各分野とキャリアの理解(1)	1. キャリア課、就職活動、面接、自己紹介、SPI試験について理解する 2. 社会人マナーについて学ぶ
10	社会福祉の各分野とキャリアの理解(2)	1. 障害者福祉分野について学ぶ(ゲスト:学科内教員) 2. 児童福祉分野について学ぶ(ゲスト:学科内教員)
11	社会福祉の各分野とキャリアの理解(3)	1. 高齢者福祉分野について学ぶ 2. 高齢者施設でのレクリエーションを企画する(ゲスト:学科内教員)
12	社会福祉の各分野とキャリアの理解(4)	1. 医療福祉分野について学ぶ(ゲスト:学科内教員) 2. 医療福祉分野の仕事について理解する(ゲスト)
13	社会福祉の各分野とキャリアの理解(5)	1. 地域福祉分野について学ぶ(ゲスト:学科内教員) 2. 地域の福祉施設について理解する
14	夏期ボランティアの準備とI期のまとめ	1. 実習計画書・報告書の書き方を学ぶ 2. I期のまとめとしての小テストを実施する 3. 夏期ボランティアのガイダンス
15	夏期ボランティア	高齢者施設、知的障害者施設でのボランティア実習を行う(※授業開講日変更予定)

科目名	基礎ゼミナールⅡ		科目ナンバリング	SFFA11008
担当者氏名	稲富 恭、吉原 恵子、本多 彩			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）			

《授業の概要》

I 期に引き続き、学習スキルの習得を基本とするが、半期を通じて地域コミュニティをテーマとする具体的な課題に取り組み、より実践的な能力を身につける。こうした学習を通して、福祉を学ぶ者に必要な汎用的能力を養う。

《授業の到達目標》

- (1) グループワークによって地域コミュニティの課題に取り組み、理解力、分析力、問題解決能力を身につける
- (2) 基礎的なプレゼンテーション能力を習得する
- (3) ボランティアを通して福祉サービスの利用者について理解する
- (4) 大学生に求められる学習スキルを習得する

《成績評価の方法》

- ・ 授業への参加態度およびグループにおける活動への参加（配点：意欲・関心、協力性30点）
- ・ 課題、提出物（配点：知識とスキルの獲得度70点）
- ・ 課題提出が遅れた場合には、減点対象とする。

《テキスト》

なし

《参考図書》

- 『スタディスキルズ・トレーニング 大学で学ぶための25のスキル』吉原恵子・間渕泰尚・富江英俊・小針誠（2011, 実教出版）
- 『知へのステップ（改訂版）』学習技術研究会編（2007, くろしお出版）
- 『大学生の学び・入門』溝上慎一（2006, 有斐閣アルマ）

《授業時間外学習》

ほぼ毎回課題が出されるので、提出要領にしたがい、指定期日・提出場所を守って提出すること。また、グループ活動については、グループごとの時間管理、役割分担、共同作業について、記録を取り担当教員へ提出すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	夏期ボランティア	1. 夏期休暇中に作成した課題の発表と反省を行う 2. 夏期ボランティア報告書の発表、反省を行う
2	地域の理解(1)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
3	地域の理解(2)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
4	秋期ボランティア	知的障害者通所授産施設でのボランティアを行う（※授業開講日変更予定）
5	地域の理解(3)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
6	地域の理解(4)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
7	地域の理解(5)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
8	地域の理解(6)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
9	地域の理解(7)	地域コミュニティを理解、分析するためのグループワークを実施する
10	基礎ゼミナール成果発表会	基礎ゼミナールの成果を学外で発表する（※授業開講日変更予定）
11	基礎ゼミナール成果発表会の反省	基礎ゼミナール成果発表会の反省と個人報告書作成について学ぶ
12	基礎ゼミナール成果発表会報告書の作成(1)	基礎ゼミナール成果発表会の報告書作成を行う
13	基礎ゼミナール成果発表会報告書の作成(2)	基礎ゼミナール成果発表会の報告書作成を行う
14	1年のまとめ	1年間の学習成果について確認し、次年度への対応を検討する
15	卒論発表会への参加	卒論発表会の準備と聴講を行う（※授業開講日変更予定）

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	現代社会と福祉 I	科目ナンバリング	SSPB11009
担当者氏名	牧田 満知子		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修 開講年次・開講期 1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> <li>○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> </ul>		

《授業の概要》

本講義では、社会福祉の理念、理論を中心に、社会福祉の形成過程を学ぶ。さらに社会福祉の制度、構造および機能についての理解を深め、さまざまな社会問題を、資料やデータ等に基づいて考察する力を養う。適宜史料や新聞記事、またVHSやDVDなどの視聴覚教材を用い、受講生が知的好奇心を持って論理的、批判的、かつ総合的な視点から社会問題を分析し、議論し、結論へと導いていくことが出来るよう指導する。

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の理念、理論を理解し説明できる。(2) 福祉政策、法体系、およびその制度の運用を理解し説明できる。  
(3) 社会福祉問題を総合的視点に立って論理的に分析し、批判的に思考し、自分なりの解決策を提示することができる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果 (20%) (2) レポート課題等の提出物 (30%) (3) 定期試験 (50%)

《テキスト》

社会福祉士シリーズ (4) 『現代社会と福祉』 弘文堂

《参考図書》

『人口減少時代の社会福祉学』 小田謙三他編著、ミネルヴァ書房『国民の福祉の動向2011/ 2012』（財）厚生統計協会編

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。(2) 復習：自ら授業内容の再確認を行うこと。理解が十分でない項目などに関しては、積極的に担当者に質問し、毎回の授業を確実なものにしていく努力が望まれる。授業では 適宜、観連図書などの紹介も行う。

《備考》

毎日、新聞の社会欄に目を通すこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1年の講義の全体の紹介、講義計画、受講方法（予習・復習、H.Wなど）、社会福祉に関わる基本文献の紹介などを行う。
2	社会福祉の概念 (1)	社会福祉を学ぶことの意義、概要を理解する。
3	社会福祉の概念 (2)	社会福祉政策のシステム、構造を理解する。
4	社会福祉の理論 (1)	社会福祉の基礎理論を理解する。
5	社会福祉の理論 (2)	日本の社会福祉の理念（孝橋、岡本）思想家（石井、片山ら）の社会福祉思想を理解する。
6	社会福祉の理念 (1)	生存権、Q.O.Lなどの基本的人権に関わる社会福祉理念を学ぶ。
7	社会福祉の理念 (2)	ソーシャル・インクルージョン、普遍主義と選別主義など、現代社会における福祉理念を学ぶ。
8	日本の社会福祉の歴史 (1)	福祉概念の発祥と近代へと続く展開過程を把握し、日本の社会福祉の構造を理解する。
9	日本の社会福祉の歴史 (2)	現代の社会福祉のさまざまな政策が生み出される背景としての歴史を把握する。
10	諸外国の社会福祉の歴史	英国の社会福祉の歴史を把握し、貧困救済と防貧の考え方の展開過程を理解する。
11	社会福祉の思想と哲学 (1)	市場の論理と倫理、市場的分配の倫理、市場の失敗等について事例をもとに考察し理解を深める。
12	社会福祉の思想と哲学 (2)	J. ロールズ（ベーシック・インカム論）、A. セン（潜在能力理論）について事例をもとに考察し理解を深める。
13	社会福祉の法と制度 (1)	社会福祉の法制度に理解する。社会福祉六法、社会福祉法について理解する。
14	社会福祉の法と制度 (2)	社会福祉に関連する法について理解する。
15	I期のまとめ	I期のまとめ。質疑応答によって理解を確実なものとする。

科目名	現代社会と福祉Ⅱ	科目ナンバリング	SSPB11010
担当者氏名	牧田 満知子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> <li>○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> </ul>		

《授業の概要》

本講義では、社会福祉の理念、理論を中心に、社会福祉の形成過程を学ぶ。さらに社会福祉の制度、構造および機能についての理解を深め、さまざまな社会問題を、資料やデータ等に基づいて考察する力を養う。適宜史料や新聞記事、またVHSやDVDなどの視聴覚教材を用い、受講生が知的好奇心を持って論理的、批判的、かつ総合的な視点から社会問題を分析し、議論し、結論へと導いていくことが出来るよう指導する。

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の理念、理論、歴史を理解し、説明できる。
- (2) 社会福祉政策、法体系、福祉制度、福祉サービスを理解し、その連携および運用について説明できる。
- (3) 社会福祉問題を総合的視点に立って論理的に分析し、批判的に思考し、自ら解決策を提示する事ができる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果 (20%)
- (2) レポート課題等の提出物 (30%)
- (3) 定期試験 (50%)

《テキスト》

社会福祉士シリーズ（４）「現代社会と福祉」弘文堂

《参考図書》

『国民の福祉の動向 2012/2013』（財）厚生統計協会

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行うこと。理解が十分でない項目等に関する積極的な質問は歓迎する。研究室で個別に対応する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ニーズと資源（１）	福祉におけるニーズを学ぶ。ブラッドショー、三浦らのニーズ論を、事例問題を読み解きながら理解を深める。
2	ニーズと資源（２）	さまざまな社会資源と、その連携、運用について理解する。
3	福祉政策と社会問題（１）	少子高齢社会の現状をデータ、統計等で把握し、過疎、限界集落の問題などについて学び、理解を深める。
4	福祉政策と社会問題（２）	生活保護の問題を扱う。資料などを手掛かりに保護行政についての理解を深める。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
5	福祉政策と社会問題（３）	外部講師を招き、あいりん地区の歴史、西成特区の課題、ホームレス問題などについて、現状をお話しいただく。受講生とともに議論を深め、解決策を模索する。
6	福祉政策と社会問題（４）	児童養護施設、児童手当などの子どもの育成に関わる諸問題を考える。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
7	福祉政策と社会問題（５）	障害者虐待防止法を中心に、障害者の地域での受け入れ、就労支援について理解を深める。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
8	福祉政策の論点（１）	効率性、公平性、社会正義について事例問題を読み説きながら理解を深める。
9	福祉政策の論点（２）	福祉に関わる「ジェンダー・バイアス」の問題を、事例問題を読み説きながら理解を深める。
10	福祉政策の論点（３）	社会的排除、社会的包含について考察を深める。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
11	国際社会と福祉問題（１）	ユニセフ、世界銀行、JICAなどの活動を通して、開発途上国における福祉問題を理解する。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
12	国際社会と福祉問題（２）	移動する介護労働力（外国人看護師・介護福祉士）の問題を理解し、日本が直面する課題を議論する。
13	福祉供給と経済（１）	雇用と格差社会の問題について理解を深める。適宜VHSやDVDで現状理解の補足をする。
14	福祉供給と経済（２）	近代経済学（ケインズ）の視点から、福祉の財政問題について考察する。内部講師を招き、基本的な近代経済学理論を教授していただき、理解を深める。
15	Ⅱ期まとめ	Ⅱ期のまとめ。質疑応答によって、理解をより確実なものにする。

科目名	社会調査の基礎	科目ナンバリング	SSWB21011
担当者氏名	田端 和彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）		

《授業の概要》

社会調査の意義と歴史を学びます。量的な調査方法ではアンケート調査の一連の手続き、そしてデータを整理しそこから社会的事象を見出すための統計的な知識を身につけます。質的な調査方法では、観察、インタビューの方法を学びます。社会調査を行う上での注意事項についても理解します。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規

《参考図書》

授業内で指示します。

《授業の到達目標》

アンケート、取材、観察などソーシャルワークに必要な社会調査の手法を身に付けることができます。統計表を読み取り、また集めたデータを整理して示し、社会事象を読み取るために統計に関する基礎的な知識を身につけます。これらを通し、地域社会での社会的弱者のおかれた総合的な状況を理解することができます。

《授業時間外学習》

事前にテキストの指示する部分を読んでおいてください。3回に1回程度宿題を課しますので、それを行ってください。授業の実施に必要です。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80%）。このほか授業態度も評価に含めます（20%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	社会福祉分野で社会調査が必要な背景、国家試験での位置づけなどを説明します。
2	社会調査の歴史1	ブースの貧困調査など社会調査の歴史を振り返り社会福祉での位置づけを行います。
3	社会調査の歴史2	社会調査と関係の深い統計の歴史を踏まえ民主的な公的統計のあり方を学びます。
4	日本の統計制度	日本の統計制度を統計法をもとに解説をし、社会福祉に必要な統計について学びます。
5	量的統計と質的統計	公的統計など量的調査と観察など質的統計の違いを学びます。
6	アンケート調査1	アンケート調査に必要な集団の考え方を理解し、母集団から標本集団を抽出する方法を学びます。
7	アンケート調査2	調査の設計と調査目的の明確化、また調査票の配布回収方法を学びます。
8	アンケート調査3	調査の設計と調査目的の明確化、また調査票の配布回収方法を学びます。
9	調査結果の分析1	尺度水準などデータ分析の基本とデータの整理と記述統計、集計など基本的な分析の手法を学びます。
10	調査結果の分析2	引き続き、記述統計、集計など基本的な分析の手法を学びます。
11	調査結果の分析3	回帰分析、相関分析など2変数以上の変数についての分析方法を学びます。
12	調査結果の分析4	仮説検定の基本的なことを学び、その概念を理解します。
13	インタビューの手法	構造化インタビュー、非構造化インタビューについて理解します。インタビューの記述方法について学びます。
14	観察の方法	参与観察、非参与観察の特徴と違いを理解します。
15	個人情報保護と社会調査の結果の利用	個人情報保護の重要性を理解します。調査の実施や公表に関する倫理について理解します。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習指導 I		科目ナンバリング	SSWB21012
担当者氏名	田端 和彦、稲富 恭			
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> </ul>			

《授業の概要》

実習先となる、高齢者施設、障害者支援施設、児童養護施設、医療機関、社会福祉協議会等地域福祉関連施設における利用者やそこでの支援内容、さらに社会福祉士の役割をビデオ教材なども使いながら紹介するとともに、実際の施設を見学します。また社会福祉士に対する取材を行って、そのやりがいなど専門職の思いや実態を聞き取ります。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会（監修）、白澤 政和、米本 秀仁編  
「社会福祉士相談援助実習」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業の到達目標》

実習を行う分野に関わる施設について、それぞれの施設等での利用者や職員体制、提供される具体的なサービス内容・支援体制、さらには地域との関係などを理解するとともに、特にソーシャルワークの専門職職である社会福祉士の役割を理解します。

《授業時間外学習》

授業の中で宿題を課します。

《成績評価の方法》

授業でのグループワークの状況、授業内で課すレポートなど通常点（100%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	相談援助実習指導 I の位置づけ、目的、課題を学びます。
2	ソーシャルワーカーとは何か①	サービスと社会正義、人間の尊厳と人間関係等ソーシャルワークの概念を踏まえ、専門職であるソーシャルワーカーの役割を学びます。
3	ソーシャルワーカーとは何か②	引き続き、専門職であるソーシャルワーカーの役割を学びます。
4	社会福祉士の働く職場とは（分野別基礎学習①）	高齢者施設の現状、利用者の特徴、支援内容、社会福祉士の役割を学びます。
5	社会福祉士の働く職場とは（分野別基礎学習②）	障害者支援施設の現状、利用者の特徴、支援内容、社会福祉士の役割を学びます。
6	社会福祉士の働く職場とは（分野別基礎学習③）	児童養護施設の現状、利用者の特徴、支援内容、社会福祉士の役割を学びます。
7	社会福祉士の働く職場とは（分野別基礎学習④）	社会福祉協議会等、地域福祉の支援施設の現状、利用者の特徴、支援内容、社会福祉士の役割を学びます。
8	社会福祉士の働く職場とは（分野別基礎学習⑤）	医療機関の現状、利用者の特徴、支援内容、社会福祉士の役割を学びます。
9	実習報告会への参加①	実習報告会に参加し、2年生、3年生の実習の実態を学びます。
10	実習報告会への参加②	引き続き、実習報告会に参加し、2年生、3年生の実習の実態を学びます。
11	社会福祉士の働く現場の見学（事前学習）	社会福祉士の働く現場を見学し、社会福祉士に取材を行うための事前学習としてグループワークなどで考えます。
12	社会福祉士の働く現場の見学①	社会福祉士の働く現場を見学します。
13	社会福祉士の働く現場の見学②	引き続き、社会福祉士の働く現場を見学します。
14	見学・取材のまとめ①	社会福祉士の働く現場と取材の結果について、事後学習としてグループワークなどで考えます。
15	見学・取材のまとめ②	引き続き、社会福祉士の働く現場と取材の結果について、事後学習としてグループワークなどで考え、報告をします。

科目名	福祉住環境論	科目ナンバリング	SFFC21014
担当者氏名	稲富 恭		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

高齢者、障害者が地域社会の中で普通の生活を送るためには、福祉の視点にたった住環境整備を欠かすことが出来ない。本講義では、(1)住環境整備の背景となる社会福祉の現状について概観するとともに、(2)住宅改修、バリアフリー、ユニバーサルデザインを中心に福祉住環境整備手法について学ぶ。

《テキスト》

「福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改訂3版」東京商工会議所, 2015

《参考図書》

「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級過去問題集 2015年版」HIPS合格対策プロジェクト, 2015

《授業の到達目標》

- 福祉住環境コーディネーター3級に相当する能力を身につける。
- 生活環境の不適合に対して、物理的な問題解決手段を提案する事ができる能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法  
シラバスを参考に、テキストの該当箇所に目を通し、疑問点を明確にしておく。
- ・復習の方法  
テキストの必要箇所を暗記する。配布プリントの問題を復習し、次回の小テストの準備を行う。

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施する小テスト(100%)によって評価する。

《備考》

原則として「福祉住環境コーディネーター検定試験3級」の受験を目指す学生を対象とする。  
試験日程に合わせて、開講日を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	少子高齢社会と福祉住環境整備	少子高齢社会の現状と今後のあり方について理解する
2	日本の住環境と福祉住環境整備	日本の住空間の特性と福祉住環境整備の必要性について理解する
3	福祉住環境と在宅ケア	介護保険制度と障害者総合支援法を中心に在宅生活の支援について理解する
4	高齢者の健康と生活	老化の特性とヘルスプロモーションについて理解する
5	障害者の自立と生活	障害の種類と障害者の社会参加状況について理解する
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリー、ユニバーサルデザインの歴史、概念について理解し、具体的なデザイン手法について理解する
7	福祉用具の分類と活用	共用品、福祉用具の概念、分類、役割について理解する
8	居住環境整備の技術(1)	居住環境整備に必要な空間設計について理解する
9	居住環境整備の技術(2)	居住環境整備に必要なデザイン、設備計画、避難防災計画について理解する
10	生活行為と空間整備	移動、入浴、排泄等の生活行為に必要な空間整備方法について理解する
11	ライフスタイルの多様化と住まい	戦後の家族形態の変化とそれに伴う生活形態について理解する
12	安心できる住生活	高齢者居住法、住宅セーフティネット法等の居住安定政策について理解する
13	安心して暮らせるまちづくり	福祉のまちづくり条例等、地域における福祉住環境整備について理解する
14	授業の補足と重要箇所の復習	授業内容の重要ポイントについて補足し、「福祉住環境コーディネーター検定試験」の準備を行う。
15	授業のまとめ	授業のまとめと小テストの解説



《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	レクリエーションワーク	科目ナンバリング	SFFD22028
担当者氏名	原 志津、田島 栄文		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

子どもから高齢者までの各世代にわたる心身の健康、及びレクリエーション活動の普及・推進を目指した「レクリエーション・インストラクター」資格の学習内容に基づき、レクリエーションの基礎理論を展開する。

《テキスト》

適宜提示する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

1. 余暇とレクリエーションの社会的意義が理解できる。
2. レクリエーション支援の体系及び支援者の役割が理解できる。
3. 楽しさを基本としたレクリエーション事業計画の流れが理解でき、立案できる。

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	レクリエーション基礎理論①	レクリエーションの意義1
2	レクリエーション基礎理論②	レクリエーションの意義2
3	レクリエーション基礎理論③	レクリエーション運動を支える制度
4	レクリエーション基礎理論④	レクリエーション・インストラクターの役割
5	レクリエーション基礎理論⑤	まとめ
6	レクリエーション支援論①	ライフスタイルとレクリエーション
7	レクリエーション支援論②	少子高齢社会の課題とレクリエーション
8	レクリエーション支援論③	地域とレクリエーション
9	レクリエーション支援論④	まとめ
10	レクリエーション事業論①	レクリエーション事業とは
11	レクリエーション事業論②	事業計画Ⅰ
12	レクリエーション事業論③	事業計画Ⅱ
13	レクリエーション事業論④	安全管理
14	レクリエーション事業論⑤	まとめ
15	福祉レクリエーション支援専門職の確立に向けて	福祉レクリエーション支援専門職の確立に向けて

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	児童・高齢者・障害者の心理	科目ナンバリング	SFFD21013
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> </ul>		

《授業の概要》

この授業では「生涯発達心理学」で学んだ知識を基盤にして、将来社会福祉の現場で、関わっていく人たち（児童・高齢者・障害者）の「こころ」を理解するために知っておくべき心理学の知識のエッセンスを学ぶ。

《テキスト》

必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

授業時間内に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

支援に必要な児童・高齢者・障害者を理解するために、必要な知識を学び、関心をもち、当事者の話し・その家族の話しに耳を傾けること。共感しながら理解し、支援のためのスキルを自分なりに洗練していけるよう学んでいく。

《授業時間外学習》

普段から様々な人と出会って、積極的に関わっていく姿勢を持つておくこと。

《成績評価の方法》

授業態度 30%  
ミニレポート 20%  
授業最後のまとめ 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	この授業の進め方について紹介する
2	支援に必要な高齢者との関わり	高齢者に関して、知っている事と知らないことを知る・知らないことを理解していくために必要な知識とは何か。
3	高齢者の健康度と要介護度について	高齢化の社会の実態と高齢者の支援
4	高齢者の健康度	これまでの高齢者と、これからの高齢者の違い
5	高齢者支援のポイント	高齢者の「学習性無力感」とやる気を引き出す関わりについて
6	障害とその心理的影響①	障害者に関する法律の変遷・障害の及ぼす影響と適応・不適応
7	障害とその心理的影響②	目にみえる障害と見えない障害を知る。障害受容について理解する。
8	精神障害者の理解①	精神科病院での支援者の働きかけ
9	精神障害者の理解②	精神障害者の生活を地域で支援するという事について
10	知的障害者の理解①	8歳以降の知的能力の違いで、周りの世界がどのように見えてくるか
11	知的障害者の理解②	知的障害者にとっての社会性について
12	支援に必要な児童への対応	児童の事例について考える
13	支援に必要な高齢者の対応	高齢者の事例について考える
14	支援に必要な障害者の対応	障害者の事例について考える
15	児童・高齢者・障害者の心理	様々な障害をもつ方たちと共に生きていくための視点を考える・全体のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	STAL41001
担当者氏名	砂子 滋美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教員になりたい人、教職課程を歩むことを考えている人、教員になることを迷っている人にとって、最終的に教員になることを決意するための動機づけがこの授業である。その時々教育という営みがいかに大きな影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための基礎的なものを身につける。また、教職課程履修の意思を再確認し、教師以外の進路についても考察する。

《授業の到達目標》

教員に必要な資質、知識、能力を身につけ、教師としてそれらを幅広く活用する人間を育成する。また、あわせて教師以外の職種に関する進路選択についても、受講生各自の資質との関係で考える機会を提供する。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加40%、定期試験50%、課題10%、これらの評価を総合して評価する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい教職概論・教育原理』  
関西学院大学出版会 2008年

《参考図書》

「小・中・高等学校学習指導要領」（文部科学省）  
『解説教育六法』（三省堂）  
『教職論』（宮崎和夫編著）ミネルヴァ書房  
『現代教職論』（土屋基規編著）学文社  
『教育基礎論・教職論』（唐澤勇編著）学事出版

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう常日頃から心がけておく必要がある。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	本講義の概要や目標を示し、授業の進め方について解説する。進路選択に資する各種の機会の提供等。
2	教職観と理想の教師像	さまざまな観点から理想の教師像を探っていく。
3	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を理解する。
4	教員の資質・能力	教員として求められる基本的な資質・能力について理解するとともに、教員を希望する自己の適正について考察する。
5	進路指導の意義と課題	教員組織を理解し、キャリア教育の指導における教師力とは何かを理解する。
6	教員養成と免許制度	師範学校制度と戦後の開放性教員養成との比較を試み、現代日本において求められる教員養成とは何かを吟味し、求めるべき教員像について考えてみる。
7	教育職員の服務	教育職員の服務の根本基準、職務上の義務、身分上の義務、身分保障と分限、懲戒等について理解する。
8	教師の仕事と役割Ⅰ	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導について考察する。
9	教師の仕事と役割Ⅱ	生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考察する。
10	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
11	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が設けられた。それらの役割について理解する。
12	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究するとともに教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
13	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員養成の資質・能力の向上が常に望まれるが、今後取り組むべき課題について考える。
14	教育の今日的課題	道徳教育、特別活動、キャリア教育、開かれた学校づくり、家庭、地域との連携、幼・小・中間の接続等を考察する。
15	講義全体のまとめをする	教師に求められる適性と資質について再度考察すると共に、自己の教職への意欲と適性について再度、省察・確認する。講義全体のまとめをする。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	STAL41002
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《テキスト》

プリント（資料）を適宜配布

《参考図書》

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社、2010年。  
 広岡義之（編著）『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《授業の到達目標》

- 教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
- 主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
- 児童の権利と福祉について理解している。
- 生涯学習の理念について理解している。

《授業時間外学習》

参考図書・資料の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30%
- ②課題の提出と完成度 30%
- ③授業中のミニテスト 40%

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、人間の特性と教育
2	教育の概念と本質	・教育の概念と本質 ・教育の必要性と可能性・限界
3	子どもの発達と教育	・発達とは何か ・発達における教育の役割
4	教育の目的、形態と機能	・教育の目的、形態と機能 ・教育における教師の役割
5	主な西洋教育思想とその系譜①	・子ども観の変遷 ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容
6	主な西洋教育思想とその系譜②	・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 ・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響
7	公教育制度の成立と発展①	・学校の起源と歴史 ・近代公教育の誕生
8	公教育制度の成立と発展②	・日本における明治期以前の教育 ・日本における近代学校制度の成立と発展
9	教育の内容と方法	・教授と学習の理論 ・さまざまな教育方法
10	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦前まで）
11	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦後）
12	教育における「ケア」	・「ケア」の定義、「ケア」の要素 ・教育における「ケア」、教育における公正と「ケア」
13	児童の福祉と保護	・児童の権利と福祉 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応
14	生涯学習	・生涯学習社会の成立とその背景 ・生涯学習の重要性、自分のライフコースのデザイン
15	まとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による、学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	STAL42003
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
- ②課題の提出と完成度 20%
- ③定期試験 60%（持ち込み不可）

《テキスト》

授業中に指示します。

《参考図書》

- 1) 『解説教育六法 2013年度版』三省堂。
- 2) 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子『図解・表解 教育法規-“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2012年。
- 3) 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver.2』昭和堂、2012年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育行政と教育制度	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育行政の基本原理
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育1	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育2	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2	・特別支援教育に関する諸制度
13	学校運営①：開かれた学校	・開かれた学校の意義 ・地域との連携とコミュニティ・スクール制度
14	学校運営②：アカウンタビリティと学校評価	・学校アカウンタビリティとマネジメント・サイクル ・学校評価の意義と評価の形態
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（含カウンセリング）	科目ナンバリング	STSW43008
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐり問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%  
授業内容の理解 50%

《テキスト》

指定しない。必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』 滝口俊子・田中慶江編 創元社  
『特別支援教育のための100冊』 特別支援プロジェクトチーム 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日まで提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	「人の話しをきく」ということについて考える
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について知る
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	心理テストを体験する
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ
8	精神的な問題の分類と概説	精神的な問題の全体像を把握し、病態水準や自我の強さについて学ぶ
9	こころの発達理論	思春期以降の生徒のこころの問題を理解するために、関係性について学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返り、今後活かすべきことは何かを考える



平成 26（2014）年度入学者

専門教育科目



カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成26年度（2014年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		社会福祉士	P S W	高等学校 学校 教諭 福祉	学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成27年度の 担当者	ページ		
				必修	選択				1年		2年		3年		4年					
									I	II	I	II	I	II	I	II				
専門基礎科目	人体の構造と機能及び疾病	SSPA11001	講義	2		○	◆		2											
	心理学理論と心理的支援	SSPA11002	講義	2		○	◆		2											
	社会理論と社会システム	SSPA11003	講義	2		○	◆		2											
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	SSPA12001	講義	2		○	◇			2								(竹内 一夫)	91	
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	SSPA12002	講義	2		○	◇				2								(竹内 一夫)	92
	介護概論	STTA22003	講義	2				△		2									小倉 毅	93
	法学	SFFA21004	講義	2					2											
	行政法	SFFA21005	講義	2					2											
	家族福祉論	SFFA22004	講義	2							2								[高橋 千代]	94
	生涯発達心理学	SFFA21006	講義	2					2											
	こころの基盤の理解	SFFA22005	講義	2						2									北島 律之	95
	コミュニケーション論	SFFA22006	講義	2						2									[脇本 忍]	96
	社会心理学	SFFA22007	講義	2						2									北島 律之	97
	態度の心理学	SFFA22008	講義	2							2								北島 律之	98
	基礎ゼミナールⅠ	SFFA11007	演習	4					4											
	基礎ゼミナールⅡ	SFFA11008	演習	2					2											
専門プレゼミナールⅠ	SFFA12009	演習	4						4									北島・小倉・稲富	99	
専門プレゼミナールⅡ	SFFA12010	演習	2							2								北島・小倉・稲富	100	
教育支援科目	現代社会と福祉Ⅰ	SSPB11009	講義	2		○	◇	△	2											
	現代社会と福祉Ⅱ	SSPB11010	講義	2		○	◇	△	2											
	社会保障論Ⅰ	SSPB12011	講義	2		○	◇			2									(河野 真)	101
	社会保障論Ⅱ	SSPB12012	講義	2		○	◇				2								(河野 真)	102
	社会調査の基礎	SSWB21011	講義	2		○			2											
	社会福祉調査	SFFB23001	講義	2							2									
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	SSWB22013	講義	2		○		△		2									牧田 満知子	103
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	SSWB22014	講義	2		○		△			2								牧田 満知子	104
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	SSPB22015	講義	2		○	◇	△		2									小倉 毅	105
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	SSWB22016	講義	2		○		△		2									小倉 毅	106
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	SSPB12017	講義	2		○	◇				2								田端 和彦	107
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	SSPB13002	講義	2		○	◇					2								
	保健医療サービス	SSPB23003	講義	2		○	◇					2								
	医療ソーシャルワーク	SFFB24001	講義	2									2							
	低所得者に対する支援と生活保護制度	SSPB22018	講義	2		○	◇				2								牧田 満知子	108
	権利擁護と成年後見制度	SSPB22019	講義	2		○	◇				2								牧田 満知子	109
	福祉行財政と福祉計画	SSPB23004	講義	2		○	◇						2							
	福祉行財政と福祉計画（応用）	SFFB24002	講義	2									2							
	相談援助の理論と方法Ⅰ	SSPB12020	講義	4		○	◇	△			4								(竹内 一夫)	110
	相談援助の理論と方法Ⅱ	SSPB13005	講義	4		○	◇	△				4								
	相談援助演習ⅠA	SSPB12021	演習	2		○	◇	△				2							未定	111
	相談援助演習ⅠB	SSPB23006	演習	4		○	◇	△					4							
相談援助演習Ⅱ	SSPB23007	演習	4		○	◇	△						4							
相談援助演習（統合）	SFFB24003	演習	2										2							
相談援助実習指導Ⅰ	SSWB21012	実習	1		○		△		2									田端・小倉	112	
相談援助実習指導Ⅱ	SSWB22022	実習	1		○		△			2								小倉・吉原	113, 114	
相談援助実習指導Ⅲ	SSWB23008	実習	1		○		△					2								
相談援助実習	SSWB23009	実習	4		○		△						12							
専門ゼミナールⅠ	SFFB13010	演習	2									2								
専門ゼミナールⅡ	SFFB13011	演習	2										2							
卒業演習	SFFB14004	演習	4											4						



## カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成26年度（2014年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	学年配当（数字は週当たり授業時間）								担当者 平成27年度の担当者		ページ	
									1年		2年		3年		4年					
				必修	選択				I	II	I	II	I	II	I	II				
教職に関する科目	教職概論	STAL41001	講義		2			△	2											
	教育原理	STAL41002	講義		2			△	2											
	教育制度論	STAL42003	講義		2			△	2											
	教育課程論	STAL42004	講義		2			△			2								(古田 薫)	126
	福祉科教育法	STSW43001	講義		4			△				4								
	特別活動論	STAL42005	講義		2			△			2								[砂子 滋美]	127
	教育方法・技術論	STAL42006	講義		2			△			2								(河野 稔)	128
	生徒指導論（進路指導を含む）	STAL42007	講義		2			△			2								[新井野 久男]	129
	教育相談（含カウンセリング）	STAL41008	講義		2			△	2											
	事前・事後指導	STSW43002	演習		1			△					1							
	高等学校教育実習	STSW44003	実習		2			△						4						
	教職実践演習（高）	STSW44004	演習		2			△							2					

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士(PSW)国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を履修すること。

授業科目の区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭 福祉	学年配当（数字は週当たり授業時間）								担当者 平成27年度の担当者		ページ	
									1年		2年		3年		4年					
				必修	選択				I	II	I	II	I	II	I	II				
課程外科目	相談援助基礎実習	SFFB22013	講義		2						2								稲富・原・小倉	130, 131

※課程外科目を修得しても卒業要件には含まれない。

科目名	相談援助の基盤と専門職 I		科目ナンバリング	SSPA12001
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）			

《授業の概要》

社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。I期では、ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について、教科書に基づき学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2009

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法Ⅰ」 新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2009

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論が理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉に関わる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士の法律における位置づけと専門性を検討するが、同時に現代社会における期待と養成における問題点について検討する。
2	現代社会で生きるということ	現代社会での生活にみられる問題点と病理を検討する。また、地域社会の教育力、介護力、保育力の現状を検討し、福祉社会への移行のための課題について検討を加える。
3	ソーシャルワークとはなに？	現代社会におけるソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの諸定義について検討する。
4	ソーシャルワークを構成する要素とは	ソーシャルワーク援助を構成する、クライアント、ワーカー、ターゲット、アクションの各システムと、援助者の価値、態度について検討する。
5	ソーシャルワークの歴史 ① 前史	社会福祉確立までの歴史、特に相互扶助から慈善・博愛事業を中心に検討を加える。
6	ソーシャルワークの歴史 ② 基礎の確立	専門的援助技術の確立への取り組みの中で、特にCOS運動が、近代ソーシャルワーク援助に貢献した個別記録と教育について検討する。
7	ソーシャルワークの歴史 ③ 援助技術の確立	診断主義モデル、機能主義モデル、問題解決モデル、心理社会モデル、生態学モデル、生活モデルなど、現在に至るまでの各モデルの特徴を検討する。
8	ソーシャルワークの歴史 ④ 統合モデルの検討	利用者援助における複数の援助技術の必要性を検討するとともに、サービスを統合するケアマネジメントにも言及する。
9	ソーシャルワークの歴史 ⑤ グループの援助	グループを対象とし、グループメンバーの相互作用を活用した援助の歴史とグループワークの援助モデルについて言及する。
10	ソーシャルワークの援助 ⑥ 地域援助	コミュニティデベロップメントから、コミュニティーオーガニゼーション、そしてコミュニティワークへの変遷について検討する。
11	ソーシャルワーク実践と価値	ウェルフェアから、ウェルビーイングへと社会福祉の援助目標が変化したなかで、社会福祉に携わるソーシャルワーカーの価値はどのような変化したのかを検討する。
12	ソーシャルワーク実践と権利擁護	権利擁護とは、なぜ今権利擁護が必要とされるのか、我々専門職の目指す方向はどこかを検討する。エンパワメントの必要性についても検討する
13	ノーマライゼーションとは①ミクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションとは、その目的と、その援助方法とはについて検討する。まず個人のレベルを扱う。
14	ノーマライゼーションとは②メゾレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションであるが、ここでは地域社会でのノーマライゼーションの展開を扱う
15	ノーマライゼーションとは③マクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つは、ノーマライゼーションであるが、ここでは法律、社会制度でのノーマライゼーションの展開を扱う。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ		科目ナンバリング	SSPA12002
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> <li>○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> </ul>			

《授業の概要》

ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱでは、相談援助の具体的な方法、それに当たる専門職の力量、相談援助を有効化していくために解決していかなければならない問題点について、講義をベースに学びを進めていく。各自が問題意識を持てるように、課題を与え、研究を進めていくことも、プログラムの中に入れていき、実践現場で生きる学びになるように学びを進めていく。

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論とが理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総計で評価点が算出される。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の理念：自己決定	自己決定は相談援助の中心概念ではあるが、危機的状況では、一時自己決定権を預かることも支援の一つとなる。ここでは状況に合わせた自己決定権の行使について考える。
2	相談援助の理念：自立支援	ソーシャルワーク援助の最終目標は自立支援にあるが、障害状況によっては、依存的、立も考慮に入れた支援が必要である。自立の在り方についても検討する。
3	相談援助の理念：エンパワメントとストレングス	利用者の能力、保持力をうまく引き出し、課題解決に取り組めるように支援することで、利用者はパワレス状況から抜け出し、エンパワメントされることを確認する。
4	ノーマライゼーション：地域生活という視座	ソーシャルワーク援助の目的と過程はノーマライゼーションの実現への取り組み過程ともいえる。地域でのありきたりの生活の実現とはについて検討する。
5	ノーマライゼーション：社会的包括	人がいかなる状況にあろうとも、社会参加が確保され、社会の一員としての権利と義務を果たせる状況づくりが社会福祉の目的であることを学ぶ。
6	専門職の倫理	専門職はその技術、知識、そしてそれらを人々の福利のためだけに使うことが求められるが、それを維持、向上させるための仕組みが倫理であることを学ぶ。
7	専門職の社会的責任と倫理綱領	社会的責任として、専門職の倫理を遵守するために、専門職団体などがどのように対応するかを社会に向けて公表したものが、倫理綱領であることを学ぶ。
8	専門職制をめぐる倫理的ジレンマ	我々は、複数の役割を持って社会生活を送っていくが、時に目指すところが矛盾し倫理的な葛藤を専門職の内部に生み出す。これへの対応を検討する。
9	総合的、包括的な相談援助	福祉は今、重複し、重層した問題を抱える利用者への支援で、ニーズを総合的、包括的にとらえることが求められる。そこでの留意点について検討する。
10	地域を基盤としたソーシャルワーク	施設から在宅へと福祉は大きくシフトした。地域を基盤にノーマライゼーションの実践がどのように進められるべきか検討する。
11	総合的な相談援助を支える理論	従来の援助技術では、重複し重層した利用者のニーズに対応できない。ここではシステム理論を用いた生活モデルを基盤にした、支援の在り方を検討する。
12	相談援助に関わる専門職とは	総合相談を担当できる専門職は、どのような専門基盤を必要とするのであろうか。ここでは求められる専門性とその資格について検討する。
13	総合相談援助における専門的機能	現在の相談援助専門職は、多くの求められるスキルを身に付け、多専門職との連携で仕事ができることを求められる。ここでのスキルとは、技術とはを検討する。
14	社会の変化とニーズの変化	複雑化とともに、少子超高齢化に歯止めがかからない社会。このような状況の中で利用者のニーズも大きく変化してきている。その変化と看られる問題点について学習する。
15	他職種との連携	今地域で他職種と連携をし、支援をしていくためには、どのような知識、技術、技能が求められるのか、またその留意点についても検討する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2009

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法Ⅰ」新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2009

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての、覚を持って授業に臨むこと。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	介護概論	科目ナンバリング	STTA22003
担当者氏名	小倉 毅		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> <li>○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> </ul>		

《授業の概要》

介護の理念や対象およびその理念、基本施設について学ぶ。さらに障がい等の状況等に応じた介護過程における生活支援技法や介護予防の基本的な考え方を学ぶ。

対象者が自己決定や自己選択し、主体的に暮らすこと、生活の質を高めるための介護の本質を理解し、よりよい支援につなげる知識と生活支援技術の習得に向け段階的に学習する。

《テキスト》

社会福祉学双書 15 介護概論 社会福祉学習双書編集委員会編 全国社会福祉協議会

《参考図書》

- ①ケアの本質-生きることの意味- ミルトン・メイワ ゆみる出版
- ②人間科学的生活支援論 黒澤貞夫 ミネルヴァ書房

《授業の到達目標》

社会福祉専門職として必要な介護の歴史、機能、原則、援助の方法などについて理解する。また、介護の理念および介護福祉実践のあり方を理解するとともに、ソーシャルワーク実践に必要な専門知識と支援の方法を習得する。

《授業時間外学習》

家族や近隣者の高齢者とかかわり、ボランティアに積極的に参加し、対象者への理解を深めていきましょう。  
またレポートでは、近年の介護における社会的問題や事件等から介護に求められる政策・社会的課題などについても考える機会にしてほしい。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への積極的参加度 (15点)
- (2) レポート課題 (15点)
- (3) 小テスト (20点)
- (4) 定期試験 (50点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 人間と生活	人々の生活とは何かを理解し、家庭機能変化、高齢者や障がい者の実態と権利、ライフサイクルにおける人間関係の変化や自律・自立について考える。
2	法律の変遷から介護を考える	社会福祉士及び介護福祉士法、専門職による介護の展開及び介護職に求められる医療行為について学ぶ。
3	介護の目的	介護の原則と介護職員の倫理、自立に向けた介護、尊厳を支える介護、介護提供の場、介護の対象について学ぶ。
4	援助関係	介護における援助関係の基本①援助関係の理解②利用者の理解について学ぶ。
5	介護関係維持のための技法	①察観②コミュニケーション③記録と情報の共有④他職種との連携について学ぶ。
6	介護過程 (1)	介護過程の意義①在宅生活を支援する方法②家族への援助について学ぶ。
7	介護過程 (2)	介護過程の実際①介護過程とチームアプローチについて学ぶ。
8	生活支援技術の基本 (1)	①利用者の自立支援と介護、②住生活環境の整備と介護、③食事の介護、④排泄の介護、⑤入浴の介護について学ぶ。
9	生活支援技術の基本 (2)	①衣服の着脱の介護、②清潔の介護、③体位変換・移動の介護、④社会生活を維持するための支援、⑤健康な生活習慣づくりへの支援について学ぶ。
10	生活支援技術の基本 (3)	①緊急・事故時の対応、②介護家族への支援、③福祉用具の活用、④終末期の支援について学ぶ。
11	障害別生活支援 (1)	視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害(盲ろう)の理解と生活支援について学ぶ。
12	障害別生活支援 (2)	運動機能障害、重症心身障害の理解と生活支援について学ぶ。
13	障害別生活支援 (3)	内部障害の理解と生活支援について学ぶ。
14	障害別生活支援 (4)	知的障害、高次機能障害、精神障害の理解と生活支援について学ぶ。
15	障害別生活支援 (5) まとめ	認知症(若年性認知症を含む)の理解と生活支援について学ぶ。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	家族福祉論	科目ナンバリング	SFFA22004
担当者氏名	高橋 千代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

現代の家族は小規模化が進む中で、さまざまな問題を抱えており、子育て家庭への支援、介護問題を抱える家族、家庭内で発生するDVや児童虐待への対応等、的確な支援を求めている。

家族福祉は、集団としての家族が社会と相互に関係しながら機能するために、家族の持つニーズに的確に介入し、社会資源の利用を促し、すべての家族成員の自己実現を促すように家族集団を援助することが目的である。

《授業の到達目標》

- ・福祉サービスが必要とされる現代の家族を理解する。
- ・家族のニーズと社会資源を理解する。

《テキスト》

「臨床に必要な家庭福祉」宮本和彦編 弘文堂

《参考図書》

「よくわかる家族福祉」畠中宗一編 ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

家族福祉のサービスに関する情報収集

《成績評価の方法》

学期末レポート（60点）＋分野別レポート（5点×8分野）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家族福祉とは	夫婦関係、親子関係を維持するなかで、「個」としての家族成員の生き方を形成する場である家庭に不都合が起こった場合に介入する家族福祉の目的について考える。
2	家族の変化と家族福祉	現代家族の特徴と家族福祉の動向を知る。
3	家族福祉の基礎概念	家族集団と家族成員、依存と自立、夫婦関係の構築、親子関係の構築から導き出される関係性を理解する。
4	家族福祉の理論と技法	多世代理論、家族システム理論、ライフモデル等を理解する。
5	家族援助の実際	世代間システムの調整事例、コミュニケーションへの介入事例、家族システムへの介入事例から、家族援助の実際を知る。
6	家族療法と家族ソーシャルワーク	家族療法と家族ソーシャルワークの違いを理解する。
7	子育てと子育て	子育てに困難を感じている母親が多くなっている社会的背景を考える。子育て支援への政府や地域の取組を知り、課題を考える。
8	高齢者と介護	高齢者と介護の現状を知り、政府や地域の取組から課題を考える。
9	障害児・者と家族	障害児・者と家族の現状を知り、政府や地域の取組から課題を考える。
10	ドメスティック・バイオレンス	家庭内暴力の現状を知り、政府や地域の取組から課題を考える。
11	児童虐待	児童虐待の現状を知り、政府や地域の取組から課題を考える。
12	ひとり親家庭	父子家庭、母子家庭の現状を知り、政府や地域の取組から課題を考える。
13	里子一里親・養子縁組	社会的養護、家庭的養護の現状を知り、政府や地域の取組から課題を考える。
14	死別	現代の死を理解し、家族と死別した後の家族成員への援助のあり方を考える。
15	まとめ	各自の家族福祉論を発表する。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	こころの基盤の理解	科目ナンバリング	SFFA22005
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> </ul>		

《授業の概要》

こころは脳などの神経系と無関係であるはずはありません。また、こころは決してつかみどころがない曖昧なものでもありません。本講義では、知覚心理学、認知心理学、神経心理学の内容を中心に、こころがどのような基盤から成り立っているのかを学びます。

《授業の到達目標》

- 知覚、認知、神経に関する心理学の基本事項について説明できる。
- 簡単な実験や質問紙調査を行うことができる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト70% レポート・小テストなど20% 受講態度10%

《テキスト》

プリントを配布

《参考図書》

「視覚心理学への招待 見えの世界へのアプローチ」 大山正著 サイエンス社  
 「グラフィック 認知心理学」 森敏昭・井上毅・松井孝雄サイエンス社  
 「朝倉心理学講座4 脳神経心理学」 利島保[編] 朝倉書店

《授業時間外学習》

・予習の方法 特に予習は必要としない。・復習の方法 復習には力を入れてください。授業中に整理するプリントの内容を中心に復習してください。まず、各用語の意味を理解し覚えてください。次に、図や表、様々なデータを参照しつつ、実験やモデルが示すことを理解するように努めてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	こころの基盤とは？	ガイダンス
2	眼からの情報は脳へどう伝わるか(視覚の基礎)	網膜の役割、光信号から電気信号への変換
3	眼からの情報は脳へどう伝わるか(脳への伝達)	網膜から大脳への情報の伝達
4	感覚の黄金法則(感覚についての3つの法則)	ウェーバーの法則、フェヒナーの法則、スティーブンスのべき法則
5	実験	触二点閾についての実験
6	おかしいのは世界か？自分か？(体制化と錯視)	錯視のデモやその見えの仕組み、いくつかの対象がまとまって見える性質
7	実験	ミュラーリヤー錯視についての実験
8	わたしたちの世界(三次元知覚)	三次元に世界を知覚するために必要な要素、大きさの恒常性
9	見えていても見えていない(注意)	網膜に投影されることと「見える」こととの違い。注意の空間的および時間的性質 脳の損傷と注意の障害
10	自分が自分であるために(記憶)	記憶の分類、短期記憶から長期記憶へのシフト
11	自分が自分であるために(記憶)	ワーキングメモリ スパンテストの体験 脳と記憶
12	いつも言葉で考える(言語)	言葉と脳、文の理解にかかわる処理
13	人に会うとはじめに見るところ(顔の認知)	顔を認識する能力、人種と顔、感情と顔
14	一難去ってまた一難(問題解決)	洞察と情報処理による問題解決
15	これまで何を学んだか(まとめ)	こころの基盤としての知覚、認知、神経



《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	コミュニケーション論		科目ナンバリング	SFFA22006	
担当者氏名	脇本 忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> </ul>				

《授業の概要》

社会心理学のコミュニケーション領域について講義をおこなう。特に、私たちの日常生活における、人と人との対人関係。さらに二者間における対人魅力や相互作用に関するメカニズムについて、先行研究や映像資料の紹介を交えながら授業展開する。

《テキスト》

指定しない。適時資料を配布する。

《参考図書》

社会心理学（培風館）他。

《授業の到達目標》

コミュニケーションに関する理論と応用について習得し、日常生活における人間関係形成の一助になること。

《授業時間外学習》

必要の際、適時説明する。

《成績評価の方法》

定期試験 60% 提出レポート40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義内容と授業運営
2	心理学の種類	周辺領域との関係性についての解説
3	心理の要素	ヒトの感情・認知・行動などの各要素についての解説
4	遺伝と環境	ヒトの感情・認知・行動などの各要素の源泉について、遺伝説環境説の立場からの解説
5	コミュニケーション1.	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション1.
6	コミュニケーション2.	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション2.
7	対人識別判断	心理学実験の実施
8	社会的態度	価値観・ライフスタイルに関する心理アセスメントの実施
9	社会的感情	心理アセスメントと臨床心理学との関係性
10	社会的認知	対人認知と対人コミュニケーション
11	社会的動機	心理学実験の紹介を中心に解説
12	対人魅力1.	恋愛に関する理論と心理アセスメントの実施
13	対人魅力2.	対人関係の形成と崩壊
14	復習および検証	講義一連の確認と復習
15	まとめ	コミュニケーション論のまとめ

科目名	社会心理学	科目ナンバリング	SFFA22007
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つようとする態度（社会的責任） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）		

《授業の概要》

社会心理学は、家族などとの身近な社会、学校などの日常的活動の舞台となる社会、国際舞台のような規模が大きな社会について、それらをどのように心に映し出し、それらにどのように働きかけるかを解き明かそうとしています。本講義では、社会心理学の知見を体系的に学習し、人と人が出会うところに生まれるいろいろな問題に対し深く洞察できる力を養います。

《テキスト》

「いちばんはじめに読む心理学の本2 社会心理学 社会で生きる人のいとなみを探る」 遠藤由美編著 ミネルヴァ書房

《参考図書》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《授業の到達目標》

- 「社会心理学」の心理学における位置づけを説明できる。
- 自己、他者とのつながり、自他間の影響過程といった主要内容について、理解し説明できる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、社会心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。どういったテーマを学ぶか、意識することが大切です。
- ・復習の方法 授業中に整理するプリントを中心に復習してください。また、テーマの目的に関連した課題を出しますので、レポートを作成してください。レポートは添削後、返却します。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 60% レポート・小テストなど 20% 受講態度 20%

《備考》

○本科目は、教養科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コミュニケーションの私たち	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション
2	コミュニケーションの私たち	パーソナルスペースについての実験
3	社会的動物としての人間	他者の心の理解、心の理論
4	社会的動物としての人間2	集団での協力関係、互惠性
5	感情1	ラザルスの感情生起の理論
6	感情2	基本的感情と社会的感情の役割、幸福とはどういうことか？
7	人を傷つける心	他者への攻撃、攻撃行動の合理化、攻撃行動の生起を説明する理論
8	人を助ける心	他者への援助、援助における思考、援助を妨げる原因、援助行動の生起を説明する理論
9	集団1	集団とは何か？ 実在集団の葛藤理論
10	集団2	社会的アイデンティティ理論、集団協力ヒューリスティック、社会的ジレンマ
11	関係性1	関係性はいかに重要か？ 関係のはじまり 親しい関係の維持・終焉
12	関係性2	恋愛・結婚 関係性に対する質問紙調査
13	社会的自己1	自己とは何か？ 個人的自己概念と公的自己概念、作動的自己概念
14	社会的自己2	社会的比較、自己評価維持モデル、自己評価に関する動機
15	これまで何を学んだか	まとめ

科目名	態度の心理学	科目ナンバリング	SFFA22008
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）		

《授業の概要》

社会心理学で学んだ自己と他者の関係についての基礎的な内容をもとに、「態度」を軸としながら発展的に学びを深める。社会の中で影響がどのように伝わるか、どのようなときに自分の態度が変化するか、社会的な判断はいかに形成されるかなど、心理学の実践的な役割について考えていく。

《テキスト》

「いちばんはじめに読む心理学の本2 社会心理学 社会で生きる人のいとなみを探る」 遠藤由美編著 ミネルヴァ書房  
 ＊社会心理学で使用するテキストと同一

《参考図書》

「図説心理学入門第2版」 斎藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《授業の到達目標》

- 社会的影響や態度といった内容を心理学的な点から説明することができる。
- 心理的または社会的事象のいくつかについて、社会心理学の知識を基に主体的に考えることができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。どういったテーマを学ぶか、意識することが大切です。
- ・復習の方法 授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト60% レポート・小テストなど 30% 受講態度10%

《備考》

本科目は、「社会心理学」を修得後に受講するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的影響 1	他者は人にどのような影響を及ぼすか？ 多数派の影響と少数派の影響
2	社会的影響 2	権威に服従する、権威に抵抗する さまざまな技法を用いて他者に影響を及ぼす
3	態度・説得 1	態度とは何か？ 態度はどのようなときに変わるのか？
4	態度・説得 2	人はどのようにして説得されるのか？ マス・メディアはどのように人を動かすか？
5	質問紙調査	態度にかかわる質問紙調査
6	文化と心 1	文化はどのように人をつくるか？ 文化と心の関係にまつわる理論と方法
7	文化と心 2	文化と心の関係を表す実証研究 人はどのように文化をつくるか？
8	原因帰属と社会的推論・判断 1	原因帰属の理論 原因帰属に伴うエラーとバイアス
9	原因帰属と社会的推論・判断 2	錯誤帰属 ヒューリスティック
10	ステレオタイプ・差別 1	ステレオタイプ、偏見、差別とは？ どのようなステレオタイプがあるか？
11	ステレオタイプ・差別 2	人は集団をどのようにとらえるか？ ステレオタイプはどのように処理されるか？
12	実験	IATによる潜在的なステレオタイプについての実験
13	公正・公平 1	公正とは何か
14	公正・公平 2	不公正にどう反応するか？ なぜ公正にこだわるのか？
15	これまで何を学んだか	まとめと展望

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	専門プレゼミナール I	科目ナンバリング	SFFA12009
担当者氏名	北島 律之、原 志津、小倉 毅、稲富 恭		
授業方法	演習	単位・必選	4・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> </ul>		

《授業の概要》

1年次の演習で身に着けた社会人としての人間関係を構築するスキルを基盤にして、専門的な知識の演習・意図的・目的的に人と関わる実体験・ボランティア体験を通して利用者理解へと専門領域を絞っていく。「相手の状況を把握する力」「アセスメント力」「個別化」「コミュニケーションの取り方」などの援助関係のソーシャルワークスキルを培い、援助の取組や支援方法を身をもって学ぶ。

《授業の到達目標》

ソーシャルワーカーが援助者の生活課題を解決するための相談援助の入門編として、倫理観・コミュニケーションスキル・コーピング・アサーションなどの心理学的・社会福祉的支援を学び、人の思いに添いながら支援する力を身につけていく。そして、生活課題を抱えた人々とその家族との交流ボランティアを通して、その背後にある生活課題とその解決策を考え、今後の支援方策について検証し、報告する。

《成績評価の方法》

主体的な授業への参加姿勢・レポート・調査報告書・プレゼンテーション・グループでの協働での取組み姿勢を総合評価する。

《テキスト》

テキストは、その都度配布する。

《参考図書》

《授業時間外学習》

近隣の障害者・高齢・児童福祉に関わる団体と交流し、ボランティアを体験し、人と関わりを通じてコミュニケーション力を高めると同時に、障害のある人や家族等の生活課題や支援方策を理解する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	専門プレゼミナールのコンセプトと進め方・チューターの紹介を行う。チューターとは、面談を行う。
2	ソーシャルワーカーの仕事	ソーシャルワーカーの仕事と利用者理解について学ぶ。さらに利用者特性に合わせたコミュニケーションの取り方を学ぶ。
3	ボランティアとは何か	ボランティアとは何か。ボランティアの基礎知識について学ぶ。
4	ボランティアを進めるために大切な視点（演習）	ボランティアに参加するために何が必要か。どのようなボランティアとしての活動や支援が必要か。
5	コミュニケーションの基礎	アサーション、自己覚知と自己決定とは何かについて学ぶ。講義と演習
6	コーピングスキルとは	行動療法の基礎・ストレスを避けるためのコーピングスキル（問題解決に向けた自己対処法）、心理学的支援・社会福祉的支援について学ぶ。講義と演習
7	身体障害者の理解と支援（演習）	身体障害者の病理と生活課題について学ぶ。①
8	身体障害者の理解と支援（演習）	身体障害者の病理と生活課題について学ぶ。②
9	知的障害者の理解と支援（演習）	知的障害者・精神障害者の生理と病理を学ぶ。そして地域生活する上での課題やその支援方策について学ぶ。①
10	知的障害者の理解と支援（演習）	知的障害者・精神障害者の生理と病理を学ぶ。そして地域生活する上での課題やその支援方策について学ぶ。②
11	調査内容の決定・調査方法について	調査における調査方法や数的処理について、数字をどのように分析するかについて学ぶ。①
12	調査内容の決定・調査方法について	調査における調査方法や数的処理について、数字をどのように分析するかについて学ぶ。②
13	数的調査について	調査とは。調査の方法・調査時に留意することについて学ぶ。①
14	精神障害者の理解と支援（演習）	精神障害者の病理を学ぶ。そして地域生活する上での課題やその支援方法について学ぶ。
15	精神障害者の理解と支援（演習）	精神障害者の病理を学ぶ。そして地域生活する上での課題やその支援方法について学ぶ。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	専門プレゼミナールⅡ		科目ナンバリング	SFFA12010
担当者氏名	北島 律之、原 志津、小倉 毅、稲富 恭			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

1年次の演習で身に着けた社会人としての人間関係を構築するスキルを基盤にして、専門的な知識の演習・意図的・目的的に人と関わる実体験・ボランティア体験を通して利用者理解へと専門領域を絞っていく。「相手の状況を把握する力」「アセスメント力」「個別化」「コミュニケーションの取り方」などの援助関係のソーシャルワークスキルを培い、援助の取組や支援方法を身をもって学ぶ。

《授業の到達目標》

ソーシャルワーカーが援助者の生活課題を解決するための相談援助の入門編として、倫理観・コミュニケーションスキル・コーピング・アサーションなどの心理学的・社会福祉的支援を学び、人の思いに添いながら支援する力を身につけていく。そして、生活課題を抱えた人々とその家族との交流ボランティアを通して、その背後にある生活課題とその解決策を考え、今後の障害者支援について検証し、報告する。

《成績評価の方法》

主体的な授業への参加姿勢・レポート・調査報告書・プレゼンテーション・グループでの協働での取組み姿勢を総合評価する。

《テキスト》

テキストは、その都度配布する。

《参考図書》

《授業時間外学習》

近隣の障害者・高齢・児童福祉に関わる団体と交流し、ボランティアを体験し、人と関わりを通じてコミュニケーション力を高めると同時に、障害のある人や家族等の生活課題や支援方策を探ります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	支援を必要とする当事者や家族から学ぶ	知的障害者等の障害者及び介護の必要な支援者や家族を迎え、生活課題や支援について学ぶ。
2	支援を必要とする当事者や家族から学ぶ	知的障害者等の障害者及び介護の必要な支援者や家族を迎え、生活課題や支援について学ぶ。
3	実践編 5 交流ボランティア	障害者・高齢者・児童の福祉分野における交流内容を検討し、企画・準備する。
4	実践編 交流ボランティア	障害者・高齢者・児童の福祉分野における交流内容を検討し、企画・準備する。
5	実践編 交流ボランティア	交流会を実施する。
6	実践編 交流ボランティア	交流会を実施する。
7	実践編 交流ボランティア	交流会を実施する。
8	実践編 交流ボランティア	交流会の振り返り
9	調査編	グループごとにテーマに沿って調査項目を決め、質問紙等を作成し、調査を組み立てる。その中で見えてきた対象者の生活課題や支援について検証し報告する。
10	調査編	グループごとにテーマに沿って調査項目を決め、質問紙等を作成し、調査を組み立てる。その中で見えてきた対象者の生活課題や支援について検証し報告する。
11	調査編	グループごとにテーマに沿って調査項目を決め、質問紙等を作成し、調査を組み立てる。その中で見えてきた対象者の生活課題や支援について検証し報告する。
12	調査編	グループごとにテーマに沿って調査項目を決め、質問紙等を作成し、調査を組み立てる。その中で見えてきた対象者の生活課題や支援について検証し報告する。
13	報告会	プレ報告会を実施する。
14	報告会	報告会を実施する。
15	報告会	報告会を実施する。

科目名	社会保障論 I		科目ナンバリング	SSPB12011	
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）</li> </ul>				

《授業の概要》

社会保障の概念や対象，理念等について，その発達過程も含めて解説し，制度の体系と概要について理解する。本講義では，社会保障を構成する医療保障制度，介護保険制度および社会福祉制度を中心に教授する。

《テキスト》

『社会保障(新・社会福祉士養成講座12)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版，及び授業中に配布するプリント。

《参考図書》

《授業の到達目標》

社会保障の役割や理念，機能について理解する。社会保障の構造を把握し，制度の体系について理解する。社会保障の財源と費用を学び，社会保障財政のトレンドについて理解する。社会保障制度を構成する医療保障制度や介護保険制度，社会福祉制度の内容，現状，将来展望について説明できる。

《授業時間外学習》

講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。限られた講義時間で，幅広い知識を身につけなければならないため，予習・復習が単位取得の必須の要件となる。

《成績評価の方法》

定期試験80%，授業への参加とその成果20%。

《備考》

本教科は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対応する科目であり，受験対策を意識した講義を実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会の変化と社会保障	オリエンテーション(講義の課題と対象)
2	社会保障の定義	社会保障の内容による定義と制度による定義
3	社会保障の構造	社会保障の目的と機能，近年の社会保障改革の動向
4	社会保障の財源と費用	社会保障給付費，社会保障関係費，財源構成 社会保障制度のまとめと国家試験対策
5	医療保障制度 (1)	医療費の動向
6	医療保障制度 (2)	日本における医療供給システムの特徴
7	医療保障制度 (3)	医療保険制度 (1)
8	医療保障制度 (4)	医療保険制度 (2)
9	医療保障制度 (5)	医療制度改革 医療保障のまとめと国家試験対策
10	介護保険制度 (1)	介護保険制度の概要 (1)
11	介護保険制度 (2)	介護保険制度の概要 (2)
12	介護保険制度 (3)	介護保険制度をめぐる近年の動向 介護保険制度のまとめと国家試験対策
13	社会福祉制度 (2)	社会福祉の法制度，動向，社会福祉の実施体制，社会福祉制度形成史
14	社会福祉制度 (3)	社会福祉施策：母子福祉，老人福祉，児童福祉，障害者福祉
15	社会福祉制度 (4)	社会福祉施策：生活保護，社会手当 社会福祉のまとめと国家試験対策

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	社会保障論Ⅱ		科目ナンバリング	SSPB12012	
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）</li> </ul>				

《授業の概要》

本講義では、社会保障を構成する年金保険制度、労働保険制度について教授する。また、少子高齢化や生活の都市化・核家族化、所得格差の拡大、福祉サービス供給や財源調達、管理運営に関する公私関係、現代社会における社会保障制度の諸課題について教授するとともに、社会保障制度の発達過程や諸外国における社会保障制度の概要についても理解を深める。

《テキスト》

『社会保障(新・社会福祉士養成講座12)』社会福祉士養成講座編集委員会(編)中央法規出版、及び授業中に配布するプリント。

《参考図書》

《授業の到達目標》

年金保険制度、労働保険制度を理解する。社会保障が対応する今日的課題(格差問題、少子化問題、高齢化問題)について、それらの本質や動向について理解する。社会保障の発展プロセスや諸外国の制度に対する学習を通して、社会保障制度の本質や制度形成のメカニズムを理解する。

《授業時間外学習》

講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、予習・復習が単位取得の必須の要件となる。

《成績評価の方法》

定期試験80%、授業への参加とその成果20%。

《備考》

本教科は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対応する科目であり、受験対策を意識した講義を実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	年金保険制度 (1)	オリエンテーション：講義の課題と対象 年金保険の概要
2	年金保険制度 (2)	国民年金、厚生年金、共済年金 (1)
3	年金保険制度 (3)	国民年金、厚生年金、共済年金 (2)
4	年金保険制度 (4)	年金制度改革 年金保険制度のまとめと国家試験対策
5	労働保険制度 (1)	労働者災害補償保険労働保険制度
6	労働保険制度 (2)	雇用保険制度
7	労働保険制度 (3)	労働保険制度のまとめと国家試験対策
8	社会保障が当面する課題 (1)	社会保障の種類
9	社会保障が当面する課題 (2)	格差問題の諸相、日本及び世界の所得格差の状況、格差問題の背景と社会保障制度
10	社会保障が当面する課題 (3)	少子高齢化の動向(日本及び先進諸国)と対応策
11	社会保障の歴史的展開 (1)	欧米における社会保障発達史
12	社会保障の歴史的展開 (2)	日本社会保障発達史 (1) 第2次世界大戦終了まで
13	社会保障の歴史的展開 (3)	日本社会保障発達史 (2) 戦後～現代 社会保障発達史のまとめと国家試験対策
14	諸外国における社会保障制度 (1)	諸外国の社会保障制度
15	諸外国における社会保障制度 (2)	諸外国の社会保障制度 まとめと国家試験対策

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度 I		科目ナンバリング	SSWB22013	
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> </ul>				

《授業の概要》

本講義では、高齢者（健康な高齢者も含む）に関わる様々な問題を、「高齢者理解」「高齢者に係る法・制度」「介護保険」という3つの方向から考察していく。専門用語が頻出するが、適宜補助プリントやワークシート、DVDやVHSなどの視聴覚教材などで理解を助ける。また、現状に即した事例問題を取り上げ、その分析を通して高齢者支援の理解を深める。

《テキスト》

『学びを迫及する高齢者福祉』保育出版社

《参考図書》

『高齢者白書』厚生労働省H.P

《授業の到達目標》

- (1) 高齢者の現状を理解し、今後の高齢者政策の目指すべき方向性を正しく把握する。
- (2) 高齢者に係る法・制度を理解し、その運用について正しく理解する。
- (3) 介護保険制度の概要とさまざまな福祉サービスを理解する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜、予習課題およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行う事。理解が十分でない項目などに関する積極的な質問は歓迎する。研究室で個別に対応する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果 (20%)
- (2) レポート課題等の提出物 (20%)
- (3) 定期試験 (60%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の方法、および高齢者福祉の内容について、概略を把握する。
2	少子高齢社会の特徴	データや表から現在の少子高齢社会の現状を把握する。また地域ごとの高齢者率など、福祉サービスを展開させていく上での基礎的な知識を身につける。
3	高齢者の特性 (1)	ライフサイクルにおける高齢期の身体と精神的特性について理解する。
4	高齢者の特性 (2)	高齢者の社会的、経済的特性について理解する。
5	高齢者の生きがいと社会参加	「改正高齢者雇用安定法」の施行による高齢者、高年齢者の社会活動に焦点をあて、高齢期の生きがいについて理解を深める。
6	高齢者福祉の歴史と発展過程 (1)	日本の高齢者福祉の展開過程を概観し、「福祉」の考え方の変遷を理解する。
7	高齢者福祉の歴史と発展過程 (2)	1990年代以降の高齢者福祉政策に焦点をあて、「高齢者福祉」はどうあるべきなのか考察を深める。
8	諸外国の高齢者福祉の歴史と発展過程	諸外国の高齢者福祉の発展過程について学ぶ。
9	高齢者福祉に係る法と制度 (1)	老人福祉法および同法が規定するさまざまな福祉サービスについて理解を深める。
10	高齢者福祉に係る法と制度 (2)	高齢者虐待防止法について理解し、事例問題を議論しながら考察を深める。
11	高齢者福祉に係る法と制度 (3)	権利擁護と成年後見制度について概要を理解し、事例問題を議論しながら考察を深める。
12	介護の現状と家族支援 (1)	「介護保険制度」成立の背景に照準をあて、シャドウ・ワークの事例問題を読み解く中で考察を深める。
13	介護の現状と家族支援 (2)	介護に係る専門職の職域と専門職としての特質について学ぶ。また外部および内部の講師による現場からの体験談を聞き、理解を深める。
14	介護の現状と家族支援 (3)	認知症、尊厳死、終末期ケアの理念と方法について理解を深める。
15	I期のまとめ	I期のまとめを行う。質疑応答によってこれまでの理解をより確実なものとする。



科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ		科目ナンバリング	SSWB22014	
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> </ul>			

《授業の概要》

本講義では、高齢者（健康な高齢者も含む）に関わる様々な問題を、「高齢者理解」「高齢者に係る法・制度」「介護保険」という3つの方向から考察していく。専門用語が頻出するが、適宜補助プリントやワークシート、DVDやVHSなどの視聴覚教材などで理解を助ける。また、現状に即した事例問題を取り上げ、その分析を通して高齢者支援の理解を深める。

《テキスト》

『学びを迫及する高齢者福祉』保育出版社

《参考図書》

『高齢者白書』厚生労働省H.P

《授業の到達目標》

- (1) 高齢者の現状を理解し、今後の高齢者政策の目指すべき方向性を正しく把握する。
- (2) 高齢者に係る法・制度を理解し、その運用について正しく理解する。
- (3) 介護保険制度の概要とさまざまな福祉サービスを理解する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜、予習課題およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行う事。理解が十分でない項目などに関しての積極的な質問は歓迎する。研究室で個別に対応する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果 (20%)
- (2) レポート課題等の提出物 (20%)
- (3) 定期試験 (60%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	介護保険制度 (1)	介護の理念、概念、技法について基本的な理解を深める
2	介護保険制度 (2)	介護保険制度の概要と介護保険制度の課題について把握する。
3	介護保険制度 (3)	介護保険制度における予防概念に焦点をあてる。地域包括支援センターの内容を把握し、地域において介護予防に取り組む現状を理解する。
4	介護保険法におけるサービスと実際 (1)	介護保険法における施設介護を学ぶ。3施設の概要を把握し、課題点等を理解する。
5	介護保険法におけるサービスと実際 (2)	介護保険法における居宅介護を学ぶ。さまざまなサービスについて概要を把握し、課題点を理解する。
6	介護保険法におけるサービスと実際 (3)	介護保険法における地域密着型福祉サービスを学ぶ。さまざまなサービスについて概要を把握し、課題点を理解する。
7	介護に係る関連機関の役割	行政機関、社会福祉協議会、医療機関の役割と実際の関わりについて把握し、地域におけるNPO活動などの働きを理解する。
8	介護保険法における相談援助の方法 (1)	ケアマネジメントの基本的な方法について学び、事例問題を解きながらプロセスを確認する。
9	介護保険法における相談援助の方法 (2)	ケアマネジメントの手法を応用し、個別援助、地域における援助についても事例問題を読み説く作業を行い、理解を確実にする。
10	高齢者の居住環境と福祉用具	高齢者の生活相談援助において不可欠な社会環境としての福祉用具、および生活全般に関わる環境の構築について理解を深める。
11	事例問題研究演習 (1)	介護予防の事例問題 (要支援1) を分析する。地域包括支援センターとの連携を考えながら、「生活の質」の維持について考察を深める。
12	事例問題研究演習 (2)	要介護3の事例問題を考える。居宅介護がどのように可能なのか、さまざまな福祉サービスを試みながら、ケアプランを計画していくプロセスを楽しむ。
13	事例問題研究演習 (3)	中度の認知症介護の事例を取り上げる。グループホーム、小規模多機能型施設に焦点をあてて考察を深める。
14	事例問題研究演習 (4)	終末期ケアを取り上げる。在宅で最期を過ごす末期がん患者の事例をとりあげ、医療と福祉の連携ネットワークについて理解を深める。
15	Ⅱ期まとめ	Ⅱ期の総まとめをする。質疑応答によってこれまでの理解をより確実なものとする。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度		科目ナンバリング	SSPB22015	
担当者氏名	小倉 毅				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）			

《授業の概要》

社会福祉基礎構造改革以降、障害者を取り巻く環境はめまぐるしく変化している。このような社会状況の中で、利用者や家族のニーズに対して、冷静かつ客観的に物事を判断し、多様な専門的機能を活用しながら、アドボカシー機能をはたせる専門職が求められる。本講義では、「障害者の生活実態」、「法制度の発展過程」、「相談援助活動に必要な諸制度」の理解し、それらを活用できる専門知識を身につける。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

新・社会福祉士養成講座〈14〉障害者に対する支援と障害者自立支援制度 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2014年

《授業の到達目標》

- (1) 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要について理解する。
- (2) 障害者福祉制度の発展過程について理解する。
- (3) 相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

《授業時間外学習》

授業の中で、随時課題を出します。その都度指定された期日までに提出すること。

《成績評価の方法》

授業態度 (20%)  
レポート課題 (30%)  
定期試験 (50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要の実態を理解する。
2	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢	障害者の地域移行や就労の実態を理解する。
3	障害者福祉制度の発展過程①	人権思想とノーマライゼーションについて理解する。
4	障害者福祉制度の発展過程②	日本の障害者福祉の歴史を理解する。
5	障害者の生活のニーズ	障害者の生活実態と内面（心）の理解、さらに生活ニーズを理解する。
6	障害者の法体系と実施機関	障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健法、発達障害者支援法を理解する。
7	障害者総合支援法の概要	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）の目的、障害支援区分、判定の仕組みとプロセスと財源を理解する。
8	障害者総合支援法の概要	障害福祉サービスの種類、障害者支援施設の種類、補装具・住宅改修の種類、自立支援医療、地域生活支援事業、苦情解決、審査請求などを理解する。
9	障害者総合支援法における組織と団体の役割	国の役割、市町村の役割、都道府県の役割、指定サービス事業者の役割、国民健康保険団体連合会の役割、労働関係機関の役割、教育機関の役割を理解する。
10	相談支援事業所の役割と実際と最近の動向	相談支援事業所の組織体系と活動の実際を学び、障害者総合支援法の最近の動向を理解する。
11	障害者の生活保障	所得保障と各種手当、障害者の雇用の促進等に関する法律について理解する。
12	障害者の社会参加	障害者の社会参加の現状と取り組みと、社会参加を拒む要因と克服課題について学ぶ。
13	障害者ケアマネジメント	障害者ケアマネジメントの理念を理解し、身体障害者、知的障害者、精神障害者の障害特性と生活ニーズを理解し、障害別ケアマネジメントの特色を学ぶ。
14	権利擁護にかかわるシステム	苦情解決制度、障害者虐待防止法、日常生活自立支援事業と成年後見制度を理解する。
15	障害者ソーシャルワークの実際	身体障害者、知的障害者の地域生活支援の実際を学ぶ。

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度		科目ナンバリング	SSWB22016	
担当者氏名	小倉 毅				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

少子・高齢化が進むなか、子どもや子育て家庭がおかれている状況も複雑化しており、さまざまな視点から支援していかなければならない。そこで、児童福祉を实践するために必要な児童福祉理念や意義、法体系を理解するとともに、母子保健、障がい、子育て支援、ひとり親家庭、社会的養護、非行、情緒障がい、児童虐待、家庭内暴力などの分野別の現状と施策を把握し、それぞれの課題を考察していく。

《テキスト》

第3版 児童家庭福祉 小倉毅・松井圭三 編 大学教育出版

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 中央法規出版

《授業の到達目標》

- ・児童・家庭福祉の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際を理解する。
- ・児童の定義と権利、児童福祉法など各法制度を理解する。
- ・現代の児童・家庭福祉について論じることができる。

《授業時間外学習》

児童・家庭に関する問題に興味をもってボランティア等に参加し、現代社会におかれている当事者の想いや諸問題を理解してほしい。

《成績評価の方法》

- (1) 定期試験50%
- (2) レポート・小テストなど20%
- (3) 実技への参加態度30%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会と児童・家庭の問題	現代社会が生み出す子育て・子育ての実情と近年の子育て・子育て支援の仕組みを把握する。
2	児童・家庭福祉の理念	児童・家庭福祉は、保護者による私的責任（自助）を核にして、社会的責任（共助）、公的責任（公助）が関与することによって成立していることを理解する。
3	児童の権利保障、児童・家庭福祉の歩み	児童を権利主体として認め、その福祉を実現するようになった経過を、日本および英米の制度の展開及び具体的な活動の歩みを通して理解する。
4	児童・家庭福祉の法制度	児童福祉法をはじめとして、児童福祉六法及び児童虐待の防止等に関する法律など、児童・家庭福祉に関係する法律を理解し、児童福祉制度の概要を把握する。
5	児童・家庭福祉の行政機関と施設	児童・家庭福祉サービスの体系、行政機関・児童福祉施設等の実施体制、サービスの利用方式を理解するとともに、サービスが計画的に推進されていることを把握する。
6	児童・家庭福祉の専門職	児童と家庭福祉に関係する行政機関と施設の専門職について理解する。
7	分野別課題と施策 ①母子保健	母子保健の歩みと現状を踏まえながら、母子保健の制度・施策を理解し、その課題を考える。
8	②障がい・難病のある児童と家族	障がいや難病のある児童と家族の実情を踏まえながら、児童や家族のライフコースの視点に立ち支援の制度・施策を理解し、その課題を考える。
9	③保育・子育て支援	少子化の進行、家庭や地域の養育機能の変化を踏まえながら、保育・子育て支援の取り組みを理解し、その課題を考える。
10	④ひとり親家庭	ひとり親家庭の現状を踏まえながら、ひとり親家庭の福祉施策の概要を理解し、その課題を考える。
11	⑤児童の社会的養護	児童の社会的養護への取り組み方の変遷を踏まえながら、家庭支援型・家庭補完型・家庭代替型社会的養護の仕組みを理解し、その課題を考える。
12	⑥非行児童・情緒障がい児	非行児童と情緒障がい児の動向を踏まえながら、非行児童と情緒障がい児とその家族への支援に関する施策を理解し、その課題を考える。
13	⑦児童虐待	児童虐待の実態を踏まえながら、児童を虐待から保護する仕組みを理解し、その課題を考える。
14	⑧ドメスティック・バイオレンス	婦人保護から女性福祉への変遷を踏まえながら、家庭内暴力における児童・家庭に関する女性を支援するための制度・施策を理解し、その課題を考える。
15	児童・家庭への相談援助活動	児童・家庭福祉の理念および制度を踏まえながら、児童・家庭福祉分野における相談援助活動の留意点を理解する。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	地域福祉の理論と方法 I		科目ナンバリング	SSPB12017	
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）				

《授業の概要》

地域や自治体の定義やソーシャルキャピタルなど地域の枠組みを示し、地域福祉に不可欠な制度や組織の役割を解説します。経済社会の歴史的な流れを解説し、福祉国家から福祉社会に移行することの中で地域福祉が重要視されるようになったこととその意義を説明します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

新社会福祉士養成講座「地域福祉の理論と方法」中央法規  
「地域福祉の原理と方法（第2版）」学文社

《授業の到達目標》

福祉社会の中での地域の重要性と地域福祉の意義を理解し、ソーシャルワーク実践での指針とします。地域福祉に係る制度、利用可能な資源（人材や組織を含む）についての知識を獲得し、地域と関わる実践に役立てるようにします。

《授業時間外学習》

事前学習としては、次回の授業に関連し調べておくことを指示します。事後学習としては授業で宿題を課すことがありますので、レポートとして提出してください。

《成績評価の方法》

定期試験で70%を評価します。授業態度として、レポート課題の提出状況などを評価します（30%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要と地域福祉の社会福祉における位置づけなどを説明します。
2	地域福祉と地域	社会学からのコミュニティの定義や自治体の範囲など法的な地域の定義を行います。
3	地域福祉が登場した歴史1	近代以前から地域における結びつきが近代国家の成立につれ変化することを学びます。
4	地域福祉が登場した歴史2	自助や慈善から社会制度として福祉が位置付けられる過程と地域との関係を学びます。
5	地域福祉が登場した歴史3	日本の地域福祉の登場の前史としての戦前の地域における福祉を学びます。そして戦後の地域福祉の萌芽と地域化の過程を学びます。
6	地域福祉が登場した歴史4	経済成長が可能にした福祉国家とその変化の中での地域福祉の重要性を学びます。
7	地域福祉に関わる資源1	地域福祉の要でもある社会福祉協議会の歴史的な経緯や現在の活動を解説します。
8	地域福祉に関わる資源2	社会福祉協議会の課題の他、権利擁護の重要性を踏まえその役割について説明します。
9	地域福祉に関わる資源3	NPOと社会的経済に関わる各種の概念（エコマネーやコミュニティビジネス、社会的企業）について説明をします。
10	地域福祉に関わる資源4	引き続き、NPOについて説明を行い、地域福祉に果たす役割などを解説します。
11	地域福祉に関わる資源5	民生委員や自治会などその成立の過程を含め、現在の役割を解説します。
12	地域福祉に関わる資源6	地域包括支援センターと地域包括ケアなど今後必要となる地域の課題解決のための福祉拠点について説明します。
13	地域福祉に関わる資源7	引き続き、地域の課題解決のための福祉の拠点について説明します。
14	地域福祉に関する制度1	社会福祉法に基づく地域福祉計画について政策の重要性とともに理解します。
15	地域福祉に関する制度2	指定管理者制度や委託事業など、実際の政策におけるツールを学びます。

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度		科目ナンバリング	SSPB22018	
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

本講義では、貧困に関する先行研究、および英国、日本の公的扶助の歴史的形成過程と発展を概観し、わが国における低所得者の生活実態を理解する。また、わが国の生活保護制度制度の実施体制などの理解を通して、ソーシャルワーカー（SW）の役割、関係諸機関とのネットワークの構築等を学ぶ。これと並行して、被保護者への具体的な援助計画を立て、自立支援や住宅政策などの取り組みについて理解を深める。

《テキスト》

「低所得者に対する支援と生活保護制度」新・社会福祉士養成講座16/ 中央法規出版

《参考図書》

《授業の到達目標》

本講義では以下の達成目標を設定する。

1. 社会福祉政策における公的扶助の役割を理解する。
2. 貧困をめぐる課題とその背景を考え、適切な支援計画を思考する。
3. 生活保護に関する事例をもとに、生活保護の制度を利用した援助方法を立てる。
4. 低所得者の就労支援の援助計画を立て課題点を分析する。

《授業時間外学習》

今日的課題である。毎日、新聞の社会欄に目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

1. 授業内討論等への参加とその成果（20%）
2. レポート課題等の提出物（30%）
3. 定期試験（50%）

《備考》

演習・ロールプレイを多用するので出席は必須

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講義を学ぶに際しての受講上の留意点、成績評価、出欠について周知する。また、基本的な出発点としての憲法第25条の理解を深める。
2	公的扶助制度の歴史	近代以降の日本の貧困政策、選別的救済の歴史を概観し、戦後の生活保護制度の制定から今日までの社会福祉政策を跡付ける。
3	英国の貧困政策の歴史	エリザベス救済法を起点に、被救済者に対する差別的な扱いからナショナルミニマムへと展開する英国の社会福祉政策理念を概観する。
4	貧困と相対的はく奪	ティトマスの相対的はく奪の理論を学び、絶対的貧困と相対的貧困の概念について理解を深める。参考として開発途上国のVTRを用いる。
5	低所得者層の生活実態と貧困	事例問題を議論し、時系列に沿って検討していきながら、低所得者問題の理解を深める。
6	生活保護の実施体制	生活保護の実施体制について理解する。
7	生活保護の原理・原則	生活保護の原理・原則について理解する。
8	生活保護基準と要否判定	生活保護基準と要否判定について理解する。現場のソーシャルワーカーによる講義を予定している。
9	生活保護の動向と財源	生活保護の動向と財源について理解する。現場のソーシャルワーカーによる講義を予定している。
10	自立支援プログラムによる相談援助	自立支援プログラムの実施におけるソーシャルワーカーの相談援助の方法を学ぶ。ロールプレイによって理解を深める。
11	ホームレスの生活と相談援助	ホームレスの人々の生活支援の方法を学ぶ。住宅政策についても理解を深める。
12	低所得者への社会福祉サービス	低所得者への福祉サービスの種類、およびその支援の方法を学ぶ。事例をもとに検討を重ね理解を深める。
13	低所得者への就労支援サービス	低所得者への就労支援サービス、およびその支援の方法を学ぶ。事例をもとに検討を重ね理解を深める。
14	ソーシャルワークの視点から貧困を考える	生活困窮者支援におけるソーシャルワーカーの相談援助の方法を学ぶ。ロールプレイによって理解を深める。
15	まとめ	講義での重要項目について再度復習し、目標達成ができた事を確認する。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	権利擁護と成年後見制度		科目ナンバリング	SSPB22019	
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）</li> <li>◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> </ul>				

《授業の概要》

「権利擁護と成年後見制度」では日本国憲法、行政法、民法等の理解は必須であるが、対象者は認知症など社会福祉の対象者であることから、授業では法学の未履修者も受け入れ、基礎的な法学の授業から始める。法や社会福祉の専門職が、判断能力の衰えた対象者の方々の日常生活や人権をどのように護ればよいのかを、さまざまな社会資源の連携と権利擁護の観点から考察し、その運用について理解を深める。

《授業の到達目標》

- (1) 日本国憲法・行政法・民法を理解し、その運用について正しく把握する。
- (2) 権利擁護・成年後見制度のしくみと関係諸機関について理解する。
- (3) 権利擁護・成年後見制度を必要とする人々の現状を理解し、専門職連携についてその実際を学ぶ。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果 (20%)
- (2) レポート課題等の提出物 (30%)
- (3) 定期試験 (50%)

《テキスト》

『新・社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社

《参考図書》

授業中、適宜指示する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。
- (2) 復習：自ら授業内容の再確認を行うこと。理解が十分でない項目などに関しては、積極的に担当者に質問し、毎回の授業を確実なものにしていく努力が望まれる。授業では適宜、関連図書などの紹介も行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の方法、および授業の概略をつかむ。
2	日本国憲法・行政法の理解	日本国憲法の理念、および人権思想について学ぶ。また憲法の具体的な方法としての行政法を理解する。
3	民法（親族・相続/物件）の理解	権利擁護・成年後見制度は財産問題と切り離せない。このことを踏まえて、民法の基礎的な理解を深める。親族・相続・契約・物件についての知識を確実なものとする。
4	成年後見制度の概要（後見/保佐/補助人）	任意後見・法廷後見の相違、および後见人・保佐人・補助人の役割と権利・義務を理解する。
5	成年後見制度と関係機関の理解	家庭裁判所、法務局（後見登録）の活動内容を把握する。弁護士・司法書士の役割、権限等を理解する。
6	任意後見制度に係る諸問題：不法行為/民事訴訟等	任意後見の実際についてさまざまな事例をもとに理解を深める。
7	日常生活自立支援事業の概要(1)	日常生活自立支援事業の概要、および社会福祉協議会の役割について学ぶ。
8	日常生活自立支援事業の概要(2)	認知症高齢者の日常生活の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
9	知的・身体障害者の権利擁護問題	知的障害者・身体障害者の日常生活、および職場での支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
10	精神障害者の権利擁護問題	精神障害者の日常生活の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
11	児童分野における権利擁護問題	児童虐待の支援の概要を把握し、事例をもとに理解を深める。
12	専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）連携	各専門職による連携の実際をビデオにより学び、より良い支援についてグループ討論により理解を深める。
13	権利擁護と医師の役割	鑑定・診断に係る医師の役割と専門職連携の今後の課題を理解する。
14	成年後見制度利用支援事業	成年後見制度利用支援事業として、アルコール依存者、消費者被害者、多重債務者の問題を考える。
15	I期まとめ	補充説明とI期の総まとめ。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助の理論と方法 I		科目ナンバリング	SSPB12020	
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> </ul>				

《授業の概要》

対人援助の在り方について、面接の進め方、専門職としての価値、態度の再確認と、それを実践に移していける援助技術の展開の仕方について、講義と事例から学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編「相談援助の理論と方法 I 第2版」 中央法規

《参考図書》

- ・H.M. パートレット著 小松源助訳「社会福祉実践の共通基盤」ミネルヴァ書房 2009
- ・Germain, C著 小島蓉子訳「エコロジカル・ソーシャルワーク」学苑社 1992年
- ・社会福祉小6法 中央法規 2013

《授業の到達目標》

実習に赴いたときに、利用者の問題や、課題を利用者や家族との話しの中から、また記録の中からまとめだすことができ、具体的な支援計画の作成の手順とが理解できる。また、利用者との話をどのように展開していくかの流れを形成していくことができるようになる。

《授業時間外学習》

新聞をはじめとするメディアの報道に目を通すことと、人についての発達段階と、その各段階で遭遇する解決課題について、各自の知識として整理しておくこと。授業はシラバスに添って進められます。教科書の該当箇所を、各自でしっかりと事前学習をしてください。

《成績評価の方法》

評価は、授業態度30% 課題達成20% 終了時テスト50%として行う。この基準で出した評価点（100点満点）を、各自の評価とする。

《備考》

遅刻は一切認めない。定時に始まり、定時に終わる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助とは	相談援助とは、その援助技術であるソーシャルワークとは、どのように考えるべきものであるのか、また相談援助にあたる専門職の役割とはについて検討する。
2	ソーシャルワークの構成要素とその機能を考える	人と環境との関連性を検討するとともに、個人、家族、小集団、地域等がそれぞれに、総合的な観点から、評価し、優れたところも保持した存在であることを、検討する。
3	人と環境との相互作用とは	システム理論をもとに、人と環境の関わり、人と人の関わりを検討するとともに、システム理論をソーシャルワークが取り入れる意味について検討する。
4	援助関係の形成と援助関係のもたらすもの	援助関係とはどのような状況をいうのか、また、援助関係を形成していくにはどのような事柄に留意していくべきなのかを検討する。
5	援助者の機能と役割、また援助者に求められるもの	援助関係で援助者が果たすべき役割はどのようなものであり、援助関係の質を高めるためには、援助者としてどのような取り組みが求められるのかを検討する。
6	対象による援助関係の特徴	援助の対象、利用者の状態、おかれている環境によって、形成されるべき援助関係についての配慮が求められるが、それぞれでどのような配慮を必要とするのかを検討する。
7	相談援助での一般的な留意点	ソーシャルワーク援助のすべてのプロセスを通して、援助者はどのようなことに留意し、支援を進め、形作っていくのかについて述べる。
8	インテーク面接の役割と留意点	ソーシャルワーク援助でのインテーク面接の位置づけと、インテークワーカーの役割、クライアントのモチベーションと面接の進め方について検討する。
9	問題とは、ニーズとは、事実とは	利用者の抱える困りごとを聴きとるためには、どのような配慮と、援助者の視点が求められるのか、真実に迫る面接を構成する要件とはについて検討する。
10	アセスメントの精度を高める情報収集と分析	アセスメントの精度が支援の効果を左右する。利用者の全方位的なアセスメントが総てを決することを意識したうえで、アセスメントの在り方を検討する。
11	解決課題設定と支援計画の作成	解決課題（ニーズ）の確定と、効率的な解決手順の設定を目指した利用者との共同作業の内容が、支援計画の質の高さに大きく影響することを確認する。
12	支援計画の実施とモニタリング	周到な準備の上で実施される支援計画に基づいたサービス提供が、予定通りの効果を上げているのかの確認と、それによる利用者の変化についての確認の仕方を学ぶ。
13	モニタリングと支援計画の変更	モニタリング結果を参考に、予定通りの効果が発揮できていない原因の把握と、効果的なサービス提供がなされるためのサービスの変更や支援計画の修正について学ぶ。
14	支援の終了とアフターケア	支援の終了は環境の変化を生み出し、利用者の新しいストレスとなりうる。新しい適応課題の出現の有無を確認するとともに、精神面のサポートを行うことの重要性を学ぶ。
15	効果的な面接の進め方	14回の授業を総括し、効果的な面接の進め方を確認し、より学びを実践に近づけるものとする。

科目名	相談援助演習 I A		科目ナンバリング	SSPB12021
担当者氏名	未定			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）			

《授業の概要》

ソーシャルワーカーは、インターンです。言わば、資格がないのに実習に行き、その実習を通してアプローチの方法やコミュニケーションの方法等の技術や倫理観・制度政策の活用実践などを学びます。特に本授業は、精神障害者のより良い理解と支援の在り方について、支援課題別・対象者別にロールプレイ等により、ソーシャルワークの展開スキルを段階的に学びます。

《授業の到達目標》

ソーシャルワークの対象者の状況・生活課題について学び、理解を広げます。さらにより良い支援につながるよう現状の分析・評価を行い、計画作成までを行います。面接場面からの支援過程を演習を通して学んでいきます。

《成績評価の方法》

演習におけるレポート(40点)・ロールプレイを通してソーシャルワークの技術評価(40点)・専門知識のテスト及び授業姿勢(20点)

《テキスト》

社会福祉士相談援助演習 監修 社団法人 日本社会福祉士養成校協会 編集 白澤政和 福山和女 石川久展 中央法規 ISBN978-4-8058-3124-3

《参考図書》

対人援助のための相談面接技術 岩間伸之 ISBN978-4-8058-3073-4 (中央法規) 新・精神保健福祉士養成課程講座 8 精神保健福祉援助演習 編集 日本精神保健福祉士協会 ISBN978-4-8058-3581-C3036 (中央法規)

《授業時間外学習》

ボランティア等に積極的に参加し、対象者の理解に努め、ソーシャルワーク技術や介護を学んでください。

《備考》

精神障害者の日記・自伝・精神医学や精神保健福祉士が書いた著書を読み理解を広げてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の方法について学ぶ	オリエンテーション。精神保健福祉士になるための演習の目的と内容を学ぶ。
2	情報・知識の収集と整理の方法	クライアントのニーズを捉え、情報・知識の収集方法と整理方法について学ぶ。
3	利用者理解と基本的対応①	精神保健福祉士として自己理解と他者理解について考える。
4	利用者理解と基本的対応②	専門職の価値と倫理について事例を通して学ぶ。
5	利用者理解の実技	対人援助のための利用者理解と他者理解について考える。
6	援助関係形成の実技	バイステイクの七原則、ラポール形成のための具体的技法について実技を通して学ぶ。
7	援助技術の習得	さまざまな相談援助方法とコミュニケーションの取り方について実技を行い、さらにグループワークの展開スキルも学んでいく。
8	記録の技術を身につける	①観察方法とアセスメント方法、②記録の必要性和その方法について学ぶ。
9	チームアプローチの共通技術	ケアカンファレンスやコンサルテーションの実技を通して学ぶ。
10	地域福祉援助の基礎整備に関わる技術	地域福祉ニーズ調査として実習現場の町の資源調査を通して、地域の課題や施設の抱える課題等からコミュニティソーシャルワークの目的を洗い出してみる。
11	コミュニティワークの技法	ネットワークの連結技法・計画策定技法を活用してソーシャルアクションを考えてみる。
12	実践モデル・アプローチの技術①	演習モデルにおいて、相談援助の展開過程を自ら考えて演じてみる。ロールプレイを通して、面接技術の実践展開を身につける。アルコール依存症・児童虐待・その他
13	実践モデル・アプローチの技術①	演習モデルにおいて、相談援助の展開過程を自ら考えて演じてみる。ロールプレイを通して、面接技術の実践展開を身につける。アルコール依存症・児童虐待・その他
14	実践モデル・アプローチの技術①	演習モデルにおいて、相談援助の展開過程を自ら考えて演じてみる。ロールプレイを通して、面接技術の実践展開を身につける。アルコール依存症・児童虐待・その他
15	まとめ	相談援助の姿勢・人権擁護と支援の在り方について復習する。



《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習指導 I		科目ナンバリング	SSWB21012
担当者氏名	田端 和彦、小倉 毅			
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）</li> </ul>			

《授業の概要》

利用者の相談援助には、まず利用者を知ることが重要になります。利用者理解のためには、例えばコミュニケーションの取り方や介護などを通して利用者とは接する機会があるため、その技術を学ぶ必要があります。そこで実習の基礎となるこの授業では、これらの基礎を学びます。また後半では今後の実習に向けての実習計画の作成、報告書の作成についての具体的な方法をグループワークなどを通して学びます。

《授業の到達目標》

利用者と接し、コミュニケーションを取ることができるような基礎的な技術や知識を身につけます。またグループワークなどを通して、今後の実習の際に必要な実習計画の立案や報告書の作成に必要な基礎的な知識や技術を身につけることができます。

《成績評価の方法》

授業を受けるタイド、グループワークの状況、授業内で課すレポートなど通常点（100%）

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会 2版(監修)、白澤 政和、米本 秀仁編「社会福祉士相談援助実習」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業時間外学習》

授業の中で宿題を課します。

《備考》

現場を知る機会を最大限生かすために、そうした機会のため調整を行うかもしれません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	相談援助実習指導 I の位置づけ、目的、課題を学びます。
2	コミュニケーションの方法①	職員や利用者など、多くの方々に対し挨拶や自己紹介などを行い、また相手からの働きかけへの適切な対応を学びます。
3	コミュニケーションの方法②	円滑な人間関係とはどのようなことか、特に、不特定多数の方との関係づくりに必要な方法について学びます。
4	コミュニケーションの方法③	言語でのコミュニケーションだけでなく、非言語でのコミュニケーションの方法について学びます。
5	利用者の理解	利用者について、統計や書籍等を参考にしながら学びます。
6	社会福祉施設と地域	社会福祉施設と地域との関係について、事例をもとにグループワークなどで考えます。
7	介護の現場に必要な基礎技術①	介護の現場で必要となる基礎的な技術について学びます。
8	介護の現場に必要な基礎技術②	引き続き、介護の現場で必要となる基礎的な技術について学びます。
9	現場の観察と報告の作成①	観察をしたことを報告や日誌、記録にまとめるための技術や方法を学びます。
10	現場の観察と報告の作成②	引き続き、観察をしたことを報告や日誌、記録にまとめるための技術や方法を学びます。
11	実習計画書の作成方法①	PDCAサイクルを基本として、計画とはどのようなものであるか、実習における計画の役割について学びます。
12	実習計画書の作成方法②	実習計画書案を作成し、グループで評価をします。
13	施設の理解とサービス理解①	施設の現状と実習では実際にどのようなことをするのかを理解するために、福祉施設の見学、現場の担当者の方への取材等を行います。
14	施設の理解とサービス理解②	引き続き、施設の現状と実習では実際にどのようなことをするのかを理解するために、福祉施設の見学、現場の担当者の方への取材等を行います。
15	全体総括	利用者理解、施設の理解、実習に必要な知識や技術等の整理を行います。

科目名	相談援助実習指導Ⅱ		科目ナンバリング	SSWB22022	
担当者氏名	小倉 毅、吉原 恵子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(Ⅰ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)</li> <li>○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)</li> </ul>				

《授業の概要》

【教育目標】

社会福祉教育は実践的な学問であり、福祉の現場から切り離れた福祉の学習・研究は考えられません。福祉のサービスを利用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設・従事者の実際の実践活動を学ぶ実習教育を、理論的な学習と並ぶ車の両輪として位置づけます。

《授業の到達目標》

相談援助実習のための事前～事後学習指導。実習が実りあるものとなるよう、実習先に応じた事前学習、実習中の不安や悩みへの対応、実習後の課題整理・レポート作成、同種の実習先で体験した学生による相互討議など、個別指導とグループ指導によって実習に向け学習を進めます。

《成績評価の方法》

実習計画書づくり、レポート(50%)、出席授業姿勢(50%)  
ソーシャルワーカーとしての資質も問うので授業態度や意欲も成績評価の対象とします。

《テキスト》

〔編集〕白澤正和・米本秀仁〔監修〕社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助実習』中央法規, 2009, ISBN978-4-8058-3125-0c3036

《参考図書》

ソーシャルワークとグローバリゼーション 仲村優一 編集  
日本ソーシャルワーカー協会国際委員会 2003年8月 相川書房  
新・社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』2010年1月 中央法規出版

《授業時間外学習》

社会福祉施設・機関で5日間実習します。実際の福祉現場の業務や援助実践を体験し、就労姿勢を学びます。さらに、対象となる問題の捉え方、援助実践の方法・技術、さまざまな制度に関する体系的知識や施設分析を学習します。なお、利用者への理解を深めるとともに、自分の性格やソーシャルワークになるために求められる資質を培うために、自己覚知します。

《備考》

実践としての社会福祉を重視し、実習指導を充実させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	social work ガイダンス 全体オリエンテーション	実習に向けた姿勢とソーシャルワーク実習指導内容について(実習の位置づけと内容の理解(社会福祉士及び介護福祉士法、実習の意義、特徴、具体的内容など))
2	レクリエーション活動の 意義を理解する	レクリエーション支援の理解と事業計画の展開と事業計画について理解し、実際に実施する事業計画を分野別(グループワーク)に作成する。
3	レクリエーションの展開 方法を理解する	分野別に作成した事業計画書を用いて活動し、支援対象者に応じた展開方法と安全管理について学ぶ。
4	実習における事前学習の 必要性を理解する①	社会福祉士実習として必要な実習機関先の情報や知識を獲得(利用者の理解、疾病・障害の理解、職場の理解、職種、根拠法の理解など)する。
5	実習における事前学習の 必要性を理解する②	実習機関先の情報や知識を獲得後、どのような課題をもって取り組むのかを明確(課題名、学習内容、問題意識を明らかにする)にする。
6	利用者理解(障害者)	実習先で行われている介護や医療・療育・ソーシャルワーク等の関連業務に関する基本的な理解及び障害の病理とコミュニケーション方法等について学ぶ。
7	利用者理解(児童)	実習先で行われている介護や保育・ソーシャルワーク等の関連業務に関する基本的な理解並びに虐待・非行などの青少年の支援と家族への支援の在り方や社会制度を学ぶ。
8	利用者理解(高齢者)	実習先で行われている介護や医療・ソーシャルワーク等の関連業務に関する基本的な理解及び高齢者の加齢に伴う身体状況の理解、介護方法について学ぶ。
9	実習計画書を作成する	実習の動機や問題意識を整理しながら、主体的に実習に臨めるよう実習目的を明らかにし、それに基づく計画を立案する。
10	事前訪問方法及び一般的な マナーを理解する。	事前訪問のために事前予約方法、実習生に求められる挨拶、電話のかけ方、服装、身だしなみ等について理解する。
11	実習記録の活用方法を理 解する。	実習日誌は、実習指導者からフィードバックしてもらえ大切な記録である。ここでは、実習日誌を書く目的や記録上の留意点について理解する。
12	ソーシャルワーカーの姿 勢・専門職の責務	クライアントとの関係・利益の優先・個性の尊重・受容・秘密保持について考える。機関との関係 所属機関と綱領の精神・業務改革の責務などについて考える。
13	直前学習(事務手続き等 を理解する)	実習ノートの配布・必要な検査や事務手続き等について確認する。(緊急時の連絡方法、その他連絡事項を確認)
14	直前学習(お礼状の書き 方等)	実習後は、実習先に感謝の気持ちを伝えるお礼状の書き方について学ぶ。
15	直前学習(分野別指導)	実習中の留意点の確認・実習出勤簿の取扱い・実習記録の取扱い・健康管理・帰校日について・実習巡回指導について・実習後に行う手続き等について確認する。

科目名	相談援助実習指導Ⅱ		科目ナンバリング	SSWB22022	
担当者氏名	小倉 毅、吉原 恵子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)</li> <li>○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)</li> </ul>				

《授業の概要》

【教育目標】

社会福祉教育は実践的な学問であり、福祉の現場から切り離された福祉の学習・研究は考えられません。福祉のサービスを利用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設・従事者の実際の実践活動を学ぶ実習教育を、理論的な学習と並ぶ車の両輪として位置づけます。

《テキスト》

【編集】白澤正和・米本秀仁〔監修〕社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助実習』中央法規, 2009, ISBN978-4-8058-3125-0c3036

《参考図書》

新・社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の基盤と専門職』2010年1月 中央法規出版

《授業の到達目標》

社会福祉施設・機関で5日間実習します。実際の福祉現場の業務や援助実践を体験し、就労姿勢を学びます。さらに、なお利用者への理解を深めるとともに、自分の性格やソーシャルワーカーになるために求められる資質を培うために、自己覚知します。実習後の課題整理・レポート作成、同種の実習先で体験した学生による相互討議など、個別指導とグループ指導によって「他者からの気づき」から学習を深めます。

《授業時間外学習》

対象となる問題の捉え方・援助実践の方法・技術、さまざまな制度に関する体系的知識や施設分析を教科書等で振り返り、体験をソーシャルワーカーの力量として培っていきましょう。

《成績評価の方法》

実習計画書づくり、レポート(50%)、出席授業姿勢(50%)  
ソーシャルワーカーとしての資質も問うので授業態度や意欲も成績評価の対象とします。

《備考》

実践としての社会福祉を重視し、実習指導を充実させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	social work ガイダンス 全体オリエンテーション	基礎実習から抽出された課題の検証。実習先で感じた実習課題を自己分析する。
2	基礎実習課題の検証	基礎実習から抽出された課題の検証。実習先で感じた実習課題を自己分析する。
3	自己覚知と課題分析	基礎実習から抽出された課題の検証を行う。施設分野別にグループに分かれて、グループ討議を行い分析していく。分析・支援方法等について他者から学ぶ。
4	自己覚知と課題分析	実習先で行われているコミュニケーション等の直接的な援助・利用者への理解やソーシャルワークとその関連業務や場面・施設の現況等における課題について検証する。
5	自己覚知と課題分析	実習先で行われているコミュニケーション等の直接的な援助・利用者への理解やソーシャルワークとその関連業務や場面・施設の現況等における課題について検証する。
6	個別実習報告書の作成	実習から抽出された課題を他者からの意見等も踏まえ、自己分析しまとめる。
7	実習報告会の役割分担等 (グループワーク)	グループで役割分担、事例や課題を共有し、資料作成、プレゼンテーションをどのように行うか、決める。グループのメンバーと協調し取組むと同時に他者から学ぶ。
8	実習報告会資料の作成(グループワーク)	グループで役割分担、事例や課題を共有し、資料作成、プレゼンテーションをどのように行うか、決める。グループのメンバーと協調し取組むと同時に他者から学ぶ。
9	実習報告会資料の作成(グループワーク)	グループで役割分担、事例や課題を共有し、資料作成、プレゼンテーションをどのように行うか、決める。グループのメンバーと協調し取組むと同時に他者から学ぶ。
10	実習報告会資料の作成(グループワーク)	グループで役割分担、報告会を行う事例抽出、資料作成、プレゼンテーションをどのように行うか、決める。グループのメンバーと協調し取組むと同時に他者から学ぶ。
11	実習報告会資料の作成(グループワーク)	グループで役割分担、報告会を行う事例抽出、資料作成、プレゼンテーションをどのように行うか、決める。グループのメンバーと協調し取組むと同時に他者から学ぶ。
12	実習報告会資料の作成(グループワーク)	グループで①役割分担、報告会を行う事例抽出、資料作成、プレゼンテーションをどのように行うか、決める。グループのメンバーと協調し取組むと同時に他者から学ぶ。
13	実習報告会	実習報告会の開催
14	実習報告会振返り	実習報告会の振返り
15	総まとめ	基礎実習の総まとめ

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	統計学の基礎	科目ナンバリング	SFFC2023
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） <input checked="" type="radio"/> 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）		

《授業の概要》

さまざまな調査や実験において数値を扱うこととなります。その数値から何か結論を導き出すには、統計的な知識が必要となることが少なくありません。本講義では、具体的な問題についてソフトを利用した統計解析を行いながら、自らがデータを分析できるようになることを目指します。

《テキスト》

『使える統計－Excelで学ぶ実践心理統計－』 櫻井広幸・神宮英夫 著 ナカニシヤ出版

《参考図書》

《授業の到達目標》

○ExcelやJavaScript-STARで基本的な統計手法を実際に行うことができる。  
 ○統計についての基本的な考え方を理解し、データに対する適切な処理法を指摘することができる。

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。どういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。  
 ・復習の方法：もう一度テキストに目を通すとともに、授業で扱ったExcelなどの操作を確認しながら、統計手法の内容を確認してください。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 60% レポート・小テストなど 20% 受講態度 20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	統計の役割
2	尺度	尺度の種類、度数分布とヒストグラム
3	記述統計（1）	代表値
4	記述統計（2）	標準偏差、分散
5	正規分布	正規分布の意味、正規分布の形の特徴
6	母集団と標本	サンプルの平均についての平均と標準偏差
7	推測統計と仮説検定（1）	信頼区間
8	推測統計と仮説検定（2）	対応のある t 検定、対応のない t 検定
9	分散分析（1）	対応のある分散分析、対応のない分散分析
10	分散分析（2）	分散分析の下位検定：多重比較
11	相関と回帰（1）	相関係数
12	相関と回帰（2）	回帰分析
13	ノンパラメトリック検定法（1）	順位相関係数
14	ノンパラメトリック検定法（2）	$\chi^2$ 検定
15	これまで何を学んだか	まとめ

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス I		科目ナンバリング	SPSC22024
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）			

《授業の概要》

精神障害者の疾病・障害を学び、精神保健福祉士としての役割と精神障害者の特性への理解を深める。教科書や視聴覚教材を用いて授業を行う。グループワークを行い、障害者の理解や事例の研究を行い、精神保健福祉施策の現状と課題を学習する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 第6巻 精神保健福祉に関する制度とサービス 第3版 編集：日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規ISBN978-4-8058-3948-5

《参考図書》

第4版これからの精神保健福祉 精神保健福祉士ガイドブック 編集：柏木昭・荒田寛・佐々木敏明 へるす出版社ISBN978-4-89269-620-6

《授業の到達目標》

・障害者福祉における精神障害者福祉の位置付けを説明できるようになる。  
 ・理念や施策および実践課題を把握し、現状と課題を説明できるようになる。  
 ・精神障害者の人権を擁護し、精神保健福祉士の役割として期待される社会復帰に向けた援助方法や生活支援に関わる他機関多職種との連携、福祉施策とその実践のあり方を学び、実践に繋がる技術を習得することを目指す。

《授業時間外学習》

精神保健福祉分野における援助者を目指す上で、その姿勢や価値観の基盤となる科目である。そのため、時間外には、近隣の施設や精神科病院におけるシンポジウムやボランティア活動など能動的に取り組んでほしい。

《成績評価の方法》

授業への積極的参加態度（15%）、レポート課題（15%）、授業内課題（20%）、試験（50%）などから総合的に評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 人権とは	障害者の人権を擁護する立場からの専門職としての役割について偏見と差別の視点から考える。
2	精神医学の歴史と福祉の理念（世界）①	精神医学の歴史と障害者への排除の歴史を押さえ、世界の障害者福祉の持つ基本的な性格を理解する。
3	歴史と障害者福祉の理念（日本）②	精神医学の歴史と障害者への排除の歴史を押さえ、我が国の障害者福祉の持つ基本的な性格を理解する。
4	障害および障害者	障害の概念をWHOが新たに示した国際生活機能分類の視点から学習し、その上で障害者福祉法にみる障害の規定を習得する。
5	障害者福祉の基本施策	国および地方公共団体の責務や国民の責務も明らかにし、自立への努力の必要性などを定めた障害者基本法を中心に学習する。
6	精神障害者の生理と病理	精神障害者の脳機能の生理と病理について当事者の視点から振り返る。
7	精神障害者の主体性の尊重	個人の主体性と創造的な生き方とは何かを学習する。自分らしく生きることについて学習する。生と死、自殺防止法など。
8	精神保健福祉士法の意義と内容	精神障害者を側面から援助する専門職者としての精神保健福祉士法の意義と内容について学習する。（Y問題についてのレポートを課す。）
9	精神保健福祉領域の関連法	精神障害者への対策は、保健・医療・福祉・教育など関連施策による援助で構成される。これらの関連法規について学ぶ。
10	障害者福祉施策の概要①	障害者総合支援法と、その施策の概要を問題点と課題の観点から学習する。
11	障害者福祉施策の概要②	障害者総合支援法と精神保健福祉法の内容面から学習する。
12	障害者福祉施策の概要③	障害者虐待防止法を精神保健福祉の視点から学習する。
13	相談援助活動の方法	相談援助活動を行う際の基本や医療機関における相談援助活動を学ぶ。社会生活を支える施設や地域社会における相談援助活動を学習する。
14	相談援助活動の事例	成長・変化する援助関係を、統合失調症の方との援助関係の展開事例を通して学習する。
15	前期の総括	精神保健福祉施策の現状と課題の総括。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ		科目ナンバリング	SPSC22025	
担当者氏名	和田 光徳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）			

《授業の概要》

前期同様、精神障害者の疾病・障害を学び、精神保健福祉士としての役割と精神障害者の特性への理解を深める。教科書や視聴覚教材を用いて授業を行う。グループワークを行い、障害者の理解や事例の研究を行い、精神保健福祉施策の現状と課題を学習する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 第6巻 精神保健福祉に関する制度とサービス 第3版 編集：日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規ISBN978-4-8058-3948-5

《参考図書》

第4版これからの精神保健福祉精神保健福祉士ガイドブック 編集：柏木昭・荒田寛・佐々木敏明 へるす出版社ISBN978-4-89269-620-6

《授業の到達目標》

・障害者福祉における精神障害者福祉の位置付けを説明できるようになる。・理念や施策および実践課題を把握し、現状と課題を説明できるようになる。・精神障害者の人権を擁護し、精神保健福祉士の役割として期待される社会復帰に向けた援助方法や生活支援に関わる他機関多職種との連携、福祉施策とその実践のあり方を学び、実践に繋がる技術を習得することを目指す。

《授業時間外学習》

精神保健福祉分野における援助者を目指す上で、その姿勢や価値観の基盤となる科目である。そのため、時間外には、近隣の施設や精神科病院におけるシンポジウムやボランティア活動など能動的に取り組んでほしい。

《成績評価の方法》

授業への積極的参加態度（15%）、レポート課題（15%）、授業内課題（20%）、試験（50%）などから総合的に評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	後期の流れの確認。
2	医療保険制度	精神保健福祉分野の制度的社会資源としては、その中心をなす医療保険制度を、現物給付面と現金給付面から取り上げる。
3	精神保健福祉に係る公費負担制度	公費負担制度は公が租税を財源とし、保健・医療・福祉等にかかる費用の一部または全部を保障する制度である。障害者総合支援法の面から概観する。
4	精神障害者の所得保障・経済的負担の軽減	所得保障は、社会保険、公的扶助、各種手当の3つの制度から成る。精神障害者の障害者認定の現状、雇用・就労および所得保障の現状を学ぶ。
5	精神保健福祉施策の課題	精神障害者保健福祉手帳制度の概要と課題を中心に、今後の精神障害者福祉施策に求められる視点を概観する。
6	精神保健福祉に関する行政組織と民間組織	都道府県・政令指定都市(精神保健福祉センター・保健所を含む)における精神保健福祉と市町村、民間団体における精神保健福祉を学習する。
7	精神保健福祉における専門職との連携	精神障害者は疾病と障害を併せ持つため、治療等のために複数の専門職間の連携が必要となる。その各々の役割と、あり方を学習する。
8	更生保護制度とその担い手	更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係と現状
9	心神喪失等医療観察法の概要	心神喪失者等医療観察法と精神保健福祉士の役割について学ぶ。
10	社会調査の意義と目的、方法①	社会資源の調整・開発に関わる社会調査の意義を考える。
11	社会調査の意義と目的、方法②	量的調査の方法と活用。
12	社会調査の意義と目的、方法③	質的調査の方法と活用。
13	社会調査の意義と目的、方法④	量的調査の演習。
14	社会調査の意義と目的、方法⑤	質的調査の演習。
15	総括	精神保健福祉施策の現状と課題の総括。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神疾患とその治療 I	科目ナンバリング	SPSC22026
担当者氏名	三好 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

代表的な精神科疾患の症状やその状態像について具体的に講義する。それと共に、精神科医療機関でどのような治療をしているのか、また地域の諸機関でどのような取り組みがなされているのかを講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座1『精神疾患とその治療』、日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2012

《参考図書》

随時、必要な文献を印刷の上、配布する。

《授業の到達目標》

精神科疾患の症状やその状態像について理解して、精神科医療機関等でどのような治療や取り組みがなされているのか説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習しておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（議論に積極的に参加する態度など）（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 精神医学、精神医療の歴史	わが国の精神医療と精神医学の形成過程について理解する。
2	精神現象の生物学的基礎とこころの理解	脳の活動と脳の構造や機能について理解する。
3	精神障害の理解	精神疾患の成因と分類について理解する。
4	精神疾患の症状と診断	精神疾患の様々な症状とその状態像を理解すると共に、その診断の手順と方法、検査法について学び、診断の基本的な知識を理解する。
5	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の症状等の差異について理解する。
6	症状性精神障害とてんかん	症状性精神障害とてんかんの症状とその治療について理解する。
7	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	アルコールや薬物、有機溶剤など精神作用物質使用による精神疾患の症状等について理解する。
8	依存症の理解と治療	依存症の理解とその治療法と自助グループの役割について理解する。
9	自助グループ参加者の事例検討	自助グループに参加し回復した当事者の事例を検討し、自助グループの役割やその働きについて考える。
10	統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	統合失調症の症状、病型、及び治療法について理解する。
11	統合失調症患者への支援について	精神保健福祉士として統合失調症患者への支援の仕方について考える。
12	統合失調症者の事例検討	統合失調症者の事例を検討し、統合失調症への理解を深める。
13	気分障害の症状	気分障害の特徴や症状及びその性格傾向や環境因子等について理解する。
14	気分障害の治療	気分障害の治療とかわり方の留意点について理解する。
15	神経症性障害、ストレス関連障害、心身症	心理的原因によって起こる様々な神経症やストレス関連障害、心身症の症状や治療について理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神疾患とその治療Ⅱ	科目ナンバリング	SPSC22027
担当者氏名	三好 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

代表的な精神科疾患の症状やその状態像について具体的に講義する。それと共に、精神科医療機関でどのような治療をしているのか、また地域の諸機関でどのような取り組みがなされているのかを講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座1『精神疾患とその治療』、日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2012

《参考図書》

随時、必要な文献を印刷の上、配布する。

《授業の到達目標》

精神科疾患の症状やその状態像について理解して、精神科医療機関等でどのような治療や取り組みがなされているのか説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習しておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（議論に積極的に参加する態度など）（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生理的障害、身体的要因に関連した行動症候群	摂食障害や睡眠覚醒障害の症状や治療について理解する。
2	成人のパーソナリティおよび行動の障害	パーソナリティ障害や習慣及び衝動の障害の症状や状態について理解する。
3	精神遅滞	精神遅滞の概念や定義、分類及びその原因と福祉的ケアについて理解する。
4	心理的発達の障害	学習障害、広汎性発達障害の基本症状を知り、治療教育や福祉的ケアの必要性について理解する。
5	小児期、青年期に発症する行動及び情緒の障害	多動性障害、行為障害の症状や診断基準と治療について理解する。
6	精神療法	心理面に働きかける様々な精神療法について理解する。
7	精神科薬物療法	薬物療法の治療的効果とその副作用について理解する。
8	精神科リハビリテーション	社会復帰の促進に向けた様々な精神科リハビリテーションの技術、方法について理解する。
9	環境・社会療法	外来治療や入院治療、及び様々な社会療法について理解する。
10	疾病構造の変化	病院中心型精神医療から地域中心型医療の変化について理解する。
11	在宅医療	訪問診療などアウトリーチ型医療について理解する。
12	医療観察法	医療観察法の制度や手続き、及び、社会復帰調整官の業務とその役割について理解する。
13	精神科治療における人権擁護	精神科医療におけるインフォームドコンセントと自己決定権について理解する。
14	精神科救急医療	精神科救急の分類、対象、対処法について理解する。
15	精神医療と福祉との連携	精神医療と福祉および関連機関との間における連携の重要性を理解する。



《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）		科目ナンバリング	SPSC22028	
担当者氏名	知念 奈美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> <li>○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> </ul>				

《授業の概要》

精神保健福祉士が行う相談援助と、そこにかかわる専門職、そして他職種連携を中心とした精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助について学ぶ。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座3 精神保健福祉相談援助の基盤（木曾・専門）

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象者と相談活動の基本的考え方、相談援助に係わる専門即の概念と範囲、および精神障害者の相談援助における総合的かつ包括的な援助と他職種連携について理解し、説明できる。

《授業時間外学習》

シラバスを参照の上、予定されている内容は授業前に読み、基礎的な知識を得ておくこと。

《成績評価の方法》

- (1) 授業中のディスカッションや個別・グループ作業における参加意欲、協力態度、作業成果20%
- (2) レポート課題等の提出物20%
- (3) 定期試験60%（試験は「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健福祉分野における相談援助の体系①	精神保健分野における相談援助活動の対象
2	精神保健福祉分野における相談援助の体系②	精神保健分野における相談援助活動の目的と意義
3	精神保健福祉分野における相談援助の体系③	精神保健分野における援助活動の現状と今後の展開
4	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲①	精神保健福祉士概念① 「相談援助にかかわる専門職」とは何かー広義の概念と狭義の概念
5	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲②	精神保健福祉士概念② 精神保健福祉士の成立要件
6	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲③	精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務① 1 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念
7	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲④	精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務② 2 精神科医療機関における専門職①
8	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲⑤	精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務③ 2 精神科医療機関における専門職②
9	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲⑥	精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務④ 3 行政機関における専門職
10	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲⑦	精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務⑤ 4 障害福祉サービス事業所等における専門職
11	精神保健福祉活動の包括的な援助と他職種連携①	総合的・包括的な援助を支える理論
12	精神保健福祉活動の包括的な援助と他職種連携②	総合的・包括的な援助の機能と概要
13	精神保健福祉活動の包括的な援助と他職種連携③	他職種連携（チームアプローチ）の意義と概要
14	精神保健福祉活動の包括的な援助と他職種連携④	他職種連携における精神保健福祉士の役割
15	まとめ	今期の学習内容のふり返り

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	福祉レクリエーションⅠ	科目ナンバリング	SFFD22029
担当者氏名	マーレー 寛子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

福祉レクリエーション支援の土台となる楽しさの経験について理論的に理解することができる。また、実際の福祉レクリエーション支援を理論に基づいて実施するための諸理論を学び具体的な支援と結びつけることができる。

《テキスト》

適宜提示する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

福祉レクリエーション支援の土台となる楽しさの経験について理論的に理解することができる。また、実際の福祉レクリエーション支援を理論に基づいて実施するための諸理論を学び具体的な支援と結びつけることができる。

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	レクリエーションの意義①	レクリエーションの意義その背景
2	レクリエーションの意義②	楽しさの追及についての理解
3	レクリエーションの意義③	福祉レクリエーション支援と楽しさの経験
4	レクリエーションの意義④	レジャーとレクリエーションの意味
5	レクリエーション支援①	内発的動機付けとレクリエーション支援
6	レクリエーション支援②	レクリエーション支援の中での自己決定の意義と役割
7	レクリエーション支援③	レクリエーション支援とフロー理論
8	レクリエーション支援と理論①	楽しさの経験とその諸理論
9	レクリエーション支援と理論②	グループワークの諸理論とレクリエーション支援との関係
10	レクリエーション支援と理論③	グループダイナミクスとレクリエーション支援
11	リーダーシップ論	リーダーシップ論
12	セラピューティックレクリエーションとは	セラピューティックレクリエーションとは
13	行動変容と自己効力感	行動変容と自己効力感
14	福祉レクリエーションワーカーの役割と資質	福祉レクリエーションワーカーの役割と資質
15	まとめ	福祉レクリエーションの実践領域

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	福祉レクリエーション演習 I	科目ナンバリング	SFFD22030
担当者氏名	原 志津、田島 栄文		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）		

《授業の概要》

福祉現場におけるレクリエーションの意義や、社会福祉支援者に必要なレクリエーション活動支援技術を理解し、対人援助の基本から学び、集団型レクリエーション活動支援の体験や演習を展開していく。

《テキスト》

適宜提示する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ・レクリエーション活動支援計画の作成能力や実践能力を習得向上する。
- ・レクリエーション活動の素材に内在する楽しさや喜びを体験・理解し、その展開法（アレンジ法）を習得する。

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コミュニケーション・ワーク①	ホスピタリティとは
2	コミュニケーション・ワーク②	ホスピタリティの示し方
3	コミュニケーション・ワーク③	アイスブレイキングとは
4	コミュニケーション・ワーク④	アイスブレイキング方法
5	目的にあわせたレクリエーション・ワーク①	目的に沿ったアクティビティの選択
6	目的にあわせたレクリエーション・ワーク②	アクティビティの展開方法
7	目的にあわせたレクリエーション・ワーク③	相互作用の活用方法 1
8	目的にあわせたレクリエーション・ワーク④	相互作用の活用方法 2
9	目的にあわせたレクリエーション・ワーク⑤	支援実習 1-1
10	目的にあわせたレクリエーション・ワーク⑥	支援実習 1-2
11	対象にあわせたレクリエーション・ワーク①	対象にあわせたアレンジ方法 1
12	対象にあわせたレクリエーション・ワーク②	対象にあわせたアレンジ方法 2
13	対象にあわせたレクリエーション・ワーク③	対象にあわせたアレンジ方法 3
14	対象にあわせたレクリエーション・ワーク④	対象にあわせたアレンジ方法 4
15	対象にあわせたレクリエーション・ワーク⑤	対象にあわせたアレンジ方法 5

科目名	生活支援技術	科目ナンバリング	SFFD22031
担当者氏名	小倉 毅		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input checked="" type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）		

《授業の概要》

生活支援技術は、介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていくことを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることが重要である。そこで利用者個人の尊厳を保持しながら、日常生活を営む上で無意識に行う「移動すること、食事をする、身支度をする」といった一連の活動について理解するとともに、その人にあった生活支援方法について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ① 個別性に応じたベッドメイキングができる。
- ② 身支度についての意義と目的を理解し、利用者に応じた着脱支援ができる。
- ③ 移動、食事の介護の意義と目的を理解し、利用者の状況に応じた支援ができる。
- ④ 入浴や排せつの意義と目的を理解し、利用者に応じた支援ができる。

《成績評価の方法》

- (1) 定期試験50%
- (2) レポート・小テストなど20%
- (3) 実技への参加態度30%

《テキスト》

生活支援技術Ⅰ、生活支援技術Ⅱ  
介護福祉士養成テキスト 中央法規出版

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- 1) 予習：予習課題については授業時に指示します。
- 2) 復習：授業内容を再度確認すること。理解が十分でない場合は、積極的に質問して下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	環境を整える生活支援技術	個別に応じたベッドメイキングを学ぶ。
2	身じたくの生活支援技術①	整容の生活支援技術におけるアセスメントを理解し、洗面支援、爪の手入れ、皮膚の清潔などを学ぶ。
3	身じたくの生活支援技術②	口腔ケアの目的と効果を理解し、口腔ケアの方法について学ぶ。
4	身じたくの生活支援技術③	衣服の種類と選択に必要な視点を理解し、衣服の着脱方法を学ぶ。
5	移動の生活支援技術①	自立生活を支える移動・移乗の生活支援技術と、アセスメントに必要な状態像を理解する。
6	移動の生活支援技術②	移動・移乗の基本的理解を行う。①ボディメカニクス、②体位交換
7	移動の生活支援技術③	移動・移乗の基本的理解を行う。①ベッド上の移動介助
8	移動の生活支援技術④	移動・移乗の基本的理解を行う。①ベッドから車いすへの移乗介助
9	移動の生活支援技術⑤	移動・移乗の基本的理解を行う。①車いす介助について（室内移動・屋外移動）
10	移動の生活支援技術⑥	移動・移乗の基本的理解を行う。①歩行介助 ②杖歩行と道具・用具の種類について
11	食事の生活支援技術①	食事介助におけるアセスメントを理解し、生活支援技術の実際を学ぶ。
12	入浴・清潔保持の生活支援技術①	入浴・清潔保持の生活支援技術におけるアセスメントを理解し、事故予防について学ぶ。
13	入浴・清潔保持の生活支援技術②	個別性（自立・一部介助・全介助）に応じた入浴支援技術と部分浴について学ぶ。
14	排せつの生活支援技術①	排せつの生活支援技術におけるアセスメントを理解し、支援方法を学ぶ。①車いす生活者の生活支援技術を学ぶ。②ポットブルトイレ介助
15	排せつの生活支援技術② まとめ	排せつの生活支援技術を学ぶ。①ベッド上における排せつ介助 これまで学んだ生活支援技術を用いて、総合的に生活支援技術を活用する。

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	STTD22032
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）		

《授業の概要》

教育科学の一分野として、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問です。受講者は、心理学的領域の理解をめざすとともに、人間科学的な視点を養います。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などの学びを通して、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得と専門領域の教育に応用する方法を学習します。

《授業の到達目標》

- 教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。
- 自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめる。
- 教育効果の検証（評価）ができる。
- 教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）

《テキスト》

テキストは使用しない。  
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也編著 ミネルヴァ書房  
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。  
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、出席を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達、
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
9	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
10	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	国際福祉論	科目ナンバリング	SFFD22033
担当者氏名	河野 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）		

《授業の概要》

福祉国家政策は国民生活の安定と向上を目指し、新たな社会問題の出現とともに守備範囲を拡大させてきた。本講義では、社会福祉や社会保障制度の仕組みや政策を比較することの意義やその手法について学ぶ。その上で福祉国家の類型を代表する諸外国と日本の制度や社会状況を比較し、共通点や相違点、制度発展の社会・経済・歴史的背景について学ぶ。

《テキスト》

市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

福祉国家類型を代表する諸外国や急速に福祉国家化が進む東アジアの精度の特質や発展過程を理解する。諸外国との比較を通じて、日本の福祉国家制度の水準や特質、制度形成の背景についてより深く理解することができるようになる。

《授業時間外学習》

授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については、新聞や書籍、ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し、疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《成績評価の方法》

定期試験70%、授業への参加とその成果30%

《備考》

今日日本では経済的繁栄を優先する政策運営には見直しが迫られており、福祉国家のあり方にも大きな変化が進行しつつある。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉国家の国際比較 (1)	社会福祉制度や社会保障制度を比較する上での留意点、比較のポイント等について学ぶ。
2	福祉国家の国際比較 (2)	福祉国家制度の動向
3	福祉国家の国際比較 (3)	福祉国家制度比較のための諸理論 (1) 産業化理論, 権力資源論, コーポラティズム論等
4	福祉国家の国際比較 (4)	福祉国家制度比較のための諸理論 (2) 福祉レジーム論
5	福祉国家の国際比較 (5)	福祉国家制度比較のための諸理論 (3) クオリティオブライフ・アプローチ, ソーシャルクオリティ・アプローチ
6	イギリスの福祉国家政策 (1)	古い伝統を有するイギリス福祉国家の過去を学ぶ (歴史的経緯)
7	イギリスの福祉国家政策 (2)	古い伝統を有するイギリス福祉国家の現在を学ぶ (現在)
8	スウェーデンの福祉国家 (1)	高福祉高負担の北欧型福祉国家のあり方をスウェーデンを通じて学ぶ (歴史的経緯)
9	スウェーデンの福祉国家 (2)	高福祉高負担の北欧型福祉国家のあり方をスウェーデンを通じて学ぶ (現在)
10	アメリカの福祉国家政策 (1)	市場重視型の新自由主義的福祉国家を代表するアメリカの制度について学ぶ (歴史的経緯)
11	アメリカの福祉国家政策 (2)	市場重視型の新自由主義的福祉国家を代表するアメリカの制度について学ぶ (現在)
12	ドイツの福祉国家政策 (1)	社会保険方式の福祉国家を代表するドイツの制度について学ぶ (歴史的経緯)
13	ドイツの福祉国家政策 (2)	社会保険方式の福祉国家を代表するドイツの制度について学ぶ (現在)
14	韓国や台湾の福祉国家政策	近年急速に福祉国家が進む韓国と台湾の制度について学ぶ
15	東アジア諸国の福祉国家政策	韓国や台湾を除く東アジア諸国の状況について学ぶ

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論	科目ナンバリング	STAL42004
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育課程の編成と実施にあたっては、教育課程の構造と基礎的な編成原理、および基準となる学習指導要領の内容と法的性格について理解しておく必要がある。本授業は、これらの理解を深め、教育課程編成における教師の役割の重要性について考察することを目的とする。教育課程の理論的な枠組や主要論点を整理し、教育課程の実際と、新学習指導要領の要点、現代的課題についての理解を深める。

《授業の到達目標》

- 教育課程の構造と基礎的な編成原理について理解している。
- 学習指導要領の内容と法的性格について理解している。
- 学習指導要領の変遷とその背景について理解している。
- 児童生徒の個人差のとらえ方と教育課程編成における個人差の取り扱いについて理解している。
- 学習指導案の書き方を理解し、目的に応じた指導案を作成することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
- ②課題の提出と完成度 30%
- ③定期試験 50%（持ち込み不可）

《テキスト》

『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年

《参考図書》

田中耕治（編）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年。  
 広岡義之（編著）『新しい教育課程論』ミネルヴァ書房、2010年。

《授業時間外学習》

参考資料を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育課程とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育課程とは何か、教育課程の意義と必要性について理解を深める。
2	学校教育の目的・目標と 教育課程	・教育行政における教育課程の位置づけ ・教育課程の法的性格
3	学力観と学習指導要領の 変遷①	・学習指導要領の変遷とその背景
4	学力観と学習指導要領の 変遷②	・学習指導要領の変遷とその背景
5	教育課程の管理と運営	・学校における教育課程の管理・運営の実際
6	カリキュラムの構造と類 型	・カリキュラムの歴史、さまざまなカリキュラムの類型とその特徴
7	教育課程における個人差 の取り扱い	・個人差とは、個に応じた指導とは ・個人差と教育課程
8	教育課程編成の基礎原理	・教育課程編成の基礎原理について理解する。 ・教育内容をいかにしてデザインするかを理解する。
9	学習指導案の書き方	・指導案の構成と作成手順 ・作成上の留意点
10	小学校教育課程の構成	・小学校教育課程における教授内容や課題を具体的に探究する。 ・総合的な学習の時間について教育内容の構成と実施について考察する。
11	中学校教育課程の編成	・中学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
12	高等学校教育課程の編成	・高等学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
13	教科書制度	・教育課程における教科書の位置づけ ・教科書の無償措置および検定制度
14	諸外国の教育課程	・各国の教育課程に関する制度と実情
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論	科目ナンバリング	STAL42005
担当者氏名	砂子 滋美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

新学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解する、また実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得を目的とする。そのために、①わが国の特別活動の歴史と変遷について、②特別活動の意義と目的について、③新学習指導要領における特別活動の位置づけについて、④他の教育領域との関わりについて等を中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解する。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(60%)、授業態度(20%)、ミニレポート(20%)により評価する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい特別活動論』 創言社 2009年

《参考図書》

文部科学省 『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』 2012年、『教育人間学的視座から見た「特別活動と人間形成」の研究』 大学教育出版 2009年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートの整理に十分に時間をかけること。理解が十分でなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	新学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特活全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動体験	特別活動には様々なものがあることを理解し、その目的やねらいについて考える。
3	特別活動と学習指導要領の変遷。特活への期待	戦後特別活動の実施の経緯と発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。特別活動の充実は学校生活の満足度に関係することを理解する。
4	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を紹介し、解説・分析し理解する。
5	特別活動と新学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容と関わって明確にする。
6	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)	特別活動における学級活動・ホームルームの位置づけ、内容を説明し、その特徴を明確にする。
7	児童会・生徒会活動と学習指導要領	児童会・生徒会活動の内容を解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことを理解する。
8	学校行事(儀式的行事)について	儀式的行事の内容と意義を理解し、これらの行事の課題について考える。
9	文化的行事について	文化的行事の内容と特徴を理解し、教科指導と特別活動との関連を明確にする。
10	健康安全・体育的行事について	健康安全・体育的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
11	旅行・集団宿泊的行事について	旅行・集団宿泊的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
12	勤労生産・奉仕的行事について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を理解し、これらの行事の課題について考える。
13	特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い	指導計画作成や内容の取り扱いについて理解し、入学式や卒業式などにおける国旗および国歌の取り扱いを明確にする。
14	特別活動学習指導案作成	学級の生徒の様子から、題材を設定し学習指導案を作成し、本時のねらいを達成する授業展開を考える。
15	講義全体のまとめをする	特別活動はいつの時代にも、常に学校生活の基礎として重要な役割を果たしていることや特別活動の充実が学校生活の満足度に深く関わっている等を振り返る。



《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	STAL42006
担当者氏名	河野 稔		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

現代的な教育の方法や技術について扱う。何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめるかを体験的に学習する。授業設計の系統的アプローチに基づいて教材を自作するための方法を解説し、毎回の授業で段階的に教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》

- 教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
- 授業設計の系統的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
- 独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にも系統的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》

- 自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）
- 小テストの結果（30%：3回実施予定）
- ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明／教材をイメージする／キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	系統的な教材設計・開発の手順／キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイディア交換／教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト①（第3、4章）／学習目標と3つのテスト
5	テストを作成する	学習課題の種類／教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成／教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト②（第5～7章）／教材企画書の提出／課題分析
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニエの9教授事象と指導方略表
9	教材パッケージを作成する(1)	形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	形成的評価の7つ道具の相互チェック
11	教材パッケージを作成する(3)	7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	小テスト③（第8、9章）／形成的評価の方法
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施／教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	教材の改善とその手順／教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材／まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材／教材作成報告書の提出／学習の振り返り

《テキスト》

鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル — 独学を支援するために』北大路書房。

《参考図書》

- 稲垣忠・鈴木克明編著(2011)『授業設計マニュアル — 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房。
- 向後千春(2014)『教師のための「教える技術」』明治図書。
- 中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書
- その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》

パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論（進路指導を含む。）		科目ナンバリング	STAL42007
担当者氏名	新井野 久男			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	履修カルテ参照			
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験（40%）、レポート（40%）、その他（提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等）（20%）を基本に総合的に評価する。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月（文部科学省）。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月（文部科学省）。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題（1）	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題（2）	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題（3）	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題（4）	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究（1）	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究（2）	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助基礎実習		科目ナンバリング	
担当者氏名	稲富 恭、原 志津、小倉 毅			
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

社会福祉教育は、実践的な学問である。福祉のサービスを使用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設において、5日間実習を行うことで、支援者の実践を学び、ソーシャルワーカーとしての自らの力量を培う第一歩としてほしい。

《授業の到達目標》

5日間の基礎実習を通して、現場の施設機能や施設職員・ソーシャルワーカーと利用者への実際の関わりを学び、利用者にとって必要な支援とは何かを学んで欲しい。そのために実習生としての自分ができる支援について考え、工夫して実践できるよう、実習前の学びを深めてほしい。

《成績評価の方法》

実習日誌の記録・実習巡回者の評価（40%）・実習先の評価（60%）により評価する。

《テキスト》

社会福祉相談援助実習 監修 社団法人日本社会福祉士養成校協会 編集 白澤政和ほか ISBN978-4-8058-3125-0C3036

《参考図書》

よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル1 「楽しさの追求を支える理論と支援の方法」、マニュアル2 「楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施」、マニュアル3 「楽しさの追及を支えるための介入技術」 公益財団法人日本レクリエーション協会

《授業時間外学習》

上記の参考図書をよく読み福祉レクリエーション関連の授業で学んだことを5日間のこの実習に活かせるように、実習先の利用者にあったレクリエーション企画を考えておくこと。

《備考》

実践としての社会福祉を重視し実習を充実させる。本学科の実習ガイドラインを熟読すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
2	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
3	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
4	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
5	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
6	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
7	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
8	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
9	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
10	現場実習・福祉レクリエーションの実践	上記目標に、利用対象者に合わせた福祉レクリエーション・ワークの実践計画の作成・実践企画・調整を加える。
11	現場実習・福祉レクリエーションの実践	上記目標に、利用対象者に合わせた福祉レクリエーション・ワークの実践計画の作成・実践企画・調整を加える。
12	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
13	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
14	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
15	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助基礎実習		科目ナンバリング	
担当者氏名	稲富 恭、原 志津、小倉 毅			
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感性、観察力、問題発見力) ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性) ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)			

《授業の概要》

社会福祉教育は、実践的な学問である。福祉のサービスを使用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設において、5日間実習を行うことで、支援者の実践を学び、ソーシャルワーカーとしての自らの力量を培う第一歩としてほしい

《テキスト》

社会福祉相談援助実習 監修 社団法人日本社会福祉士養成校協会 編集 白澤政和ほか ISBN978-4-8058-3125-0C3036

《参考図書》

よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル1 「楽しさの追求を支える理論と支援の方法」、マニュアル2 「楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施」、マニュアル3 「楽しさの追求を支えるための介入技術」 公益財団法人日本レクリエーション協会

《授業の到達目標》

5日間の基礎実習を通して、現場の施設機能や施設職員・ソーシャルワーカーと利用者への実際の関わりを学び、利用者にとって必要な支援とは何かを学んで欲しい。そのために実習生としての自分ができる支援について考え、工夫して実践した結果をふり返り、次の実習につなげていってほしい。

《授業時間外学習》

上記の参考図書をよく読み福祉レクリエーション関連の授業で学んだことを5日間のこの実習に活かせるように、実習先の利用者にあったレクリエーション企画を考えておくこと。

《成績評価の方法》

実習日誌の記録・実習巡回教員の評価 40% 実習先の評価 60% により評価する

《備考》

実践としての社会福祉を重視し実習を充実させる。本学科の実習ガイドラインを熟読すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
2	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
3	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
4	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
5	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
6	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
7	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
8	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
9	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
10	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
11	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
12	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
13	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワークに取り組む。基本的倫理観を持ったソーシャルワークの実践を通して技術・分野別施設分析を行い利用者理解や自己覚知を深める。
14	現場実習・福祉レクリエーションワークの実践	福祉レクリエーション・ワーク実践記録を作成し、評価を受ける。
15	現場実習・福祉レクリエーションワークの実践	福祉レクリエーション・ワーク実践記録を作成し、評価を受ける。



平成 25（2013）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

( )は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭福祉	認定心理士	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成27年度の担当者	ページ
			必修	選択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
専門基礎科目	人間の生物学的機能と反応	講義	2		○	◆			2									
	人間の心理・社会的機能と支援	講義	2		○	◆		□	2									
	社会理論と社会システム	講義	2		○	◆			2									
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○	◇				2								
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○						2							
	美と感性	講義		2					2									
	法学	講義		2					2									
	生涯学習社会とライフデザイン	講義		2											2			
	行政法	講義		2						2								
	家族社会学	講義		2							2							
	家族福祉論	講義		2							2							
	発達心理学	講義		2				▲	■	2								
	社会心理学	講義		2					■	2								
	演習Ⅰ	演習		4						4								
演習Ⅱ	演習		6							6								
ソーシャルワーク	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2		○	◇	△		2									
	現代社会と福祉Ⅱ	講義	2		○	◇	△		2									
	社会保障論Ⅰ	講義	2		○	◇				2								
	社会保障論Ⅱ	講義	2		○	◇				2								
	社会調査の基礎	講義		2	○				2									
	社会調査の応用	講義		2							2					田端 和彦	137	
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義		2	○		△			2								
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○		△				2							
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義		2	○	◇	△			2								
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義		2	○	◇					2							
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2	○	◇						2				田端 和彦	138	
	保健医療サービス	講義		2	○	◇						2				和田 光徳	139	
	医療ソーシャルワーク	講義		2								2				和田 光徳	140	
	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○	◇					2							
権利擁護と成年後見制度	講義		2	○	◇					2								
福祉行政財と福祉計画	講義		2	○	◇							2			[西澤 正一]	141		
ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義		4	○	◇	△				4								
ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義		4	○	◇	△					4				[小出 享一]	142		
ソーシャルワーク基礎演習	演習		2	○	◇	△				2								
社会福祉特別演習	演習		4										4					
卒業演習	演習		6										6		※1	143		
ソーシャルワーク基礎科目	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義		2	○		△			2								
	就労支援の制度とサービス	講義		2	○							2				[桐石 梢]	144	
	介護概論	講義		2			△			2								
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習		1	○		△		2									
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習		1	○		△			2								
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習		1	○		△					2				田端 和彦	145, 146	
	ソーシャルワーク実習	実習		4	○		△					12				田端・牧田・小倉・稲富	147, 148	
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習		4	○		△					4				[関川 雅世]	149	
ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習		4	○		△					4				小倉 毅	150		

※1 吉原、牧田、田端、北島、稲富、原、光田、小倉、本多





## カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	認 定 心 理 士	学年配当（数字は週当たり授業時間）								担当者		ページ	
			必修	選択					1年		2年		3年		4年		平成27年度の 担当者			
									I	II	I	II	I	II	I	II				
教 職 に 関 連 す る 科 目	教職概論	講義		2			△		2											
	教育原理	講義		2			△		2											
	教育制度論	講義		2			△			2										
	教育課程論	講義		2			△				2									
	福祉科教育法	講義		4			△						4					牧田 満知子	170, 171	
	特別活動論	講義		2			△					2								
	教育方法・技術論	講義		2			△					2								
	生徒指導論（進路指導を含む。）	講義		2			△				2									
	教育相談（含カウンセリング）	講義		2			△	■		2										
	事前・事後指導	演習		1			△							1				吉原 恵子	172	
	高等学校教育実習	実習		2			△								4					
教職実践演習（高）	演習		2			△									2					

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士（PSW）国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士（PSW）国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、  
日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、  
指定の科目を履修すること。

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	認 定 心 理 士	学年配当（数字は週当たり授業時間）								担当者		ページ
			必修	選択					1年		2年		3年		4年		平成27年度の 担当者		
									I	II	I	II	I	II	I	II			
課程外 科目	卒業演習プレゼミナール	講義		2										2				※1	

※1 吉原、牧田、田端、北島、稲富、原、光田、小倉、本多

※課程外科目を修得しても卒業要件には含まれない。

科目名	社会調査の応用				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）				

《授業の概要》

テーマを決めて地域に出て社会調査を行います。調査計画の作成とアンケート調査、及び取材を実施します。アンケートの結果についてはパソコンを使って分析します。地域における社会調査の実践を通し、調査手法と分析の手順を学びます。調査の結果を踏まえて考察し、報告書（レポート）を作成します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

社会調査を企画し実施し報告書をまとめるという一連の作業について自力でできるようになることが目標です。その過程を通して、統計学的な理解、パソコンへの習熟、報告書を作成することによるプレゼンテーション能力の向上を図ります。

《授業時間外学習》

アンケートの実施などは授業時間外に行う必要があるかもしれません。

《成績評価の方法》

報告書作成の過程、その内容で評価をします。

《備考》

グループ学習を基本とします。調査先は加古川市、宍粟市を予定しています。実際の調査については授業内で指示をします。履修者数により内容の変更があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	グループに分かれて調査テーマの確定。調査の進行表の作成。
2	地域のことについての理解	地域における社会調査という観点から、地域のことについての理解を深めます。
3	調査計画の作成	地域調査に関する調査計画を策定します。
4	アンケート調査票の作成1	調査計画書を元にして、アンケート票を作成します。調査対象者からアンケート調査対象者をどのように抽出するのかを検討します。
5	アンケート調査票の作成2	引き続き、アンケート票を作成します。アンケート調査対象者を抽出します。
6	アンケート調査票の作成3	引き続き、アンケート票を作成します。アンケート票の文章を整えます。
7	現地調査1	現地に出向き取材を行います。
8	現地調査2	引き続き、現地に出向き取材を行います。
9	取材内容の分析と整理1	取材内容について取りまとめます。グループワークで行います。
10	取材内容の分析と整理2	引き続き、取材内容について取りまとめます。グループワークで行います。
11	アンケート調査の分析1	統計ソフト（SPSS）、表計算ソフト（EXCEL）について紹介します。アンケートの集計を行います。1変数の分析として単純集計、統計値の計算などを行います。
12	アンケート調査の分析2	アンケートの集計を行います。複数回答に対する集計を行います。統計値について平均値の差の検定などを行います。
13	アンケート調査の分析3	2変数の分析としてクロス集計、複数回答に対するクロス集計を行います。分散分析、カイ二乗検定を行いその意味を理解します。
14	報告書の作成1	調査の結果を考察して報告書を作成します。
15	報告書の作成2	引き続き、調査の結果を考察して報告書を作成します。

《専門教育科目 ソーシャルワーク共通科目》

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ◎ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

地域福祉に係る理論を学びます。その中で地域のニーズを探り、コミュニティで実現することを理解します。ソーシャルアクションや社会的企業、CSRなど地域の資源を活用しより良い社会を実現する能力を育みます。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

新社会福祉士養成講座「地域福祉の理論と方法」中央法規  
「地域福祉の原理と方法（第2版）」学文社

《授業の到達目標》

地域福祉に関する内外の理論について内容や歴史的な意義を理解し説明することができるようになります。また コミュニティの組織化の具体的な手法を獲得し実践の場で応用する能力を獲得します。

《授業時間外学習》

事前学習としては、次回の授業に関連し調べておくことを指示します。事後学習としては授業で宿題を課しますのでレポートとして提出してください。

《成績評価の方法》

定期試験で70%を評価します。授業態度として、レポート課題の提出状況などを評価します（30%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	社会福祉の理論と方法Ⅰの復習とⅡで学ぶ内容を説明します。
2	地域福祉におけるニーズ論1	ブラッドショーのニーズ論に基づき、地域福祉のニーズについて解説します。
3	地域福祉におけるニーズ論2	地域においてニーズをどのように把握するのか、アウトリーチの手法を含め解説します。
4	コミュニティオーガナイゼーション1	ソーシャルワークの役割としてのコミュニティオーガナイゼーションの役割とその重要性、また住民参加の現状について説明します
5	コミュニティオーガナイゼーション2	リンデマン以降の、コミュニティオーガナイゼーションの歴史と定義の変化を説明します。
6	コミュニティオーガナイゼーション3	コミュニティオーガナイゼーションの歴史的な変化とその内容を説明します。アリンスキーやニューステッターの定義の今日的意味を解説します。
7	ソーシャルサポートネットワーク	ソーシャルサポートネットワークの定義を学び、地域福祉における必要性を理解します。
8	ソーシャルキャピタル	パットナムの提唱するソーシャルキャピタルの意義とその背景、さらに計測について解説をします。
9	コミュニティソーシャルワークと住民参加1	これまでのツールを用いてコミュニティでのソーシャルワークの実践を理解します。
10	コミュニティソーシャルワークと住民参加2	これまでのツールを用いてコミュニティでのソーシャルワークの実践を理解します。
11	地域福祉理論1	岡村重夫、右田紀久恵らによる日本の地域福祉の発展に寄与した理論について説明します。
12	地域福祉理論2	引き続き、日本での地域福祉の理論を説明します。
13	地域福祉サービスの評価1	地域福祉サービス評価を必要とする背景を理解します。
14	地域福祉サービスの評価2	具体的にどのようにサービス評価が行われるか、評価手法を解説します。
15	地域福祉と福祉教育	福祉教育の必要性の背景を理解し、その意味や方法を説明します。

《専門教育科目 ソーシャルワーク共通科目》

科目名	保健医療サービス				
担当者氏名	和田 光徳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input type="radio"/> 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） <input checked="" type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）				

《授業の概要》

社会福祉専門職の基礎知識としての保健医療サービスを理解する。テキストを使用して保健医療サービス全般の基本的知識を押さえ、ビデオ映像及びゲストスピーカーを招き、現場実践のあり方を学ぶ。

《テキスト》

第2版『保健医療サービス』 村上須賀子・横山豊治編著 久美出版 2011『医療福祉総合ガイドブック2014年度版』村上須賀子・佐々木哲二郎・奥村晴彦編著 医学書院 2014

《参考図書》

患者、精神障害者の闘病記や介護体験記

《授業の到達目標》

保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活問題を学ぶ。また、サービス提供制度及び担い手たちの特性を理解し、利用者（患者・家族）を中心とした連携のあり方を考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

患者および精神障害者、その家族など当事者の闘病記や体験記を複数読み込みレポートにまとめる。医療福祉問題に関する新聞をスクラップにし、レポートにまとめる。

《成績評価の方法》

定期試験60% レポート40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	医療ソーシャルワークの実際	保健医療分野のソーシャルワークの実際を学ぶ、DVD視聴
2	利用者理解	利用者（患者・家族）と医療の場を理解する
3	各医療専門職の役割	医療サービスの担い手の専門性と役割を理解する
4	医療ソーシャルワーカーとは	医療ソーシャルワーカーの役割を理解する
5	病むことの意味	病むことの意味を学ぶ。患者家族の闘病記・体験記を読みプレゼンテーションする
6	医療ソーシャルワーカー業務指針とは	医療ソーシャルワーカー業務指針を理解する
7	医療提供体制	医療提供体制とその機能分化を理解し、活用を理解する
8	医療保険制度その1	医療保険制度を理解し、その活用を理解する
9	医療保険制度その2	さまざまな医療費自己負担軽減策を理解し、その活用を理解する
10	診療報酬制度	診療報酬制度を理解する
11	介護保険制度	介護保険制度を理解し、その活用を理解する
12	医療ソーシャルワークの実際	医療ソーシャルワーカーの実践を聞き取り、医療ソーシャルワークの実際を学ぶ
13	保健医療サービスにおける連携の実際	保健医療サービスにおける連携の意味と実際を理解する
14	保健医療対策の概要	地域保健サービスの体系を理解する
15	医療福祉問題概観	今日の医療福祉問題を各自レポート提出しプレゼンテーションする

《専門教育科目 ソーシャルワーク共通科目》

科目名	医療ソーシャルワーク				
担当者氏名	和田 光徳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力）</li> <li>◎ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> </ul>			

《授業の概要》

医療福祉分野、精神保健福祉分野のソーシャルワークの専門性を理解し、その実践の組み立てを学ぶ。テキストを中心に事例検討も重ね、各専門分化した実践を具体的に学ぶ。Ⅰ期の保健医療サービスの発展科目に位置する。

《授業の到達目標》

専門分化した医療環境の変化を理解し、各専門分野における医療ソーシャルワークの特性を理解する。事例検討を重ねることにより、各事例に対して支援プロセスの対案を考えられるようになる。

《成績評価の方法》

レポート40%プレゼンテーション10%期末テスト50%

《テキスト》

《参考図書》

- ①「在宅医療ソーシャルワーク」村上須賀子・京極高宣他編著 勁草書房 2008
- ②「医療ソーシャルワーカーの力」－患者と歩む専門職 村上須賀子・竹内一夫編著 医学書院出版サービス2012

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、ディスカッションに参加できるように疑問点や自己の意見などをまとめておくこと。

《備考》

進路として、医療領域・精神医療領域希望の学生は必須である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	患者の立場から医療ソーシャルワーカーの存在を考える
2	医療ソーシャルワーカー実践指針	医療ソーシャルワークの実践指針を学ぶ
3	医療ソーシャルワーカーの成熟課程	医療ソーシャルワーカーの成熟課程を検証する
4	医療サービスのあり方を示す医療法	医療法の変遷から今日の医療サービスの課題を理解する
5	医療サービスを支える診療報酬制度	医療ソーシャルワーク業務と診療報酬を理解する
6	様々な医療機関の役割とMSW	機能分化した医療機関の役割と医療ソーシャルワーカーの働きを理解する（急性期病院・回復期リハ病院・療養型病床）
7	退院援助におけるMSWの役割と課題	転院支援・在宅支援におけるMSWの役割と課題を理解する
8	MSWのソーシャルアクション	社会問題にかかわるMSWのソーシャルアクションを事例に学ぶ
9	変革を志向するソーシャルワーカー	変革をもたらすソーシャルワーカーの実践指針を学ぶ
10	チーム医療における多職種協働	事例検討から多職種協働のあり方を理解する
11	MSWとアドミニストレーション	MSWの組織に位置づくための働き・組織改革への働きかけを理解する
12	経営・教育に関わるMSW	MSWの視点で経営・教育に参画する展開を学ぶ
13	地域連携ネットワークシステム構築	地域連携ネットワークシステムの構築におけるMSWの働きを理解する
14	MSW実践から問う地域医療連携	今日の地域医療連携の実際と課題を理解する
15	地域医療ソーシャルワーク	地域医療ソーシャルワークへの展望を学ぶ

科目名	福祉行財政と福祉計画				
担当者氏名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

福祉六法を基盤とする社会福祉も、近年の社会福祉基礎構造改革や三位一体の改革に伴って、また一方では介護保険制度や障害者自立支援法の施行等によって大転換が図られ、今日までの中央集権的な福祉システムから地方分権型へと行財政のあり方も改めて問われる時代となってきた。社会福祉の現状と今後の動向を理解するため、福祉の法制度と行財政の双方から学んでいく。

《授業の到達目標》

① 基本的な福祉政策の形成過程理解する②これまでの国と地方の役割や福祉サービス供給体制や制度の経緯を知る。③福祉サービスを利用する住民の視点で制度政策を理解する。④高齢者・障害者等が地域で自立して生活できる総合的支援策を組み立てる ⑤少子高齢化社会の問題を自分達の課題として考える。以上を通して福祉行財政の全般を理解し自らも福祉計画を作成することができる。

《成績評価の方法》

出席状況(20%) + 学期末試験など(60%) + その他、授業態度など(20%)で総合的に判断

《テキスト》

著書名：編集委員（河幹夫・小林良二・和気康太）書名：新・社会福祉士養成講座第10巻「福祉行財政と福祉計画」第4版発行 出版社：中央法規出版2014年2月 他、随時プリント配布

《参考図書》

書名：「よくわかる社会福祉と法」 出版社・出版年：ミネルヴァ書房2010年10月5日初版第2刷発行(定価¥2600+税)

《授業時間外学習》

・授業の中で適時課題を課すので、随時指示された期日までに提出 ・積極的に自分自身で講義に関する課題を見だし、不明な点は確認のこと

《備考》

※授業内容は講義の進展に応じて多少前後する場合もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	社会福祉の学習を始めるにあたって、それを取り巻く環境や社会福祉法制の原理と学習について概要説明
2	福祉行財政と福祉計画①（福祉法制度の展開）	日本に於ける社会福祉の起源と戦後の展開、また措置制度から契約制度への転換や、今日の社会福祉基礎構造改革等について学ぶ事ができる。
3	福祉行財政と福祉計画②（福祉計画の概要）	日本に於ける福祉の概念を多面的角度から整理し、半世紀以上にわたる社会福祉の法制度の展開過程を知り、福祉計画が登場した背景を学ぶ事ができる。
4	福祉行政の骨格と社会福祉の法制度	社会福祉援助に取り組む実践の場が、どの様な法制度や福祉行政によって規定されているのかを学べる。
5	福祉行政の組織と社会福祉基礎構造	措置から利用者の自己選択・自己決定に基づく利用制度への転換をもたらした社会福祉基礎構造改革と、社会福祉の基礎構造について学べる。
6	福祉財政	国や地方自治体の社会福祉財政の全体像をを整理し、民間社会福祉事業組織の財政についても多面的な角度から理解する事ができる。
7	福祉行政の組織・団体の役割	福祉八法を中心とする公的な組織や団体を知り、その役割や課題について学べる。
8	福祉専門機関と専門職	介護保険制度の創設や要介護認定の方法・サービス利用の手続き等、福祉に携わる職員の専門性を理解し、実践で有効な援助技術について学べる。
9	福祉計画の目的と意義	福祉計画がどのような文脈のなかで行政によって取り組まれているのかを理解し、その目的を踏まえる形で計画策定がなされていることを知る事ができる。
10	福祉計画の基本的視点と過程及び留意点	福祉援助の実施・提供機関において個別援助にかかわる社会福祉士が、地方自治を目指す「福祉計画」にかかわる目的や意義を理解できる。
11	福祉計画におけるニーズ把握と評価	福祉計画作成の際の原点とも言えるニーズ把握の技法や、福祉計画全体のなかで一つの重要な構成要素となる評価についても知る事ができる。
12	福祉計画における住民参加	福祉計画においては、福祉関係者の合意形成を図っていくことが重要であり、福祉計画における住民参加の必要性について学ぶ事ができる。
13	老人福祉計画と介護保険事業計画及び障害者計画	今日まで学んだ福祉計画の理解をもとに、「実践編」として、計画者の立場から福祉計画を一つのシステムとして捉え、特性や方法等、五つの枠組みで研究をする。
14	次世代育成支援計画と地域福祉計画	老人福祉計画や介護保険事業計画と共に、義務づけられている次世代育成支援計画と地域福祉計画を学び、具体的事例を読み解きながら実践に活かす事ができる。
15	まとめ	社会福祉行財政の全般的理解の確認と共に、学生自らが主体的に問題を見だし、多様な福祉サービスのなかで自己が何をなすべきかを考えられる。

《専門教育科目 ソーシャルワーク共通科目》

科目名	ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ				
担当者氏名					
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> </ul>				

《授業の概要》

ソーシャルワークの担い手である社会福祉士は、地域社会の中で機能することが求められる。このため、社会の変革や地域生活上の課題を検証しながら、前半として社会福祉士の役割・機能を知る。具体的にはソーシャルワークとは何か、その構成要素とは何かについて学び、ソーシャルワークの発展過程を演習しながら学ぶこと。

《テキスト》

社会福祉援助の理論と方法Ⅱ 中央法規ISBN978-4-8058-3255-4  
 ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ 川村隆彦 中央法規 ISBN978-4-8058-2

《参考図書》

社会福祉援助技術 松井圭三・小倉毅編・加藤洋子ほか。大学図書出版ISBN978-4-903060-37-8

《授業の到達目標》

社会福祉士の法的根拠を理解する。またソーシャルワークとは何か、その構成要素とは何かについて学び、ソーシャルワークの発展過程・ソーシャルワークの基礎的知識を学ぶこと。また、社会状況と課題解決に向けた相談援助の方法について演習を通し習得して欲しい。

《授業時間外学習》

新聞などで、社会情勢や社会福祉にかかわる法改正・地域課題などをスクラップし、タイムリーに社会状況の分析や方策を知覚できるよう自己訓練しておきましょう。自分は、どのような性格なのか考えてみましょう。そう言った自己覚知の鍛錬も大切である。

《成績評価の方法》

授業への積極的参加態度およびレポート（30%）  
 定期テスト（70%）などにより総合的に評価する。

《備考》

2 限続きの授業である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション/グループワークの基礎知識	ケースワークの歴史・ノールズの集団の定義・グループワークの意義と構成要素・展開過程におけるソーシャルワーカーの役割について復習する。
2	倫理観と社会的責務・ワーカーの職責	人間としての平等・自己実現の権利と社会的責務からワーカーの倫理・職責を理解する。（人間としての尊厳・利益優先・個別性の尊重・受容・秘密保持）
3	相談援助における対象者の理解・システム理論	実践としての社会福祉援助活動と制度としての社会福祉実践について学ぶ。システム論とアプローチ方法についての基礎を学ぶ。
4	ケースマネジメントを知る。	ケースマネジメントの定義と基本を学ぶ。ケースマネジメントとケアプラン作成の基本・方法・プロセスやコミュニティケアの推進について学ぶ。
5	ソーシャルワークの理論と歴史	ジェネリックとスペシフィック・診断主義・機能主義・折衷主義の定義と技術や機関との関係、所属機関と綱領の精神、業務改革の責務等を理解する。
6	相談援助演習の枠組みとねらい・面談の記録	基本・分析・専門技法と支援技法について学ぶ。アセスメント方法・フェースシート・ジェノグラムの書き方と分析・記録内容を学習する。
7	ソーシャルワークの様々なアプローチ①	心理社会的アプローチ・機能アプローチ・問題解決アプローチ・課題中心アプローチ・危機介入アプローチ・行動変容アプローチについて学ぶ。
8	事例研究法①	問題解決アプローチ・課題中心アプローチ・危機介入アプローチの事例検討を行い展開過程について学ぶ。
9	障害者総合支援法とソーシャルワーカーの業務	障害者総合支援法の概要とソーシャルワーカーの役割、機関との関係、所属機関と倫理綱領の精神・業務改革の責務について考える。
10	コーディネーションの目的と意義	コーディネーションの方法・目的と意義について学び、コミュニティソーシャルワークの事例からサポートネットワークづくりについて考える。
11	事例研究法②	クライアント中心理論・エコロジカル理論・アプローチについて事例検討を行い、展開過程について学ぶ。
12	ケースカンファレンスの技術とチームアプローチ	それぞれの役割を活かしたトータル支援の在り方について学び、ケースカンファレンスとソーシャルワーカーの役割マネジメントについて考える。
13	ソーシャルワークの様々なアプローチ②	エンパワメント・ナラティブ・フェミニスト・実存主義アプローチの支援展開と適用課題について学ぶ。
14	事例研究法③	さまざまなアプローチを活用して中途障害者や子育てに悩む母親へのアプローチ手法の展開過程を学ぶ。
15	ソーシャルワーカーとしての専門性	スーパービジョンとコンサルテーションの技術について学ぶ。

科目名	卒業演習				
担当者氏名	吉原 恵子、牧田 満知子、田端 和彦、北島 律之、稲富 恭、原 志津、光田 豊茂、小倉 毅、本多 彩				
授業方法	演習	単位・必修	6・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）</li> <li>○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）</li> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）</li> </ul>				

《授業の概要》

4年間の学習の集大成として、それぞれの指導教員の指導に従って、卒業論文を執筆、完成させます。その論文を皆の前で発表します。卒業論文の執筆にあたっては、課題の設定、仮説の作成のための文献の読解、データや資料の収集と分析、考察という過程が必要で、さらにそれを論文として仕上げるための整理することや執筆することの能力が求められます。

《テキスト》

演習担当の先生の指示に従ってください。

《参考図書》

演習担当の先生の指示に従ってください。

《授業の到達目標》

卒業論文を執筆し発表することが目標です。卒業論文を執筆するまでの文献読解、資料収集、分析などの手法を身につけることができます。卒業論文の発表によりプレゼンテーション能力を身につけることができます。

《授業時間外学習》

卒業論文執筆に係る、文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います

《成績評価の方法》

卒業論文執筆までの過程、及び論文の内容とその発表内容を踏まえて評価します。卒業論文の締め切りや発表会等の日程は別途指示をします。

《備考》

卒業論文は人生におけるおそらく最初の（そして、もしかしたら最後の）論文の執筆かもしれません。全ての能力を傾けて取り組んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
2	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
3	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
4	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
5	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
6	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
7	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
8	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
9	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
10	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
11	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
12	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
13	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
14	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
15	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。



科目名	就労支援の制度とサービス				
担当者氏名	桐石 梢				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

労働は、人間の「尊厳」にとって不可欠なものであるだけでなく、社会保障を支えるという点でも重要な役割を担っている。本講義では、就労支援を必要とする障がい者や低所得者、シングルマザー等の労働問題をより高角度でとらえ、ソーシャルワーク実践を展開していくために必要な就労支援の制度やサービスの実際について学ぶ。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

新社会福祉養成講座編集委員会編・社会福祉養成講座「就労支援サービス」18 中央法規出版

《授業の到達目標》

就労支援とは、福祉サービスを利用する人たちが地域のなかで就労の実現・維持するための働きかけの総称である。そこで、①就労支援における法制度の概要や具体的な支援・サービス内容を理解する。②地域の関係機関の連携やネットワークの方法について理解する。③対象者（障がい者、低所得者、シングルマザー等）の個別の現状と課題について説明できるようになる。

《授業時間外学習》

今回の授業内容に関連する事柄を新聞やテレビなどから情報を集め、授業中に積極的に質問や意見を述べること。

《成績評価の方法》

- (1) 定期試験 (70点)
- (2) 授業参画度 (15点)
- (3) 小テスト (15点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 社会福祉士と就労支援	就労支援が求められる背景と、社会福祉士に求められる就労支援について学ぶ。
2	就労支援とは	就労支援の基本的な視点から、就労支援に関連する制度の概要について学ぶ。
3	現代社会の労働市場について	現代社会における労働市場の動向や雇用・就労の特徴、課題について学ぶ。
4	労働法規の概要と就労支援	現代社会の労働法規と就労支援にかかる主な法律について学ぶ。
5	就労支援の実施体制	①就労支援の実施体制の概要、②障害者の就労にかかわる組織と団体について学ぶ。
6	専門職の役割と実際	就労支援にかかわる専門職の役割と実際について学ぶ。
7	障害のある人への就労支援 (1)	障がい者の雇用・就労をとりまく情勢と、障害者福祉施策における就労支援制度について学ぶ。
8	障害のある人への就労支援 (2)	①ハローワークにおける職業相談の活動の実際、②地域障害者職業センターにおける職業リハビリテーション活動の実際について学ぶ。
9	障害のある人への就労支援 (3)	障害福祉サービス事業所・障害者支援施設の役割について学ぶ。
10	障害のある人への就労支援 (4)	障がい者雇用施策と障害者福祉施策、教育施策との連携について学ぶ。
11	低所得者への就労支援	生活保護における就労支援について学ぶ。
12	母子家庭への就労支援	母子家庭の現状と施策の変化、母子家庭に対する就業支援について学ぶ。
13	ホームレスへの就労支援	ホームレスをとりまく情勢と現状と、ホームレス対策における就労支援の実際について学ぶ。
14	高齢者の就労支援	高齢者をとりまく雇用情勢と、就労を支援する公的施策について学ぶ。
15	就労支援における今後の課題	就労支援の新たな課題と、今後社会福祉士に求められる役割について学ぶ。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅰ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解)</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性)</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)</li> <li>○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー)</li> </ul>				

《授業の概要》

専門プレゼミナールの実践家教育と関連し、現場のソーシャルワーカーとしての姿勢・価値・理論を統合させ、必要に応じて活用出来る力を培っていきます。また、サービスを利用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設・従事者の実際の実践活動・運営・経営実態を知り、ソーシャルワーカーの役割を理解し、体得していきます。

《テキスト》

〔編集〕白澤正和・米本秀仁〔監修〕社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助実習』中央法規, 2009  
iISBN978-4-8058-3125-0c3036

《参考図書》

ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ 川村隆彦 中央法規

《授業の到達目標》

各種の福祉機関・施設を実際に訪問・見学・ソーシャルワーカーの講話を聞き、現場で働くソーシャルワーカーの役割を事前学習し理解すること。実習前に法制度から施設概要、制度的背景などを学び、施設運営・経営等についても理解を広げメゾレベルの下調べを行い、ソーシャルワーカー業務を認識できるようにすること。現場にてアセスメント表・個別支援計画を作成できるようになること。

《授業時間外学習》

社会福祉施設・機関で180時間実習する。実際の福祉現場の業務や援助実践・相談援助業務を体験・見学し、対象となる問題の捉え方、援助実践の方法・技術、さまざまな制度に関する体系的知識を学習していく。さらに授業で学んだ知識と理論を統合させ、体験に基づきソーシャルワークの技術を培う。また自分が就職したい種別について選択していく。

《成績評価の方法》

実習計画書づくり、レポート(50%)、出席授業姿勢(50%)  
ソーシャルワーカーとしての資質も問うので授業態度や意欲も成績評価の対象とします。

《備考》

実践としての社会福祉を重視し、実習指導における主体的に学習すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	social work ガイダンス	実習に向けた姿勢とソーシャルワーク実習指導内容について、実習の位置づけと内容、ソーシャルワーカーとしての倫理と専門性を学ぶ。
2	医療ソーシャルワークを学ぶ(施設見学・講話)	1. 訪問看護ステーションの役割と課題、2. 地域特性と在宅医療サービスについて、3. 相談業務内容とその魅力等について、地域の訪問看護師を招いて講話頂く。
3	医療ソーシャルワークの役割・機能	1. 健康保険法・医師法・介護保険法と医療が必要な人の在宅支援、2. 医療ソーシャルワーカーの役割機能等相談援助業務内容を含め、現場からのメッセージをまとめる。
4	分野別学習①	高齢者・障害者及び医療・児童・地域福祉の各分野のソーシャルワーカーの業務と役割についてグループ学習を行う。
5	分野別学習②	高齢者・障害者及び医療・児童・地域福祉の各分野のソーシャルワーカーの業務と役割についてグループ学習を行う。
6	特別養護老人ホームの機能と役割(現場演習)	1. 特別養護老人ホームの位置づけと概要、2. 高齢者の心身の特性と生活について、3. 施設見学とふれあいの中で学ぶ、4. 相談員業務内容とその魅力について学ぶ。
7	地域包括支援センターの機能(ゲスト)	1. 地域包括支援センターの役割と課題①法的な位置づけ②施設の概要・沿革・法人・組織体制、2. 地域特性と支援の状況について、3. 相談業務内容とその魅力を学ぶ。
8	児童養護施設の機能と役割(現場演習)	1. 児童養護施設の位置づけと概要、2. 児童の生活状況について、児童とのふれあう中で学ぶ。3. ファミリーソーシャルワーカーの相談員業務内容とその魅力について学ぶ。
9	実習ガイドラインによる学習	実習ガイドラインから実習目標、達成課題の設定について学び、自分の実習目標を定めていく。実習先情報をのネット情報にて確認する。
10	実習関係記録の書き方・マナー等を学ぶ	実習目標、達成課題の設定、実習計画の作成・実習先事前訪問の目的や内容の確認・実習ノート書き方演習・お礼状の書き方・緊急時の連絡他、実習関係事務業務等を学ぶ。
11	実習目標の設定と実習計画書の作成①	実習目標、達成課題の設定、実習計画の作成する。
12	実習目標の設定と実習計画書の作成②	実習目標、達成課題の設定、実習計画の作成する。
13	専門職の責務	実習直前の全体授業として、それぞれの現場のソーシャルワーカーの役割機能・専門職の責務・倫理について復習する。実習ノートの配布と確認・目標用紙の作成と個別面談
14	直前学習①	実習に関わる連絡事項への対応・オリエンテーション・健康診断・保健・ハラスメントなどについて説明を聴き・アクセスノートの活用や帰校日等について把握すること。
15	直前学習②	実習中の留意点の確認・実習出勤簿の取り扱い・実習記録の取り扱い・実習巡回指導について・実習後に行なう手続き他実習関係業務等を確認する。

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる(知識・理解) ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力) ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力) ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)				

《授業の概要》

社会福祉教育は実践的な学問である。現場における体験をもとに利用者支援・ソーシャルワーカーの役割・業務を体得する。チームアプローチによる実践から専門職連携の重要性を認識しソーシャルワーカーとしてのケアマネジメント力を理解する。23日間の実習を通して、得たスペシフィックなソーシャルワークからジェネリックなソーシャルワークへとグループワークを通して統合し、スキルを培っていく。

《テキスト》

〔編集〕白澤正和・米本秀仁〔監修〕社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助実習』中央法規, 2009  
ISBN978-4-8058-3125-0c3036

《参考図書》

ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ 川村隆彦 中央法規

《授業の到達目標》

実習先の概要、制度的背景・利用者やご家族との関わりから、ソーシャルワーカーの役割・機能についてどのようなことが学べたか、どのようなスーパーバイズを受けたかについて振り返り、整理をする。他者と実践場面の討議を行う中で、様々なアプローチの方法や利用者理解の視点等に気づき、自己覚知・ジェネリックソーシャルワークへと整理する。グループワークにより、分析力・援助力・チームでの行動力を培うこと。

《授業時間外学習》

ボランティアに参加したり、支援を必要とする人の自伝を読み、利用者理解を広げ、ソーシャルワーカーの実践著書等を読みアプローチの方法を学ぶこと。日誌等を付ける習慣をつけ記録の書き方を身につけること。新聞やインターネットで社会問題等の情報を収集するよう努めること。

《成績評価の方法》

実習報告書づくり(50%)、レポート、プレゼンテーション等の役割遂行、・チームでの協力関係等、出席授業姿勢(50%)  
ソーシャルワーカーとしての資質も問うので授業態度や意欲も成績評価の対象とする。

《備考》

他者から学ぶ姿勢により、ソーシャルワーカーとしての力量を培う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション・実習振り返りの意義について
2	本実習から学んだもの 課題分析	1 個々人が本実習から抽出された課題の抽出及び検証(記入)
3	課題分析(発表内容の調整)	個々人が本実習から抽出された課題及び検証をグループで討議する。
4	報告会の趣旨	1 報告会の趣旨と進め方 2 グループ討議 役割分担・内容等について
5	報告課題の抽出・他者からの気づき	グループ討議 課題の抽出・場面の分析・評価・ソーシャルワークにおけるジレンマ等の整理を行う。
6	評価・分析・他者からの気づき	グループ討議 課題の抽出・場面の分析・評価・ソーシャルワークにおけるジレンマ等の整理を行う。
7	評価・分析・他者からの気づき	グループ討議 課題の抽出・場面の評価・報告会資料の作成
8	評価・分析・他者からの気づき	グループ作業 報告会資料の作成
9	評価・分析・他者からの気づき	グループ作業 報告会資料の作成
10	実践からの分析結果・プレゼンテーションの実施	報告会プレゼンテーション(中間報告会)
11	理論と実践技術の統合	報告会
12	実践技術の評価・分析・まとめ	実習報告会の振り返り
13	ソーシャルワークの技術と力	個人として経験したソーシャルワークの実践を分析し整理するなかで、ソーシャルワーカーの役割を理解する。
14	実践技術の評価・分析・仕上げ	個人として経験したソーシャルワークの実践を分析し整理するなかで、ソーシャルワーカーの役割を理解する。
15	実習の評価・分析・総仕上げ	個人発表会・実習報告書の作成

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	ソーシャルワーク実習				
担当者氏名	田端 和彦、牧田 満知子、小倉 毅、稲富 恭				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）</li> <li>○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力）</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> </ul>				

《授業の概要》

社会福祉教育は実践的な学問であり、福祉の現場から切り離された福祉の学習・研究は考えられない。福祉のサービスを利用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設・従事者の実際の実践活動を学ぶ実習教育を、理論的な学習と並ぶ車の両輪として位置づけている。23日間を通してソーシャルワーカーとしての力量を培ってほしい。

《テキスト》

〔編集〕白澤正和・米本秀仁〔監修〕社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助実習』中央法規, 2009 ISBN978-4-8058-3125-0c3036

《参考図書》

ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ 川村隆彦 中央法規

《授業の到達目標》

ソーシャルワーク実習は、インターンである。現場の施設機能・利用者・家族・施設職員・ソーシャルワーカーの関係性や実践から利用者を理解し支援の必要性を実感し、アプローチの方法等を学ぶ。利用者の方を尊重する姿勢を忘れないでほしい。さらに色々な支援の場面で気づいたことをしっかり記録し、分析して、あるいはスーパーバイザーや職員の方の指示や意見を謙虚に受け止め、次の実践につなげていく。

《授業時間外学習》

実習先の地域の産業・人口や世帯の特性・社会資源の分布状況などを事前調査してまとめておくこと。さらに、利用者支援の根拠法・関係法規を読んで必要と思われる事項は繰り返し学習しておくこと。社会福祉士の倫理綱領も読んでいくこと。

《成績評価の方法》

実習日誌の記録・実習巡回者の評価(40%)・実習先の評価(60%)により評価する。

《備考》

実践としての社会福祉を重視し、実習を充実させる。実習ガイドラインを熟読すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
2	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
3	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
4	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
5	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
6	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
7	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
8	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
9	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
10	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
11	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
12	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
13	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
14	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
15	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	ソーシャルワーク実習				
担当者氏名	田端 和彦、牧田 満知子、小倉 毅、稲富 恭				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)</li> <li>○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任)</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感性、観察力、問題発見力)</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)</li> </ul>				

《授業の概要》

社会福祉教育は実践的な学問であり、福祉の現場から切り離された福祉の学習・研究は考えられない。福祉のサービスを利用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設・従事者の実際の実践活動を学ぶ実習教育を、理論的な学習と並ぶ車の両輪として位置づけている。23日間を通してソーシャルワーカーとしての力量を培ってほしい。

《テキスト》

〔編集〕白澤正和・米本秀仁〔監修〕社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助実習』中央法規, 2009  
ISBN978 - 4-8058-3125-0c3036

《参考図書》

ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ 川村隆彦 中央法規

《授業の到達目標》

ソーシャルワーク実習は、インターンである。現場の施設機能・利用者・家族・施設職員・ソーシャルワーカーの関係性や実践から利用者を理解し支援の必要性を実感し、アプローチの方法等を学ぶ。利用者の方を尊重する姿勢を忘れないでほしい。さらに色々な支援の場面で気づいたことをしっかり記録し、分析して、あるいはスーパーバイザーや職員の方の指示や意見を謙虚に受け止め、次の実践につなげていく。

《授業時間外学習》

実習先の地域の産業・人口や世帯の特性・社会資源の分布状況などを事前調査してまとめておくこと。さらに、利用者支援の根拠法・関係法規を読んで必要と思われる事項は繰り返し学習しておくこと。社会福祉士の倫理綱領も読んでいくこと。

《成績評価の方法》

実習日誌の記録・実習巡回者の評価(40%)・実習先の評価(60%)により評価します。

《備考》

実践としての社会福祉を重視し、実習指導を充実させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
2	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
3	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
4	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
5	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
6	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
7	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
8	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
9	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
10	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
11	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
12	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
13	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
14	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。
15	現場実習	実習ガイドラインに沿ったソーシャルワーク実習を取組む。基本的倫理観を持ち、ソーシャルワークの実践を通し、技術・分野別施設分析・利用者理解・自己覚知する。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	ソーシャルワーク演習 I				
担当者氏名	関川 雅世				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） <input type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

本科目は、今まで学んできた社会サービス論と援助技術を演習を通じて具体的な支援に結びつけることが出来るよう体得することを目的としている。

《テキスト》

ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ 川村隆彦 中央法規 社会福祉士相談援助演習 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤正和 ほか 中央法規

《参考図書》

『ケースワークの原則「新訳版」』F・Pバイスティック著 誠信書房 1996

《授業の到達目標》

ミクロの場面で、社会サービスと結びつけることが出来る。

《授業時間外学習》

- ①『ケースワークの原則「新訳版」』F・Pバイスティック著 誠信書房 1996を読みレポート作成
- ②生活史を聴き取り、レポート作成

《成績評価の方法》

演習は、毎回出席が原則である。評価方法 出席コメント (40%) レポート(40%) 演習態度(20%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション・マッピング技法	マッピング技法による事例分析について理解する。ストレングスに注目した支援方法・アセスメントについて理解する。
2	エコロジカル理論・アプローチとは、	エコロジカル理論・アプローチについて理解する
3	エコロジカル理論・アプローチ事例	エコロジカル理論・アプローチに基づき事例分析しソーシャルワークの役割を理解する
4	クライアント中心理論・アプローチとは	クライアント中心理論とアプローチについて理解する
5	クライアント中心理論・アプローチ事例	クライアント中心理論とアプローチに基づき事例分析しソーシャルワークの役割を理解する
6	行動理論・アプローチとは	行動理論・アプローチについて理解する
7	行動理論・アプローチ事例	行動理論・アプローチに基づき事例分析しソーシャルワークの役割を理解する
8	認知理論・アプローチとは、	認知理論・アプローチについて理解する
9	認知理論・アプローチ事例	認知理論・アプローチに基づき事例分析しソーシャルワークの役割を理解する
10	危機介入理論・アプローチとは	危機介入理論・アプローチについて理解する
11	危機介入理論・アプローチ事例	危機介入理論・アプローチに基づき事例分析しソーシャルワークの役割を理解する
12	様々なアプローチの活用	様々なアプローチの活用事例と分析
13	アセスメントと個別支援計画①	マッピング技法を活用し利用者理解をすすめる、アセスメントから個別支援計画作成までのケアマネジメントを理解する。
14	アセスメントと個別支援計画②	マッピング技法を活用し利用者理解をすすめる、アセスメントから個別支援計画作成までのケアマネジメントを理解する。
15	まとめ	ミクロの場面で、様々なアプローチを活用し課題分析と支援計画までのケアマネジメントについて理解する。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ				
担当者氏名	小倉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

本科目は、これまで学んできた社会サービスと援助技術論の演習を通じて具体的な支援に結びつけられるよう体得することを目的としている。援助技術のうちⅡ期ではメゾ・マクロ領域を主とする。

《テキスト》

事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク 河村隆彦・著  
中央法規ISBN978-4-2344-6 ケアの本質—生きることの意味  
ミルトン・メイヤロフ ゆみる出版 ISBN-10: 4946509119

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ・面接技術を習得できる。
- ・ケアマネジメントを用いた支援を組み立てることができる。
- ・グループを用いた支援を組み立てることができる。
- ・メゾ領域における支援計画を立てることができる。
- ・マクロ領域におけるソーシャルアクションも立案できる。

《授業時間外学習》

ケアの本質—生きることの意味 ミルトン・メイヤロフ ゆみる出版 ISBN-10: 4946509119 章ごとに、隔週でまとめたものをレポートにして提出すること。

《成績評価の方法》

学期末に、事例に基づいた支援計画をプレゼンテーションし、クライアントのニーズを把握し、アセスメントができていのかどうかで評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	ケアマネジメント①	実習で得た事例に基づきケース発見⇒アセスメント⇒ケアプランの作成⇒モニタリングまでの演習を行う。
3	ケアマネジメント②	実習で得た事例に基づき、ケース発見⇒アセスメント⇒ケアプランの作成⇒モニタリングまでの演習を行う。
4	ケアマネジメント③	実習で得た事例に基づき、ケース発見⇒アセスメント⇒ケアプランの作成⇒モニタリングまでの演習を行う。
5	エンパワメントアプローチの展開	エンパワメントアプローチ事例と支援方法について学ぶ。精神障害者の事例等を通じたアプローチの展開について学ぶ。
6	事例検討とロールプレイ①	個人・家族へのソーシャルワーク インテークからターミネーションまでの面接技術と展開について学び、演習する。
7	事例検討とロールプレイ②	個人・家族へのソーシャルワーク インテークからターミネーションまでの面接技術と展開について学び、演習する。
8	カンファレンス	カンファレンスの実践方法を学び・ロールプレイにより相談援助の演習を行う
9	コミュニティワーク	コミュニティワーク事例を理解する
10	コミュニティワーク	コミュニティワーク実践・計画立案
11	ソーシャルアクション	ソーシャルアクション事例について学ぶ
12	ソーシャルアクション	ソーシャルアクションについて学ぶ。企画立案を演習する。
13	援助技術の統合	困難事例を理解しマクロ・メゾマクロ視点から検討援助の展開について学ぶ (1) 児童分野
14	援助技術の統合	困難事例を理解しマクロ・メゾマクロ視点から検討援助の展開について学ぶ (2) 障害分野
15	援助技術の統合	困難事例を理解しマクロ・メゾマクロ視点から検討援助の展開について学ぶ (3) 高齢者分野

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	成人教育と地域発展				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

社会的包摂を進めるためには、置かれた環境を理解することが第一歩であり、必要な方策として成人教育があります。成人教育で学び地域に働きかける人材が増える事で、地域の発展を促すことができるのです。この授業では、シティズンシップを中心概念として、いくつかの参考図書を用いたりしながら地域の発展と成人教育の関係について解説を行います。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業内で指示をします。

《授業の到達目標》

現代の地域課題をコミュニティオーガナイズーションの一つである地域開発により解決するためには、地域に関わることの意義であるシティズンシップの姿勢と、現状を把握するための成人教育（生涯学習）、そしてコミュニティの開発のための手段を身につける必要があります。この授業を通して、その基本的な構成を理解することができるようになります。

《授業時間外学習》

宿題を課しますのでそれを行ってください。授業の実施に必要です。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80%）。このほか授業態度も評価に含めます（20%）。ただし受講者により変更があります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要について説明します。
2	シティズンシップとは何か①	シティズンシップの考え方について、その歴史的経緯を踏まえ解説を行います。
3	シティズンシップとは何か②	引き続き、シティズンシップの考え方について、その歴史的経緯を踏まえ解説を行います。
4	シティズンシップとは何か③	シティズンシップの考え方を踏まえ、現代の日本における課題とその解決のあり方を中心に解説を行います。
5	シティズンシップとは何か④	引き続き、シティズンシップの考え方を踏まえ、現代の日本における課題とその解決のあり方を中心に解説を行います。
6	シティズンシップとは何か⑤	引き続き、シティズンシップの考え方を踏まえ、現代の日本における課題とその解決のあり方を中心に解説を行います。
7	生涯学習について	現在、成人教育は一般に広く生涯学習として知られています。ここでは、生涯学習の基礎についてその制度、役割、課題の解説を行います。
8	生涯学習社会の形成①	生涯学習社会について意義についての解説を行います。
9	生涯学習社会の形成②	いなみ野学園での実例を通し、生涯学習社会に係る公的資源の投入と支援のあり方について解説を行います。
10	生涯学習社会の形成③	引き続き、いなみ野学園での実例を通し、生涯学習社会に係る公的資源の投入と支援のあり方について解説を行います。
11	地域開発とは何か①	地域開発の概要と中でもコミュニティ開発に焦点をあて、解説を行います。
12	地域開発とは何か②	コミュニティ開発について実例を踏まえてその内容や課題についての解説を行います。
13	地域開発とは何か③	引き続き、コミュニティ開発について実例を踏まえてその内容や課題についての解説を行います。
14	地域開発とは何か④	引き続き、コミュニティ開発について実例を踏まえてその内容や課題についての解説を行います。
15	まとめ	生涯学習社会の行方とコミュニティについて解説を行います。



科目名	福祉サービスの組織と経営				
担当者氏名	西澤 正一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

福祉六法を基盤とする社会福祉は、特に介護保険制度や障害者支援費制度導入という大転換が図られたが、既に11年以上経過し福祉サービス提供組織も多様化する中、そのあり方が課題となっている。また措置から契約という利用者自ら選択する時代の元で、単なる運営から経営という新たな感覚が問われる時代にもなってきた。福祉サービスに係わる組織とその運営について、教科書中心でなく福祉の実践体験を通じて学ばせる。

《テキスト》

編集：社会福祉士養成講座編集委員会 書名：社会福祉士養成講座11「福祉サービスの組織と経営」第4版 出版社/出版年：中央法規出版2013年2月1日第4版発行 他、随時プリント等を配付

《参考図書》

書名：「よくわかる社会福祉運営管理」出版社・出版年：ミネルバ書房・2010年3月第1刷発行 編者：小松理佐子

《授業の到達目標》

- ① 福祉サービスに係わる組織の団体について学ぶ
  - ② 福祉サービスに係わる組織の経営について基本的理論を理解する
  - ③ 福祉サービス提供組織の経営の実際を学ぶ
  - ④ 福祉サービスの管理運営の方法と実際を理解する
- 以上を通して、全般的な福祉サービス提供主体を学び、そこにおける運営のあり方を考えることが出来る。

《授業時間外学習》

・授業の中で適時課題を課すので、そのつど指示期日までに提出の事 ・積極的に自分自身で講義に関する課題を見だし、不明な点は随時確認する事

《成績評価の方法》

出席状況（20%）＋学期末試験など（60%）＋その他グループ討議の発表態度や講義時の態度等を総合的に判断（20%）

《備考》

※授業計画における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後する場合あり。基本的にテキストに沿うが福祉現場の実践事例や報道資料を多く活用し、受講者自ら考える授業としたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（コース概要）	社会福祉専門職としての資格取得や社会福祉事業に就く者として、テキストのみの机上理論を身につけるのではなく、実践としての社会福祉の運営管理について学ぶ姿勢を説明
2	福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスの意義だけでなく、福祉サービス提供組織や経営管理について、その時代のニーズや環境によって変化している現状と経営理論を理解することができる。
3	福祉サービスにかかわる組織・団体①	法人の存在意義と基本形態について学ぶと共に、福祉サービスにかかわる団体や組織についても理解し、それぞれの定義や役割・各機関の現状や課題について学べる。
4	福祉サービスにかかわる組織・団体②	我が国の心福祉サービスの提供主体として大きな役割を果たしてきた社会福祉法人や今日の特非営利活動法人・医療法人等を理解し、それぞれの特徴を確認できる。。
5	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	経営を学ぶ上で最低限必要となる基本的概念や理論、また経営戦略の策定プロセス、更には集団力学やリーダーシップ理論について理解することができる。
6	福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理	マーケティングの基本的要素である「4つのP」を軸にサービス管理に必要な基礎的事項を知ることができる。
7	福祉サービスの管理運営の方法①質の向上と評価	サービスの質の向上と第三者評価の重要性を理解すると共に、福祉サービス提供にあたってのリスクや今後の問題点を理解することができる。
8	福祉サービスの管理運営の方法②人事管理	今日の福祉サービスの多様な提供主体を知り、専門資格者を中心とした組織での人事管理について理解することができる。
9	福祉サービスの管理運営の方法②労務管理	福祉サービスに於ける人事・労務管理を関係法令に定められた基準に則して理解し、人材確保の課題と共に人材育成管理についても知る事ができる。
10	福祉サービスの管理運営の方法②職員研修	職場研修の考え方や推進体制、OJTやOFF-JT等の職場研修の基本形態等を知り、福祉人材のキャリア開発とキャリアパス等を理解できる。
11	福祉サービスの管理運営の方法③法人経営と財務	企業とは異なる、特殊な性格を有する社会福祉法人における財務管理と公益性の追求について理解することができる。
12	福祉サービスの管理運営の方法③福祉事業の財源	福祉サービス提供事業所における財務諸表の概要を知り、その見方や使い方を習得することができる。
13	福祉サービスの管理運営の方法④情報管理	福祉サービスの利用時に於ける選択権の保障と利用者本位のサービス提供を推進するための「情報」と、「管理」について多面的に理解することができる。
14	福祉サービスの管理運営の方法④戦略的広報	超高齢化と高度情報社会の進展に伴って変革する福祉サービスの考え方を踏まえ、事業経営に於ける情報管理のあり方と戦略的広報について学ぶことができる。
15	まとめ	学生自らが関心をもった福祉サービス事業について更に理解を深め、自己の今後の役割について共に考えられる。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神障害者の生活支援システム				
担当者氏名	和田 光徳				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

精神障害者を取り巻く現状について検討し、障害者の生活の諸相と課題を概括します。精神保健福祉法等の変遷、施策やサービスの現状、改革の動向を踏まえ生活支援システムについて、とりわけ相談支援、居住支援さらに就労支援を軸に実践課題を明らかにします。精神障害者の理解を疾病や障害の側面からだけでなく、地域で暮らす主体者、市民としてあるべき社会的システム（について検討を加えていきます。

《テキスト》

「精神障害者の生活支援システム」日本精神保健福祉士養成校協会編、中央法規、2012

《参考図書》

「生きている働いている一障がい者の就労を地域で支える」、目黒輝美他、大学教育出版、2012

《授業の到達目標》

- 精神障害者の生活支援の理念と特徴について理解する。
- 地域生活における精神障害者の暮らしにくさと課題解決のための支援のあり方、制度や施策について理解する。
  - ・就労支援及び居住支援に関する制度・施策
  - ・精神保健福祉士の相談支援活動について

《授業時間外学習》

- 「精神保健福祉に関する制度とサービス」等のテキスト及び授業内容について再確認し歴史や精神障害者支援の課題等を把握しておくこと。
- 新聞等の記事に注目し関連する記事を収集すること。

《成績評価の方法》

- 下記により総合的に評価する
- (1) 授業への出席と討議や質問等による参加状況
  - (2) 授業でのミニレポート内容
  - (3) 課題レポート

《備考》

- 授業への積極的な参加を求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害者の概念	オリエンテーション及び障害の概念
2	精神障害者の生活の実際	精神障害者を取り巻く現状と生活
3	精神障害者の生活と人権	精神障害者の生活支援の理念、生活支援における人権
4	精神障害者の居住支援1	居住支援制度の概要
5	精神障害者の居住支援2	居住支援の実際
6	精神障害者の居住支援3	居住支援における関係機関等との連携
7	精神障害者の就労支援1	就労支援制度の概要
8	精神障害者の就労支援2	就労支援の実際
9	精神障害者の就労支援3	就労支援における関係機関等との連携
10	精神障害者の生活支援システム1	精神障害者の自立と社会参加
11	精神障害者の生活支援システム2	福祉的就労等の生活支援
12	精神障害者の生活支援システム3	生活支援における地域の役割
13	ソーシャル・サポートネットワーク	ソーシャル・サポートネットワーク
14	行政機関における相談支援	市町村における相談支援
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神保健の課題と支援 I				
担当者氏名	瀬尾 学				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）</li> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> </ul>				

《授業の概要》

私たちにとって非常に身近であり、かつ、とても重要な課題である「精神保健」についての理解を深めていくことを目標とし、こころの健康を保持・増進させるために必要な基礎知識を学ぶ。基本的な精神保健について理解するために、概論について学習をし、ライフサイクルにおける精神発達について理解、また、ストレスと精神の健康について学習する。

《テキスト》

中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援 日本精神保健福祉士養成校協会 編集

《参考図書》

《授業の到達目標》

①精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 ②精神保健を維持、増進するための機能の理解と、精神の健康に関わる専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。

《授業時間外学習》

こころの問題に関する課題について見つけられるように、新聞、雑誌、報道等に注意しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・授業態度50% レポート課題50%

《備考》

授業内容等に関する疑問や意見は積極的に述べること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	メンタルヘルス（こころの問題）について。
2	精神保健についての基礎知識	精神保健についての基本的な考え方を学ぶ。
3	精神保健の概要	精神保健の重要性と精神保健の・定義についての基本的な考え方を学ぶ。 日本・アメリカ等の精神保健の歴史。
4	精神の健康と、精神の健康に関連する要因（1）	精神保健にとって重要な概念：健康についての現在の考え方を学ぶ。
5	精神の健康と、精神の健康に関連する要因（2）	精神保健にとって重要な概念：疾患の定義、障害についての考え方を学ぶ。
6	ライフサイクルと精神の健康（1）	胎児期・妊産婦の精神保健：生命の誕生から出産まで。 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
7	ライフサイクルと精神の健康（2）	乳幼児期の精神保健：乳児～幼児まで。 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
8	ライフサイクルと精神の健康（3）	学童期における精神保健：7歳から12歳まで。 ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
9	ライフサイクルと精神の健康（4）	思春期・青年期における精神保健：12歳頃から25歳頃まで。 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
10	ライフサイクルと精神の健康（5）	成人期における精神保健：25歳頃から60歳頃まで。 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
11	ライフサイクルと精神の健康（6）	初老期・老年期における精神保健。 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。
12	精神の健康とその要因	ストレス・生活習慣・身体、精神疾患に由来する障害を学習する。
13	精神の健康への関与と支援（1）	精神の健康に関する心的態度について理解する。
14	精神の健康への関与と支援（2）	精神保健に関する予防の概念を理解する。
15	精神の健康への関与と支援（3）	精神保健福祉制度、地域保健制度 精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体等の役割、および専門職種を理解する。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神保健の課題と支援Ⅱ				
担当者氏名	瀬尾 学				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> </ul>				

《授業の概要》

現代社会における、家庭、学校、職場、地域等のそれぞれにおいて、精神の健康に関わる課題と、その解決のためのアプローチを学習し、精神保健福祉士の役割について理解する。

《テキスト》

中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援 日本精神保健福祉士養成校協会 編集

《参考図書》

《授業の到達目標》

①現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。②国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

《授業時間外学習》

テキストを読んで授業にのぞむこと。こころの問題に関する課題について見つけられるように、新聞、雑誌、報道等に注意しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・授業態度50% レポート課題50%

《備考》

授業内容等に関する疑問や意見は積極的に述べること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健の視点からみた家族の課題 1	現代日本の家族の特徴 現代日本の家族の形態と機能を理解する。
2	精神保健の視点からみた家族の課題 2	育児や教育をめぐる精神保健を理解する。
3	精神保健の視点からみた家族の課題 3	病气療養や介護をめぐる精神保健を理解する。痴呆、認知高齢者
4	精神保健の視点から見た学校教育の課題 1	現代日本の学校教育と生徒児童の特徴について理解する。不登校、いじめ
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題 2	教員の精神保健、関与する専門職と関係法規・学校保健法について理解する。
6	精神保健の視点からみた勤労者の課題 1	現代日本の労働環境について理解する。職場内でのメンタルヘルス、関連法規
7	精神保健に関する対策 うつ病・自殺対策	うつ病と自殺防止対策について理解する。
8	精神保健の視点からみた勤労者の課題 2	アルコール飲酒問題、アルコール依存やギャンブルに関する問題・対策について理解する。
9	精神保健に関する対策 アルコール・薬物問題	アルコール依存、薬物依存に対する対策について理解する。
10	精神保健に関する対策 発達障害、ひきこもり	発達障害、社会的ひきこもりをめぐる精神保健について理解する。
11	精神保健に関する対策と課題 1	災害、災害被災者の精神保健 犯罪被害者の精神保健について理解する。
12	精神保健に関する対策と課題 2	ニート・若年無業者と精神保健 ホームレス・貧困問題 ほかに現代社会の課題等について理解する。
13	地域精神保健に関する諸活動 1	精神保健に関係する法規などについて理解する。
14	地域精神保健に関する諸活動 2	精神保健に関する調査、資源開発、ネットワークづくりなどについて理解する。
15	諸外国の精神保健活動の現状及び対策	世界の精神保健の実情について理解する。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ				
担当者氏名	知念 奈美子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心を持ち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）</li> <li>○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> </ul>				

《授業の概要》

精神障害者を対象とした支援の基本的な考え方、個別援助や集団援助等の援助技術の概要、地域移行支援および地域の社会資源との連携による支援体制の在り方、精神障害者の地域生活の実態やそれを取り巻く社会情勢と地域相談援助における考え方について、講義および事例検討を通して学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』日本精神保健福祉士養成校協会編、中央法規、2012

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者を対象とした支援の基本的考え方、相談援助技術の展開、地域移行支援・医療機関との連携による支援体制、精神障害者の地域生活の実態と社会情勢についての基本的な事項を、講義および事例検討を通して理解し、説明できる。

《授業時間外学習》

シラバスを参照の上、予定されている内容は授業前に読み、基礎的な知識を得ておくこと。

《成績評価の方法》

- (1) 授業中のディスカッションや個別・グループ作業における参加意欲、協力態度、作業成果20%
- (2) レポート課題等の提出物20%
- (3) 定期試験60%（試験は「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の展開①	個別支援の実際と事例分析
2	相談援助の展開②	集団を活用した支援の実際と事例分析
3	相談援助の展開③	事例による相談援助活動の検討
4	相談援助の展開④	事例による相談援助活動の検討
5	相談援助の展開⑤	事例による相談援助活動の検討
6	家族調整・支援の実際①	精神保健福祉における精神障害者と家族の関係／家族支援の方法
7	家族調整・支援の実際②	事例による家族調整・支援の検討
8	地域移行の対象および支援体制①	地域移行胃腸の対象と地域移行の体制
9	地域移行の対象および支援体制②	精神保健福祉士の役割と他職種との連携
10	地域移行の対象および支援体制③	地域移行にかかる組織や機関
11	地域移行の対象および支援体制④	地域移行を推進する事業の展開
12	地域移行の対象および支援体制⑤	事例による地域移行支援の検討
13	地域を基盤にした相談援助の主体と対象①	精神障害者をとりまく社会的状況／地域相談援助の主体・対象・体制
14	地域を基盤にした相談援助の主体と対象②	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
15	まとめ	今期の学習内容のふり返り

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ				
担当者氏名	知念 奈美子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心) <input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー) <input type="radio"/> 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力) <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) <input checked="" type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)				

《授業の概要》

精神科リハビリテーションの概念と構成・展開過程および精神保健福祉士の行うリハビリテーションの知識と技術、チーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割、精神障害者ケアマネジメントおよび地域の社会資源との連携による包括的な支援の意義と展開について、講義および事例検討を通して学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』日本精神保健福祉士養成校協会編、中央法規、2012

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神科リハビリテーションの概念と構成・展開過程および精神保健福祉士の行うリハビリテーションの知識と技術、チーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割、精神障害者ケアマネジメントおよび地域の社会資源との連携による包括的な支援の意義と展開の基本的な事柄について、講義および事例検討を通して理解し、説明できる。

《授業時間外学習》

シラバスを参照の上、予定されている内容は授業前に読み、基礎的な知識を得ておくこと。

《成績評価の方法》

- (1)授業中のディスカッションや個別・グループ作業における参加意欲、協力態度、作業成果20%
- (2)レポート課題等の提出物20%
- (3)定期試験60% (試験は「持ち込み不可」にて実施)

《備考》

ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方①	地域ネットワーク/アウトリーチ
2	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方②	地域生活支援事業と訪問援助/家族会およびセルフヘルプグループ
3	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方③	精神保健福祉ボランティアの育成と活用
4	精神障害者のケアマネジメント①	ケアマネジメントの法則
5	精神障害者のケアマネジメント②	ケアマネジメントの意義と方法
6	精神障害者のケアマネジメント③	ケアマネジメントの展開過程/チームケアとチームワーク
7	精神障害者のケアマネジメント④	事例による精神障害者ケアマネジメントの検討
8	地域を基盤にした支援とネットワーク①	地域を基盤にした支援の概念と基本的性格
9	地域を基盤にした支援とネットワーク②	地域アセスメントとBSCおよびSWOT分析
10	地域を基盤にした支援とネットワーク③	地域を基盤にした支援の具体的展開
11	地域を基盤にした支援とネットワーク④	事例による地域を基盤にした支援の検討①
12	地域を基盤にした支援とネットワーク⑤	事例による地域を基盤にした支援の検討②
13	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開①	包括的な支援(地域精神保健福祉活動)の意義と展開
14	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開②	事例による地域生活を支援する包括的な取組の検討
15	まとめ	今期の学習内容のふり返り

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神科ソーシャルワーク論Ⅲ				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅰ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心)</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)</li> </ul>				

《授業の概要》

精神科リハビリテーションは精神疾患を抱えた人達に対して、その人達が生きて行く上での生活の質(QOL)を少しでも良くするための援助の方法です。この援助の基本的知識として、精神科リハビリテーションの概念や歴史、その構成、及びプロセスについて講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座4『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2014

《参考図書》

【精神障害リハビリテーション】野中猛、中央法規出版、2003

《授業の到達目標》

精神科リハビリテーションの目的、意義を理解し、精神科病院や社会復帰施設、地域の様々な施設、機関での精神科リハビリテーションの取り組みについて説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み(50%)  
レポート課題に対する取り組み(50%)

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向	わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向を概観し、その制度の背景についても理解する。
2	諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷	諸外国(アメリカ、カナダイギリス、イタリア等)の精神保健医療福祉制度の変遷について理解する。
3	精神保健福祉士における活動の歴史	精神保健福祉士のこれまでの活動の歴史を振り返り、精神障害者に対する支援の基本的な考え方を理解する。
4	精神障害者支援の理念	精神障害者支援の基盤となる考え方とその原理について理解する。
5	精神保健医療福祉領域における支援対象	精神障害者の定義とその特性について理解する。
6	精神障害者の人権	精神障害者の権利擁護システムについて理解する。
7	精神科リハビリテーションの概念	精神科リハビリテーションの定義や精神科リハビリテーションの起源やその歴史について理解する。
8	精神科リハビリテーションの理念と意義	WHOのリハビリテーションの理念や精神科リハビリテーションの特徴や意義、基本原則について理解する。
9	精神科リハビリテーションの構成と展開	精神科リハビリテーションの対象と、精神科リハビリテーションにかかわる専門職等との連携について理解する。
10	リハビリテーションのプロセス	リハビリテーションの計画とその評価について理解する。
11	アプローチの方法	病院や地域におけるリハビリテーションの方法について理解する。
12	作業療法	精神科作業療法の今日までの歴史を知り、どのような作業療法の活動があるのか、また回復状態に応じて作業療法の目的や役割が違うということを理解する。
13	精神科作業療法の実際	実際に医療現場で行われている精神科作業療法のプログラムや活動内容について理解する。(ゲスト講師予定:作業療法士)
14	レクリエーション療法	レクリエーション療法の活動内容やその目的、そして、レクリエーション療法を行う時の原則について理解する。
15	集団精神療法	集団精神療法とはどのようなものか、グループワークとどう違うのかを知り、集団精神療法の効果や構造について理解する。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神科ソーシャルワーク論Ⅲ				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度(知的好奇心) <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) <input checked="" type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感性、観察力、問題発見力)				

《授業の概要》

精神科リハビリテーションⅠを踏まえ、医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を提示し、それに携わる精神保健福祉士の役割について講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座4『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2014

《参考図書》

【精神障害リハビリテーション】野中猛、中央法規出版、2003

《授業の到達目標》

医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を知り、そこにおける精神保健福祉士の果たす役割を説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み(50%)  
レポート課題に対する取り組み(50%)

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	行動療法	学習理論を基に不適応行動の変容に応用した治療技法である行動療法について理解する。(主に、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論の技法)
2	認知行動療法の概要	認知行動療法の基本的な考え方について理解する。(認知・感情・行動の三要素、自動思考やスキーマについて理解する。)
3	認知行動療法の実際	自動思考記録表(7つのコラム表)を用いて、実際の状況について認知再構成を試してみる。
4	社会生活技能訓練の理論	社会生活技能訓練の基本的考え方やその特色について理解する。
5	社会生活技能訓練の実際	具体的な例を用いて、実際にロールプレイを行いながら社会生活技能訓練の技法を体験してみる。(ゲスト講師予定:精神保健福祉士)
6	家族教育プログラム	精神障害者を抱える家族に対して、家族教育プログラムがどうして必要であるのか、また求められる家族教育プログラムの方法や進め方について理解する。
7	デイケア、ナイトケア	地域精神保健福祉活動のひとつとして、デイケアやナイトケアがどのように行われているかを理解する。
8	精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護指導	なぜ精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導が必要であるかを理解し、実際の訪問看護・指導がどのように行われているかを知る。
9	チーム医療の概要	精神科医療機関におけるチーム医療の必要性について理解する。
10	医療機関における多職種との協働・連携	医療機関における多職種による協働・連携を通じてチームアプローチの必要性を理解する。
11	精神障害者支援の実践モデル	精神障害者支援の実践モデルの意味とその内容について理解する。
12	相談援助の過程および対象との援助関係	地域における相談援助の展開を念頭に、「ケースの発見」「面接・契約」から「支援・計画」「支援と評価」そして「終結・アフターケア」に至る一連の過程を理解する。
13	相談援助活動のための面接技術	面接を効果的に行う方法や面接技法について理解する。
14	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義や機能・形態およびコンサルテーションの意義や方法について理解する。
15	まとめ	これまで講義してきた精神科リハビリテーションの実際について総括し、医療機関における精神保健福祉士の果たす役割の重要性について理解する。



《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導				
担当者氏名	光田 豊茂、和田 光徳				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2013年

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者の特性や、置かれている状況や生活課題を理解し、精神保健福祉士がどのような制度、サービスを用いてその支援を行っているかを理解する。そして、次年度の実習に備えるようにする。

《授業時間外学習》

機会があれば精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	精神保健福祉援助実習の意味および組み立てについて
2	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（統合失調症、認知症）
3	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（気分障害、薬物依存症）
4	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（神経症、発達障害）
5	当事者理解	精神障害者の抱えている生活課題や困難について理解する（ゲスト講師予定：精神障害者当事者）
6	実習に向けての事前学習	精神科リハビリテーションの技術について調べ発表する（SST）
7	面接技法	実際に面接をロールプレイで行い、面接技法について深めて行く
8	面接技法	実際に面接をロールプレイで行い、面接技法について深めて行く
9	精神保健福祉士業務の実際を知る	精神科医療機関における精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：医療機関で働く精神保健福祉士）
10	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
11	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
12	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
13	精神保健福祉士業務の実際を知る	地域で働く精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：地域で働く精神保健福祉士）
14	実習先の検討および調整	実習生の住所地、興味、進路に応じ実習先の検討を行う
15	実習先の検討および調整	実習生の住所地、興味、進路に応じ実習先の検討を行う

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	集団心理学				
担当者氏名	脇本 忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任）</li> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> </ul>				

《授業の概要》

社会心理学におけるグループダイナミクス領域について講義を行う。集団力学関連の先行研究から諸トピックスの紹介。映像教材を使用した事例などを検討する。

《テキスト》

使用しない。適時資料を配布する。

《参考図書》

『社会心理学』藤原武弘（培風館）他

《授業の到達目標》

社会における、規範や行動、リーダーシップなどの集団ならではの人間行動の特性。さらに社会現象や流行現象の領域について理解し、社会での応用を目標とする。

《授業時間外学習》

適時提示する。

《成績評価の方法》

定期試験 60%  
レポート提出 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教科の説明と授業運営について
2	勢力と影響	集団形成のメカニズム1.
3	集団コミュニケーション構造	集団形成のメカニズム2.
4	集団の形成と構造	集団形成のメカニズム3.
5	凝集性	集団形成のメカニズム4.
6	異形	特殊集団の認知と感情
7	集団規範	集団形成のメカニズム5.
8	リーダーシップ	集団形成のメカニズム6.
9	心の健康	社会現象1.
10	ジェンダー	社会現象2. .
11	流行現象と被覆行動	社会現象3.
12	マスコミと流言飛語	社会現象4.
13	関連先行研究の紹介	集団心理学に関する近年の研究紹介
14	復習とディスカッション	復習および発表
15	テスト	テストの実施

科目名	心理学基礎実験				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	実験	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）				

《授業の概要》

心理学の代表的な研究方法である実験法を、心理学の各領域における基礎的な実験を実際に行うことによって体験的に学びます。また、「実験目的」「実験方法」「実験結果」「考察」をレポートにまとめ、さらにそれを発表することで、心理学の科学的な考え方を体系的に身につけます。本科目での学びは、様々な領域や場面において、実際にデータを取得したり報告書を作成したりすることに役立ちます。

《授業の到達目標》

- 心理学の代表的な研究方法である実験法の特徴について、どのようなものか説明することができる。
- 心理学の各領域における基礎的な実験について実際に行うことができる。
- 実験結果を適切なやり方でまとめることができる。
- 結果から自分の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

レポート80%受講態度10%発表10%

《テキスト》

『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版

《参考図書》

『心理学の研究法 実験法・測定法・統計法 [改訂版]』 加藤司 北樹出版 <授業「心理測定法」のテキスト>

《授業時間外学習》

授業時間中に完成させることができなかったレポートを仕上げてください。レポートは必ず決められた日時までにメールに添付して送信してください。送信先のメールアドレスは授業中に示します。レポートは添削し、次の授業の前半で講評を行います。

《備考》

本科目を受講するためには、前もって「心理学」「認知心理学」「心理学研究法」を修得しておく必要があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	実験に関する基本事項の説明、心理学研究法の復習
2	実験1 知覚心理学 ミュラー・リヤー錯視	実験の説明、実験
3	実験1 知覚心理学 ミュラー・リヤー錯視	実験のつづき、基本的なレポートの書き方説明、レポートの作成
4	実験2 感覚心理学触 二点閾1	レポートの講評、実験の説明、実験
5	実験2 感覚心理学触 二点閾2	実験のつづき、レポートの作成
6	実験レポートの書き方	レポートの講評、より本格的なレポートの書き方の説明
7	実験3 認知心理学自 由再生1	実験の説明、コンピュータを用いた実験の準備
8	実験3 認知心理学自 由再生2	実験、レポートの作成
9	実験4 学習心理学両 側性転移1	レポートの講評、学習・知覚運動協応などの概念の説明、反転メガネによる知覚運動協応の体験
10	実験4 学習心理学両 側性転移2	実験の説明、実験
11	実験4 学習心理学両 側性転移3	実験のつづき、レポートの作成
12	実験5 社会心理学 パーソナルスペース1	レポートの講評、実験の説明、実験
13	実験5 社会心理学 パーソナルスペース2	実験のつづき、レポートの作成
14	実験のプレゼンテーショ ン	発表準備
15	実験のプレゼンテーショ ン	発表

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	心理学研究実習				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	実験	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心）</li> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）</li> <li>◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）</li> </ul>				

《授業の概要》

これまでに学んだ心理学の様々な知識を基に、自らが研究計画に関与し、その研究を実際に行える力を養成することが目的です。いくつかのテーマでは、受講生自身が基礎となる研究計画にアイデアを加えることや、研究のための準備を行うことが求められます。また、心理学基礎実験で身につけたレポート作成力を、より洗練されたものへと高めていきます。

《授業の到達目標》

- 心理学の研究方法について、どのようなものがあり、それらがどういった特徴をもつか説明することができる。
- 心理学の各領域における研究について、自らのアイデアを加えながら実際に行うことができる。
- 洗練された研究レポートを作成することができる。

《成績評価の方法》

レポート80%      受講態度10%      発表10%

《テキスト》

なし（適宜、プリントを配布）

《参考図書》

『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版 <授業「心理学基礎実験」のテキスト>  
『認知心理学基礎実験入門』 兵藤宗吉・須藤智(編) 八千代出版  
『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 小塩真司 東京図書

《授業時間外学習》

授業時間中に完成させることができなかったレポートを仕上げてください。レポートは必ず決められた日時までにメールに添付して送信してください。送信先のメールアドレスは授業中に示します。レポートは添削し、次回の授業の前半で講評を行います。

《備考》

本科目を受講するためには、前もって「心理学基礎実験」を修得しておくことが必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	心理学基礎実験の復習、本科目における実験の概略の説明
2	PCを刺激提示装置とした実験1：心的回転①	実験の説明、実験
3	PCを刺激提示装置とした実験1：心的回転②	実験のつづき、レポートの作成
4	PCを刺激提示装置とした実験2：意味記憶①	レポートの講評、実験の説明、実験
5	PCを刺激提示装置とした実験2：意味記憶②	実験のつづき、レポートの作成
6	PCを刺激提示装置とした実験3：IAT①	潜在的連合テストの体験、実験計画の検討
7	PCを刺激提示装置とした実験3：IAT②	実験準備
8	PCを刺激提示装置とした実験3：IAT③	実験、レポートの作成
9	質問紙を用いた調査1：性格	質問紙調査の説明 特性論に基づく性格検査の実施(YG性格検査) レポートの作成
10	質問紙を用いた調査2：価値観①	調査の説明 調査計画の検討 質問紙の作成
11	質問紙を用いた調査2：価値観②	調査
12	質問紙を用いた調査2：価値観③	データの解析
13	質問紙を用いた調査2：価値観④	結果のまとめ レポートの作成
14	プレゼンテーション	発表準備
15	プレゼンテーション	発表

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	心理療法				
担当者氏名	原 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

最初に「心理療法」の初心者向けテキストで「セラピスト」の心のなかに生まれる感情や役割について学ぶ。次に子ども向けの心理療法である「遊戯療法」について学ぶ。後半は、箱庭療法についての理論を学んだあと、箱庭療法の実習を体験おこなう。安心できる環境の中で「こころ」の表現をすることの治療的な意味を感じて、イメージが伝えるものについての理解を深めてほしい。

《授業の到達目標》

受容・共感・傾聴、支持といったカウンセリング・心理療法の基本を踏まえて、人と人が関わることによって生じる関係性の変化のプロセスを思い描けるようになること。

《成績評価の方法》

受講態度30% 毎回の授業ごとに提出するレポート30% 全体のまとめ40%

《テキスト》

ころんで学ぶ心理療法 遠藤裕乃 日本評論社1700円＋税

《参考図書》

プレイセラピー 関係性の営み グリー・L・ランドレス著 山中康裕監訳 日本評論社 3300円＋税

《授業時間外学習》

小学校高学年時代に夢中になった物語やストーリー性のあるゲームのテーマなどを思いだしてみる。授業の最後までにレポートとして提出すること。

《備考》

箱庭療法実習では、実習をする人も見守る人も毎回レポートを書いて提出すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	テキストの使い方・授業の進め方などを紹介する
2	心理療法①	面接初心者のためのポイントを知る
3	心理療法②	逆転移とは何かを知る
4	心理療法③	失敗から学ぶ方法 ウィニコットの描画療法 スクウィグルについて知る
5	心理療法④	自己開示について知る
6	遊戯療法①	遊戯療法を知る
7	遊戯療法②	表現することと心理的治癒について知る
8	箱庭療法①	ユング心理学と箱庭療法の関わりについて知る
9	箱庭療法②	事例から箱庭療法を学ぶ
10	箱庭療法実習①	セラピストクライアント役の体験・実習を行う
11	箱庭療法実習②	セラピストクライアント役の体験・実習を行う
12	箱庭療法実習③	セラピストクライアント役の体験・実習を行う
13	箱庭療法実習④	セラピストクライアント役の体験・実習を行う
14	箱庭療法実習⑤	セラピストクライアント役の体験・実習を行う
15	心理療法のまとめ	全体をふり返り、心理療法について理解を深める

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	心理検査法実習				
担当者氏名	原 志津				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

福祉の現場に出て行った時、利用者さんに関する心理検査のデータや情報等をケースワークに活かすため、知っておくと役に立つ「心理検査」について学ぶ。体験・実習した心理検査については自己理解を深めるためにも有効である。

《テキスト》

心理検査の理論と実際 第四版 花沢・佐藤・大村著  
駿河台出版社 2800円

《参考図書》

《授業の到達目標》

知能・発達テスト、人格検査・性格検査・パーソナリティテストを体験・理解し、自己理解・他者理解を深める。

《授業時間外学習》

テキストをよく読んで授業にのぞむこと。

《成績評価の方法》

受講態度30% 数回のレポート30% まとめレポート40%

《備考》

配布する資料は、各自ファイルを用意して閉じておいてください。同日に2コマで実施するため遅刻欠席厳禁。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	福祉の現場や医療の現場で使用される心理検査をソーシャルワーカーがいかに関活用するかを知る
2	パーソナリティテスト	自己理解を深めるためのパーソナリティテストの体験を行う
3	子どもの現場で使用される心理検査①	児童相談所で使用される発達検査について知る
4	子どもの現場で使用される心理検査②	児童相談所で使用される心理検査と社会生活能力検査について知る
5	子どもの現場で使用される心理検査③	描画テストについて・・・バウムテストを学ぶ
6	子どもの現場で使用される心理検査④	描画テストについて・・・風景構成法を学ぶ
7	病院で使用される心理テスト①	インテークに必要な心理テストについて知る
8	病院で使用される心理テスト②	インテークに必要な心理テストについて知る
9	病院で使用される心理テスト③	投影法①を体験する
10	病院で使用される心理テスト④	投影法②を体験する
11	病院で使用される心理テスト⑤	投影法③を体験する
12	病院で使用される心理テスト⑥	投影法④を体験する
13	親子関係を知るテスト	親子関係テスト実習を行う
14	高齢者のための心理テスト	高齢者のための心理テストを知る
15	まとめ	この授業をふりかえりレポートにまとめて自己理解を深める

科目名	行動分析論				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）				

《授業の概要》

生活は環境に様々な行動によって働きかけ、その結果によって行動が支配される。結果が行動を支配するという行動分析の考え方や理論、臨床的適用の事例を学び、望ましい行動を形成・維持し、望ましくない行動を抑制させるためのスキルを学ぶ。

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

\*対象とする行動（ターゲットビヘイビア）が、どのような刺激によって統制されているのかを指摘できる。\*  
 行動を変容させるためには、どのような環境操作が必要なのかを指摘でき、行動変容のためのプランニングができる。

《授業時間外学習》

授業で学んだ行動分析の様々な概念や用語、テクニックを日常生活で気になる行動に当てはめてみる。

《成績評価の方法》

試験 100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	科学としての心理学のはじまりとその発展	デカルト 精神物理学 ヴント 要素主義 構成主義 科学 意識 無意識 精神分析
2	Pavlovの条件反射を学ぶ	条件反射 強化と消去 興奮過程と抑制過程 汎化と分化
3	行動主義心理学のはじまりとその展開	古典的行動主義 新行動主義 徹底行動主義
4	Skinnerの徹底行動主義	<ビデオ視聴> 循環論 オペラント レスポンデント 行動工学 ABC分析 強化 随伴性 強化
5	行動分析の基礎 1	説明 行動の実験的分析
6	行動分析の基礎 2	ラベリング 循環論 医学モデル 死人でもできること?
7	行動分析の基礎 3	レスポンデント オペラント 刺激による行動の制御
8	行動分析 4 行動の強化	行動随伴性 強化 好子 嫌子 好子出現の強化 嫌子消失の強化
9	行動分析 5 行動の弱化	嫌子出現の弱化 好子消失の弱化
10	行動分析 6 行動制御	強化随伴性による行動の制御 消去 復帰 先行刺激による行動の制御 汎化
11	行動分析 7 行動形成	シェイピング チェイニング
12	行動分析の学習への応用	プログラム学習 スモールステップの原理 即時強化の原理 自己ペースの原理 積極的反応の原理 自己検証の原理
13	スキナーの言語理論	マンド タクト エコーイック イントラバーバル
14	応用行動分析	行動目標の設定 観察可能性 データの収集とグラフ化
15	まとめ	この授業で学んだスキナーの考え方、行動分析の理論と実践を振り返る

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	加齢及び障害に関する理解				
担当者氏名	奥 典之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

高齢者・障がい者の心理についての基本書を用いて、基本的・理論的な枠組みを事例等も活用し、理論と実践の両面からの学習を行っていく。本講は免許・資格取得科目のため、それらのエッセンスを適宜加えていくことにより、それらの専攻者としてのアイデンティティをもてるような内容とする。

《テキスト》

中野善達・守屋國光 編著「老人・障害者の心理」（改訂版）  
福村出版

《参考図書》

介護福祉士養成講座編集委員会 編「障害の理解」新・介護福祉士養成講座 中央法規出版

《授業の到達目標》

社会福祉の専門職をめざす学生に対して、高齢者や障がい者に適切に接し、あるいは支援したり介護し、地域社会で共に生活していく基盤づくりができるようになるために、高齢者や障がい者をよりよく理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめる訓練を続けて欲しい。

《成績評価の方法》

平常点と筆記試験、及び課題レポートによる。  
全評価に対する割合（％）については、最初の授業で説明する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老人の心理	老年期と老化について
2	老人の心理	老人意識の問題について
3	障害とその心理的影響	障害と障害者について
4	障害とその心理的影響	障害の受容について
5	老人の心理的特性	老年期の精神機能について
6	老人の心理的特性	老年期の知能、記憶機能について
7	老人の心理的特性	老年期の人格と適応について
8	障害の原因・程度・種類別心理的特性	先天性・中途、中・軽度障害、視覚障害について
9	障害の原因・程度・種類別心理的特性	聴覚、言語、内部障害、肢体不自由について
10	障害の原因・程度・種類別心理的特性	知的、精神障害、軽度発達障害について
11	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の精神障害とその心理について
12	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の機能障害とその心理について
13	高齢者・障害者への対応	高齢者事例研究について
14	高齢者・障害者への対応	障害者事例研究について
15	老人・障害者の心理	総括として



《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	人体の構造及び日常生活行動に関する理解				
担当者氏名	長尾 光城				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）				

《授業の概要》

日本の社会保障制度には保健・医療・福祉のセーフティネットがあり、各分野が単独で対象者を支えることはできない。この社会保障が円滑に機能するには、社会福祉士が各関係機関との連携及び調整を図る必要がある。そこで、普段行っている生活行動を理論的に学び、かつ人体の構造と機能に対する理解及び疾病に対する対処方法等の基礎を理解し、連携に必要な基礎知識を身につける。

《授業の到達目標》

- (1) 心身機能と身体構造及び様々な疾病や人の成長・発達や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活行動との関係を踏まえて理解する。
- (2) 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。
- (3) リハビリテーションの概要について理解する。

《成績評価の方法》

授業態度（20%）  
レポート課題（30%）  
定期試験（50%）

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座〈1〉人体の構造と機能及び疾病—医学一般 社会福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版

《参考図書》

ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版 障害者福祉研究会編 中央法規出版 2002年

《授業時間外学習》

授業のなかで、3回レポート課題を出します。しっかり取り組んでください。

《備考》

医学一般の項目を興味を持てるように勉学に励んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人の成長と発達	身体の成長と発達について理解する。
2	人の成長と発達	身体及び精神の加齢と老化について理解する。
3	人体の構造と機能の概要	人体の運動神経器官の構造と機能について理解する
4	人体の構造と機能の概要	人体の内臓器官等の構造と機能について理解する
5	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要①	国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への変遷を学ぶ。
6	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要②	心身機能と身体構造、活動、参加の概念を理解する。
7	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要③	環境因子と個人因子の概念、健康状態と生活機能低下の概念を理解する。
8	健康の捉え方	健康と概念と公衆衛生、保健の概要について理解する。
9	疾病の概要①	悪性腫瘍、生活習慣病、感染症について理解する。
10	疾病の概要②	神経・精神疾患、精神疾患、難病について理解する。
11	障害の概要①	視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害について理解する。
12	障害の概要②	知的障害、精神障害、発達障害、認知症、高次機能障害について理解する。
13	リハビリテーションの概要①	リハビリテーションの定義、目的、対象方法について学ぶ。
14	日常生活上の工夫について①	日常生活様式と生活行動について短文事例を用いて理解する。
15	日常生活上の工夫について②	日常生活様式と生活上の工夫や生活リハビリについて短文事例を用いて理解する。

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	まちづくり論				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ◎ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

都市政策は従来の行政主導から、住民主体に大きく転換しつつある。「まちづくり」とは、そのように住民が主体となって、安全で快適な地域社会を形成する活動を示す。本授業のねらいは、「まちづくり」の実践に必要な知識を広く習得するとともに、価値判断能力を身につけることにある。

《授業の到達目標》

- 「まちづくり」に必要な専門的知識、手法について理解する。
- 積極的に「まちづくり」に関与できる能力を身につける。

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施するレポート(60%)、授業中に実施する小テスト(40%)

《テキスト》

- ・テキストは用いない

《参考図書》

- ・『まちづくりキーワード事典 第三版』 三船康道、学芸出版社, 2009
- ・『まちづくり教科書』(全10巻) 日本建築学会編、日本建築学会, 2005
- ・『住民参加でつくる地域の計画・まちづくり』 日本まちづくり協会編、技術書院, 2002

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 各回の授業内容に関連したまちづくり事例を新聞、Web等の 媒体を用いて調査する。
- ・復習の方法 授業内容に従い、ノートを制作する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス :まちづくりとは	神戸市のまちづくりを例に「まちづくり」の多面的なあり方について考察する。
2	まちづくりに関わる法制度	都市計画法、都市計画区域、線引き等について解説し、都市計画の内容について理解する。
3	中心市街地におけるまちづくり	商業調整策の変遷、まちづくり3法について概観し、滋賀県長浜市を例に中心市街地活性化手法について理解する。
4	住宅と住環境まちづくり	住宅問題と住宅政策の変遷、高齢者居住法等のセーフティネットとしての住宅政策について解説する。
5	まちづくりと市民参加	まちづくり協議会、まちづくり会社、NPO、LLP等のまちづくりに必要な市民組織について理解する。
6	景観とまちづくり	景観法、景観行政団体について理解し、まちづくりにおける景観形成手法について学ぶ。
7	歴史を活かしたまちづくり	文化財保護法、歴史まちづくり法等について理解し、近江八幡市の伝建地区、彦根市の中心市街地整備を例に歴史資産の利用について学ぶ。
8	公園とまちづくり	緑の基本計画、都市施設としての都市公園の計画、緑の整備手法について理解する。
9	防災まちづくり	大規模災害の現状について説明し、災害対策基本法、地域防災計画、防災まちづくり手法について理解する。
10	福祉のまちづくり	福祉政策の変遷、バリアフリーとユニバーサルデザイン、バリアフリー新法等について解説し、福祉のまちづくりについて理解する。
11	まちづくりと交通	富山市、ストラスプールを例に交通問題とその対策手法、ノーマライゼーション、ショップモビリティ、サステナビリティ等について理解する。
12	まちの歴史と形態	歴史的な都市の発生形態と近代の都市計画手法について学ぶ。
13	サステナビリティとコンパクトシティ	コンパクトシティ、スマートグロース(スマートシュリンク)政策を中心に近年のまちづくり動向について理解する。
14	事例調査のプレゼンテーションと講評	各自の調査内容についてプレゼンテーションを実施する。
15	小テストの解説とまとめ	小テストを実施するとともに、その内容について確認する。また授業全体についてのまとめ、補足説明を行う。

《教職に関する科目》

科目名	福祉科教育法				
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

高等学校の教科「福祉」の指導方法を習得し、学習指導が円滑にできるよう、教育上、指導上の理念を踏まえた実践力の涵養を目標とする。I期では、教科「福祉」の各科目の指導法について、その確認と検討を行い、指導の特徴について理解を深める。また、授業展開の基礎的事項を習得し、基本的理解に基づいた学習指導案が作成できるようにする。

《テキスト》

『高等学校学習指導要領 福祉編』文部科学省 海文堂

《参考図書》

『高等学校学習指導要領 総則編』文部科学省 海文堂

《授業の到達目標》

1. 福祉科教育に携わる教員として、求められる知識と技術を身につける。
2. 教科「福祉」の指導法について理解し、問題意識を深める。
3. 教科「福祉」を基盤にし、実習指導の基本を理解する。
4. 学習指導案を作成する。

《授業時間外学習》

毎日、新聞を読んで来ること。また福祉教育に関係する記事について、3分程度で解説できる事。

《成績評価の方法》

1. 授業内討論等への参加とその成果（20%）
2. レポート課題等の提出物（30%）
3. 定期試験（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講義の受講に関して概説する。通年科目である事から、夏季の課題も含めて、受講生が計画を立てやすいように配慮する。
2	福祉科教育の概要（1）	現行の学習指導要領と福祉科指導について理解する。
3	福祉科教育の概要（2）	専門高校福祉科の教育制度およびその職務について理解し考察する。
4	福祉科教育の概要（3）	教科指導としての「福祉」の特徴を理解する。
5	社会福祉基礎の目標と内容	教科「福祉」の教材研究の方法を理解し修得する。
6	コミュニケーション技術の目票と内容	教科「福祉」を教えるにあたり、必要なコミュニケーション技術を習得する。
7	生活支援技術の目票と内容	教科「福祉」を教えるにあたり、必要な生活支援技術の目票をその内容を理解する。
8	生活支援技術の実践（1）	教科「福祉」を教えるにあたり、必要な生活支援技術を修得し実践する。
9	生活支援技術の実践（2）	教科「福祉」を教えるにあたり、必要な生活支援技術を修得し実践する。
10	学習指導案を作成する（1）	学習指導案の作成方法を学び、実際に作成する。
11	学習指導案を作成する（2）	学習指導案を分析し、実践度の高いものにする。
12	教科「福祉」の専門性（1）	普通科で開講されている教科「福祉」と専門高校の教科「福祉」の実践上の違いを理解する。
13	教科「福祉」の専門性（2）	専門高校の教科指導の専門性について、教科「福祉」を中心に考察を深める。
14	福祉科教育の問題点	福祉科教育の現状と問題点について考察し、課題にどのように取り組むべきか議論する。
15	I期のまとめ	高校の福祉科教育とその効果的方法論について再確認する。

《教職に関する科目》

科目名	福祉科教育法				
担当者氏名	牧田 満知子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

高等学校の教科「福祉」の指導方法を習得し、学習指導が円滑にできるよう、教育上、指導上の理念を踏まえた実践力の涵養を目標とする。Ⅱ期では、教科「福祉」の各科目の教材研究を中心に、実践的な教育指導を行う。Ⅰ期で作成した指導案に基づいて模擬授業を行い、批判的に検討していく。また、多様な指導法について学び、指導の特徴について理解を深める。

《テキスト》

『高等学校学習指導要領 福祉編』文部科学省 海文堂

《参考図書》

『高等学校学習指導要領 総則編』文部科学省 海文堂

《授業の到達目標》

1. 教科「福祉」の各科目に即した教材の選定と準備ができるようになる。
2. 演習科目の実技の指導ができるようになる。
3. 高校生の現状を理解し、高校生の理解に合わせた授業展開ができるようになる。

《授業時間外学習》

毎日、新聞を読んでくる事。また福祉教育に関する記事について、3分程度で解説できる事。

《成績評価の方法》

1. 授業内討論等への参加とその成果 (20%)
2. レポート課題等の提出物 (30%)
3. 定期試験 (50%)

《備考》

ロールプレイを多用し、先生、生徒役を演じながら、学習指導案を立体的に検証して行く。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	I期の総まとめとⅡ期の教育内容	I期の総まとめとⅡ期の教育内容について概説する。
2	年間指導計画の検討	年間指導計画の検討と学習指導案の作成について学ぶ。また学習指導要領改正に伴う変更点についても概説する。
3	計画・準備・実施・評価	計画・準備・実施・評価の一連の流れを理解する。
4	指導案の書き方の実践	指導案の書き方と進め方について実践的に学ぶ。
5	社会福祉の基礎	自分の言葉で「社会福祉の基礎」について講義できるよう、再度基礎を学び整理する。
6	介護福祉の基礎	自分の言葉で「介護福祉の基礎」について講義できるよう、再度基礎を学び整理する。
7	介護総合演習 (1)	介護過程について学び、指導する際の留意点を確認する。
8	介護総合演習 (2)	介護形態別技術について学び、指導する際の留意点を確認する。
9	介護総合演習 (3)	介護実習を行い、指導する際の留意点を確認する。
10	学習指導案に基づく実践編 (1)	作成した学習指導案に基づいて、教科「福祉」のロールプレイを行い、指導する際の留意点等を確認する。
11	学習指導案に基づく実践編 (2)	(1)で確認した内容をさらに検討し、グループごとに留意点等を議論し、指導案の内容をさらに吟味する。
12	学習指導案に基づく実践編 (3)	「介護演習」に関して作成した学習指導案に基づいてロールプレイを行い、指導する際の留意点等を議論する。
13	模擬授業の体験を通して (1)	模擬授業を行い、先生、生徒それぞれの立場から、指導案の内容、伝え方、等の方法を検証していく。
14	模擬授業の体験を通して (2)	模擬授業の体験を通して考えた事等を発表し、グループで議論する。
15	1年間のまとめ	1年を通して学んだ教科「福祉」について、再度ふりかえり、理解を確かなものにする。

《教職に関する科目》

科目名	事前・事後指導				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習とは、高等学校の実際の教育現場において、観察、参加、実習（研究授業）等を行うことである。本科目は、(1) 自発的な創造性と旺盛な研究意欲をもって現場実習に臨むことができるよう十全な準備を行うことを目的とする事前指導、および(2)実習校での経験をふり返るとともに明確化し、意味づけるために行う事後指導により構成される。授業形態として、討議と発表、ロールプレイや模擬授業などを中心とする。

《授業の到達目標》

(1)教育実習で行うことからの体系についての情報と知識を理解し、説明できる。(2)教育実習を行う上で心がけなければならないマナーや心得等について説明できる。(3)教科指導について、模擬授業を実施し、自己評価できる。(4)実習の経験を踏まえて、研究授業を行い、自己評価できる。(5)実習の経験を踏まえて、学級経営について、問題点を発見し、解決できる。

《成績評価の方法》

事前指導においては、(1)演習への参加意欲10%、(2)知識・技術の習得10%、(3)模擬授業30%の配点により評価する。事後指導においては、(1)演習への参加意欲10%、(2)研究授業20%、(3)問題解決力20%の配点により評価する。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習というよりは、日頃から教育問題に関心をもち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。教授・指導上の観点だけでなく、教育法規的な側面、学校の社会的な役割など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《備考》

演習という授業形態のため、全回出席することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習の全体	(1)教師(教員)養成と教育実習 (2)教育実習の目標 (3)教育実習の展開 (4)教育実習の心得
2	教育実習の内容 (1)	(1)学校経営 (2)学校の組織 (3)生徒の理解事項 (4)教育課程 (5)学習指導
3	教育実習の内容 (2)	(1)道徳と特別活動 (2)生徒指導と学級経営 (3)学校の施設と環境 (4)教師としての勤務
4	教育実習の実際	(1)教材研究の実際 (2)学習指導の実際 (3)学習指導案の事例 (4)授業研究の実際 (5)道徳・特別活動・生活指導の実際 (6)教育実習の評価
5	教育の方法及び技術 (ビデオ視聴)	(1)授業の仕組みとはたらき (2)授業を創る (3)その他
6	教材研究と指導案づくり	(1) (講義および演習)
7	教材研究と指導案づくり	(2) (講義および演習)
8	教材研究と指導案づくり	(3) (講義および演習)
9	模擬授業 (および討議)	実際の授業を想定して、教室にて模擬授業を実施し、講評を行う。
10	「教育実習」の諸注意と準備	教育実習のマナーと心得、授業記録の書き方、教育実習の評価について学ぶ。
11	「教育実習」全体のふり返り	実習内容の明確化・体系化を目的として、討議および発表 (実習内容の検証・共有化)を行う。
12	事後の教材研究と事後の授業研究	教育実習における授業実践上の経験や学習内容を振り返る。
13	研究授業 (および討議)	教育実習における授業実践の最終的な総括として研究授業を行う。
14	学級経営の問題点と課題 (発表と討議)	教育実習における学級経営の経験や学習内容を振り返る。
15	「教育実習」全体の総括	教育実習における事前指導、現場における実習、事後指導の総括を行う。

平成 24（2012）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成24年度（2012年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		社会福祉士	PSW	高等学校教諭福祉	認定心理士	学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成27年度の担当者	ページ
			必修	選択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
専門基礎科目	人間の生物的功能と反応	講義	2		○	◆			2									
	人間の心理・社会的機能と支援	講義	2		○	◆		□	2									
	社会理論と社会システム	講義	2		○	◆			2									
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○	◇				2								
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○						2							
	美と感性	講義		2					2									
	法学	講義		2					2									
	生涯学習社会とライフデザイン	講義		2										2			吉原 恵子	177
	行政法	講義		2						2								
	家族社会学	講義		2							2							
	家族福祉論	講義		2							2							
	発達心理学	講義		2				▲	■	2								
	社会心理学	講義		2					■	2								
	演習Ⅰ	演習	4							4								
演習Ⅱ	演習	6								6								
ソーシャルワーク	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2		○	◇	△		2									
	現代社会と福祉Ⅱ	講義	2		○	◇	△		2									
	社会保障論Ⅰ	講義	2		○	◇				2								
	社会保障論Ⅱ	講義	2		○	◇					2							
	社会調査の基礎	講義	2		○				2									
	社会調査の応用	講義	2								2							
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○		△			2								
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義	2		○		△				2							
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義	2		○	◇	△				2							
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2		○	◇					2							
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義	2		○	◇						2						
	保健医療サービス	講義	2		○	◇						2						
	医療ソーシャルワーク	講義	2									2						
	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	2		○	◇					2							
権利擁護と成年後見制度	講義	2		○	◇							2						
福祉行財政と福祉計画	講義	2		○	◇							2						
ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	講義	4		○	◇	△				4								
ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	講義	4		○	◇	△					4							
ソーシャルワーク基礎演習	演習	2		○	◇	△					2							
社会福祉特別演習	演習		4										4			吉原・本多	178, 179	
卒業演習	演習		6										6			※1	180, 181	
ソーシャルワーク基礎科目	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義		2	○		△			2								
	就労支援の制度とサービス	講義		2	○						2							
	介護概論	講義		2			△				2							
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習		1	○		△			2								
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習		1	○		△					2						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習		1	○		△						2					
	ソーシャルワーク実習	実習		4	○		△						12					
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習		4	○		△						4					
ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習		4	○		△						4						

※1 吉原、牧田、田端、北島、稲富、原、光田、小倉、本多

カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成24年度(2012年度)入学者対象

( )は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉 士	P S W	高 等 学 校 教 諭 福 祉	理 士 認 定 心	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成27年度の 担 当 者	ページ
			必修	選択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 基 盤 科 目	地域ソーシャルワーク実践	演習		2										2		田端 和彦	182	
	成人教育と地域発展	講義		2										2				
	更生保護制度	講義		1	○										1		光田 豊茂	183
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○										2			
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	講義		2		◇					2							
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	講義		2		◇					2							
	精神障害者の生活支援システム	講義		2		◇						2						
	精神疾患とその治療Ⅰ	講義		2		◇		■			2							
	精神疾患とその治療Ⅱ	講義		2		◇		■			2							
	精神保健の課題と支援Ⅰ	講義		2		◇						2						
	精神保健の課題と支援Ⅱ	講義		2		◇						2						
	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ	講義		2		◇						2						
	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ	講義		4		◇							4					
	精神科ソーシャルワーク論Ⅲ	講義		4		◇							4					
	精神科ソーシャルワーク演習	演習		4		◇								4		光田 豊茂	184, 185	
精神保健福祉援助実習指導	実習		3		◇								6		光田・和田	186, 187		
精神保健福祉援助実習	実習		4		◇								12		光田・和田	188, 189		
インターンシップ	実習		4										12		稲富 恭	190, 191		
専 門 展 示 科 目	レクリエーションワーク	講義		2						2								
	人間関係論	講義		2				■		2								
	親子関係の心理学	講義		2				■		2								
	健康心理学	講義		2				■		2								
	集団心理学	講義		2				■			2							
	コミュニケーション心理学	講義		2				■		2								
	教育心理学	講義		2			△	■		2								
	認知心理学	講義		2				■		2								
	心理統計学	講義		2				□		2								
	臨床心理学	講義		2				■		2								
	心理学研究法	講義		2				□		2								
	心理学基礎実験	実験		2				□			4							
	心理学研究実習	実験		2				□				4						
	心理療法	講義		2				■			2							
	心理検査法実習	実習		2				■				4						
行動分析論	講義		2				■				2							
加齢及び障害に関する理解	講義		2			△					2							
人体の構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2			△					2							
福祉工学	講義		2									2			稲富 恭	192		
まちづくり論	講義		2									2						
国際福祉論	講義		2								2							
スクールソーシャルワーク	講義		2									2			不開講			
仏教と社会福祉	講義		2									2			本多 彩	193		
社会福祉特別講義Ⅰ	講義		2						②	②	②	②			不開講			
社会福祉特別講義Ⅱ	講義		2						②	②	②	②			不開講			

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士(PSW)国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士(PSW)国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目



## カリキュラム年次配当表

社会福祉学科 平成24年度（2012年度）入学者対象

（ ）は兼任、[ ]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	認 定 心 理 士	学年配当（数字は週当たり授業時間）								担当者		ページ	
			必修	選択					1年		2年		3年		4年		平成27年度の 担当者			
									I	II	I	II	I	II	I	II				
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義		2			△		2											
	教育原理	講義		2			△		2											
	教育制度論	講義		2			△			2										
	教育課程論	講義		2			△				2									
	福祉科教育法	講義		4			△					4								
	特別活動論	講義		2			△				2									
	教育方法・技術論	講義		2			△				2									
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			△				2									
	教育相談（含カウンセリング）	講義		2			△	■		2										
	事前・事後指導	演習		1			△						1							
	高等学校教育実習	実習		2			△							4				吉原 恵子	194	
教職実践演習（高）	演習		2			△							2				吉原・[尾池]	195		

○は社会福祉士国家試験受験資格必修科目

◇は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格必修科目、◆は精神保健士 (PSW) 国家試験受験資格選択科目

△は福祉教員免許必修科目、▲は福祉教員免許選択科目

□は認定心理士免許必修科目、■は認定心理士免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれません。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、  
日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、  
指定の科目を履修すること。

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		社会 福祉士	P S W	高等 学校 教諭 福祉	認 定 心 理 士	学年配当（数字は週当たり授業時間）								担当者		ページ	
			必修	選択					1年		2年		3年		4年		平成27年度の 担当者			
									I	II	I	II	I	II	I	II				
課程外 科目	卒業演習プレゼминаール	講義		2									4							

※課程外科目を修得しても卒業要件には含まれない。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	生涯学習社会とライフデザイン				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> <li>○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）</li> <li>◎ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）</li> </ul>				

《授業の概要》

人の一生は、入学、就職、結婚、出産といったライフイベントで構成されており、子育て、教育、労働などの分野で様々な問題に遭遇する。複雑化する現代社会と多様化するライフスタイルにより、生活や人生の選択肢が増える一方、予期せぬリスクへの対応が求められる。本講義では、生活資源・社会資源を生かし、リスクマネジメントを行うライフデザインとそのために必要な生涯学習の役割について考える。

《テキスト》

『リスク社会のライフデザイン-変わりゆく家族をみすえて-』宮本みち子・岩上真珠（2014, 放送大学教育振興会）

《参考図書》

適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) ライフサイクルやライフイベントの変遷について説明できる。
- (2) 現代社会における人々の生活を構成する要素と直面するリスクについて理解し、課題を説明できる。
- (3) その人らしい人生について考え、そのために必要な生涯学習のあり方について問題提起できる。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。
- (3) グループワークやプレゼンテーションでは主体的・積極的に参加し学習する態度が求められます。

《成績評価の方法》

- ミニ・テスト（配点：文章作成力および知識の定着度25%）
- プレゼンテーション（配点：コミュニケーション力および表現力25%）
- 学習のまとめによる学習達成度評価（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：50%）

《備考》

受講者は、変化の激しい現代社会の「生活」を理解することが重要との考えから、日頃よりニュース等により最近のトピックに触れ、関心をもつことが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ソーシャルワークとライフデザイン	「生活資源」「社会資源」の活用とリスクマネジメントに関する理論を学び、ソーシャルワークにおける仕事とどのように関わっているのか理解する。
2	ライフサイクルからライフコースへ	ライフサイクル論を理解するとともに、ライフコース論へと変化してきた社会的背景について考える。
3	生活の構造的把握	法システム、政治システム、経済システムのなかに展開する「生活」を多面的に理解し、構造的に捉える視点を学ぶ。
4	現代の家族のかたち	家族について、近代家族から現代家族への変化、多様化する家族のかたちを理解する。
5	家族とジェンダー	家族におけるジェンダー関係を理解する。ジェンダー概念の理解を土台として、性別役割分業、男女共同参画等の問題を考察する。
6	企業社会と家族	企業社会における家族形態や家族関係、結婚に関する考え方の変化を概観し、理解する。また、女性の就労状況を理解し、それが家族に与える影響を考察する。
7	性・生殖と家族	妊娠、出産、子育てをめぐる家族の問題について現状と問題を理解し、解決策を検討する。
8	家族と親子関係	個人化する家族と親子関係に焦点を当て、家族の存在意義、家族のあり方について考える。
9	家族とケア	在宅ケアにおける家族の役割、家族の課題等について考察を深める。また、ケアにおけるジェンダー問題について考察を深める。
10	男性と家族	男性の就労と家族の問題について現状を把握し、問題を理解する。また、解決策を検討する。
11	子どもの貧困化と家族	子どもの貧困化の現状とその背景要因について理解し、解決策を検討する。
12	若者の貧困化と家族	若者の貧困化の現状とその背景要因について理解し、解決策を検討する。
13	家族とリスクマネジメント	人の一生の土台となる家族が遭遇するリスクについて検討し、それに対するマネジメントについて理解を深める。
14	地域コミュニティと家族	家族とその「生活」基盤である地域との関係を、ソーシャルワークの観点から考察する。また、問題の解決策を検討する。
15	生涯学習とライフデザイン	生涯学習の余暇的側面だけでなく、リカレント教育、キャリア教育、人生設計、人生のリスクマネジメントといった人生の課題へ対応するための学習と捉える視点を学ぶ。

《専門教育科目 ソーシャルワーク共通科目》

科目名	社会福祉特別演習				
担当者氏名	吉原 恵子、本多 彩				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） <input type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input checked="" type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

4年間の学びの集大成の一環として、社会福祉士国家試験の合格をめざし、そのための学習を集中して行うことが授業のねらいです。合わせて精神保健福祉士の国家試験の準備講座も行います。各受験科目については、担当分野の教員から講義も受けますが、自主的に学習に取り組んでください。不明なところは教員に質問したり、友人と学び合いながら、成果を上げることをめざします。

《授業の到達目標》

- 社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験の各試験科目ごとの出題基準と傾向を理解する。
- 各試験科目の要点やキーワードを整理して理解する。
- 模擬試験等により、試験の特徴をつかみ、合格をめざす。

《成績評価の方法》

出席・授業態度（50%）、模擬試験等の結果（50%）

《テキスト》

社会福祉士国家試験ワークブック（適宜指定する）精神保健福祉士国家試験ワークブック（適宜指定する）

《参考図書》

適宜提示します。

《授業時間外学習》

- 授業時間だけでは国家試験に合格することは難しいと思われます。受験生であることを常に意識して、法改正のほか、新聞の福祉関連記事等にも目を通すようにしましょう。
- また、模擬試験は実施に5時間以上かかります。変則的なスケジュールに対応できるよう、生活スタイルを受験用に整えておくことが望まれます。

《備考》

本演習の履修が国家試験受験の前提条件となります。履修登録時に注意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション人体の構造と機能及び疾病	問題演習（解答・解説）、要点整理
2	心理学理論と心理的支援 社会理論と社会システム	問題演習（解答・解説）、要点整理
3	現代社会と福祉 社会調査の基礎	問題演習（解答・解説）、要点整理
4	相談援助の基盤と専門職 相談援助の理論と方法	問題演習（解答・解説）、要点整理
5	地域福祉の理論と方法 福祉行財政と福祉計画	問題演習（解答・解説）、要点整理
6	福祉サービスの組織と 経営／社会保障	問題演習（解答・解説）、要点整理
7	高齢者に対する支援と 介護保険制度	問題演習（解答・解説）、要点整理
8	障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	問題演習（解答・解説）、要点整理
9	児童や家庭に対する支援 と児童・家庭福祉制度	問題演習（解答・解説）、要点整理
10	低所得者に対する支援と 生活保護制度	学内模擬試験（1）
11	保健医療サービス 就労支援サービス	学内模擬試験（2）
12	更生保護制度 権利擁護と成年後見制度	学内模擬試験（3）
13	精神医学／精神保健学 精神保健福祉論	学内模擬試験（4）
14	精神科リハビリテーショ ン学	学内模擬試験（5）
15	精神保健福祉援助技術	学内模擬試験（6）

《専門教育科目 ソーシャルワーク共通科目》

科目名	社会福祉特別演習				
担当者氏名	吉原 恵子、本多 彩				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる(倫理性) <input type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) <input checked="" type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)				

《授業の概要》

4年間の学びの集大成の一環として、社会福祉士国家試験の合格をめざし、そのための学習を集中して行うことが授業のねらいです。合わせて精神保健福祉士の国家試験の準備講座も行います。各受験科目については、担当分野の教員から講義も受けますが、自主的に学習に取り組んでください。不明なところは教員に質問したり、友人と学び合いながら、成果を上げることをめざします。

《授業の到達目標》

- 社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験の各試験科目ごとの出題基準と傾向を理解する。
- 各試験科目の要点やキーワードを整理して理解する。
- 模擬試験等により、試験の特徴をつかみ、合格をめざす。

《成績評価の方法》

出席・授業態度(50%)、模擬試験等の結果(50%)

《テキスト》

社会福祉士国家試験ワークブック(適宜指定する) 精神保健福祉士国家試験ワークブック(適宜指定する)

《参考図書》

適宜提示します。

《授業時間外学習》

- 授業時間だけでは国家試験に合格することは難しいと思われます。受験生であることを常に意識して、法改正のほか、新聞の福祉関連記事等にも目を通すようにしましょう。
- また、模擬試験は実施に5時間以上かかります。変則的なスケジュールに対応できるよう、生活スタイルを受験用に整えておくことが望まれます。

《備考》

本演習の履修が国家試験受験の前提条件となります。履修時には注意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション人体の構造と機能及び疾病	問題演習(解答・解説)、要点整理
2	心理学理論と心理的支援 社会理論と社会システム	問題演習(解答・解説)、要点整理
3	現代社会と福祉 社会調査の基礎	問題演習(解答・解説)、要点整理
4	相談援助の基盤と専門職 相談援助の理論と方法	問題演習(解答・解説)、要点整理
5	地域福祉の理論と方法 福祉行財政と福祉計画	問題演習(解答・解説)、要点整理
6	福祉サービスの組織と 経営/社会保障	問題演習(解答・解説)、要点整理
7	高齢者に対する支援と 介護保険制度	問題演習(解答・解説)、要点整理
8	障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	問題演習(解答・解説)、要点整理
9	児童や家庭に対する支援 と児童・家庭福祉制度	問題演習(解答・解説)、要点整理
10	低所得者に対する支援と 生活保護制度	学外模擬試験(1)
11	保健医療サービス 就労支援サービス	学外模擬試験(2)
12	更生保護制度 権利擁護と成年後見制度	学外模擬試験(3)
13	精神医学/精神保健学 精神保健福祉論	学外模擬試験(4)
14	精神科リハビリテーショ ン学	学外模擬試験(5)
15	精神保健福祉援助技術	学外模擬試験(6)

科目名	卒業演習				
担当者氏名	吉原 恵子、牧田 満知子、田端 和彦、北島 律之、稲富 恭、原 志津、光田 豊茂、小倉 毅、本多 彩				
授業方法	演習	単位・必修	6・必修	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）</li> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）</li> <li>○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力）</li> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）</li> </ul>				

《授業の概要》

4年間の学習の集大成として、それぞれの指導教員の指導に従って、卒業論文を執筆、完成させます。その論文を皆の前で発表します。卒業論文の執筆にあたっては、課題の設定、仮説の作成のための文献の読解、データや資料の収集と分析、考察という過程が必要で、さらにそれを論文として仕上げるための整理することや執筆することの能力が求められます。

《テキスト》

演習担当の先生の指示に従ってください。

《参考図書》

演習担当の先生の指示に従ってください。

《授業の到達目標》

卒業論文を執筆し発表することが目標です。卒業論文を執筆するまでの文献読解、資料収集、分析などの手法を身につけることができます。卒業論文の発表によりプレゼンテーション能力を身につけることができます。

《授業時間外学習》

卒業論文執筆に係る、文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います

《成績評価の方法》

卒業論文執筆までの過程、及び論文の内容とその発表内容を踏まえて評価します。卒業論文の締め切りや発表会等の日程は別途指示をします。

《備考》

卒業論文は人生におけるおそらく最初の（そして、もしかしたら最後の）論文の執筆かもしれません。全ての能力を傾けて取り組んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
2	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
3	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
4	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
5	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
6	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
7	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
8	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
9	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
10	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
11	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
12	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
13	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
14	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
15	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。

《専門教育科目 ソーシャルワーク共通科目》

科目名	卒業演習				
担当者氏名	吉原 恵子、牧田 満知子、田端 和彦、北島 律之、稲富 恭、原 志津、光田 豊茂、小倉 毅、本多 彩				
授業方法	演習	単位・必修	6・必修	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる(論理的思考力、情報リテラシー)</li> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)</li> <li>○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる(分析力、プレゼンテーション力)</li> <li>○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる(統計分析力)</li> </ul>				

《授業の概要》

4年間の学習の集大成として、それぞれの指導教員の指導に従って、卒業論文を執筆、完成させます。その論文を皆の前で発表します。卒業論文の執筆にあたっては、課題の設定、仮説の作成のための文献の読解、データや資料の収集と分析、考察という過程が必要で、さらにそれを論文として仕上げるための整理することや執筆することの能力が求められます。

《テキスト》

演習担当の先生の指示に従ってください。

《参考図書》

演習担当の先生の指示に従ってください。

《授業の到達目標》

卒業論文を執筆し発表することが目標です。卒業論文を執筆するまでの文献読解、資料収集、分析などの手法を身につけることができます。卒業論文の発表によりプレゼンテーション能力を身につけることができます。

《授業時間外学習》

卒業論文執筆に係る、文献の講読、調査、分析、考察の他、発表の準備等は時間外に行います

《成績評価の方法》

卒業論文執筆までの過程、及び論文の内容とその発表内容を踏まえて評価します。卒業論文の発表会についての要項等は別途指示をします。

《備考》

卒業論文は人生におけるおそらく最初の(そして、もしかしたら最後の)論文の執筆かもしれません。全ての能力を傾けて取り組んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
2	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
3	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
4	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
5	卒業論文の作成	指導教員の指示に従い、それぞれで課題の選定、仮定の作成、文献読解、資料の収集等を進め、卒業論文の執筆を行ないます。
6	卒業論文の作成、卒業論文の完成と提出	卒業論文の執筆を行ないます。論文を提出した学生は発表会に向けて発表の準備をします。
7	卒業論文の作成、論文発表会への準備	卒業論文の執筆を行ないます。論文を提出した学生は発表会に向けて発表の準備をします。
8	卒業論文の作成、論文発表会への準備	卒業論文の執筆を行ないます。論文を提出した学生は発表会に向けて発表の準備をします。
9	卒業論文の作成、論文発表会への準備	卒業論文の執筆を行ないます。論文を提出した学生は発表会に向けて発表の準備をします。
10	卒業論文の完成と提出、論文発表会への準備	卒業論文の執筆を行ないます。論文を提出した学生は発表会に向けて発表の準備をします。
11	論文発表会への準備	発表会に向けて発表の準備をします。
12	論文発表会への準備	発表会に向けて発表の準備をします。
13	卒業論文発表会	学科の先生方や1~3年生を前にして、卒業論文の発表を行います。
14	卒業論文発表会	学科の先生方や1~3年生を前にして、卒業論文の発表を行います。
15	卒業論文発表会	学科の先生方や1~3年生を前にして、卒業論文の発表を行います。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	地域ソーシャルワーク実践				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input type="radio"/> 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） <input checked="" type="radio"/> 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

NPOなどの組織的な活動、地元自治体の行政などに実際に知りつつ（演習）、組織としての背景や実情を知り、さらに活動等における課題を見出し、その解決を共に考えます。

《テキスト》

特にありません。

《参考図書》

その都度指示をします。

《授業の到達目標》

地域での活動の原点にはどのようなことがあるのか、またそれら組織の草の根での実情はどのようなものであるのかを理解し、さらに学習を進めることで、自らをしてそうした立場（例えば、NPOの創設や地方議員への立候補など）への可能性を開くきっかけとします。

《授業時間外学習》

行政の実情や活動する団体の歴史などを理解し、インターンシップとしての役割を果たすための準備学習が必要になります。

《成績評価の方法》

レポート（100%）

《備考》

教員の指示する団体等でのインターンシップ（複数日）が必要になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要、受講者との個別面談等行います。
2	事前学習①	事前学習として、インターンシップ先である行政やNPOについて解説を行います。
3	事前学習②	引き続き、事前学習として、インターンシップ先である行政やNPOについて解説を行います。
4	事前学習③	引き続き、事前学習として、インターンシップ先である行政やNPOについて解説を行います。
5	インターンシップ事前調整①	インターンシップ先について解説を行うとともに、そこで学習計画を作成します。
6	インターンシップ事前調整②	引き続き、インターンシップ先について解説を行うとともに、そこで学習計画を作成します。
7	インターンシップ①	NPOや自治体、その出先等でのインターンシップを行います。
8	インターンシップ②	同上
9	インターンシップ③	同上
10	インターンシップ④	同上
11	インターンシップ⑤	同上
12	学びの振り返り①	インターンシップで学んだことを振り返ります。
13	学びの振り返り②	引き続き、インターンシップで学んだことを振り返ります。
14	報告書（レポート）の作成①	振り返りを踏まえ、レポートを作成します。
15	報告書（レポート）の作成②	振り返りを踏まえ、レポートを作成します。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	更生保護制度				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）				

《授業の概要》

更生保護制度は「犯罪をした者及び非行のある少年に対し、社会内において適切な処遇を行うことにより、再び犯罪をすることを防ぎ、又はその非行をなくし、これらの者が社会の一員として自立し、改善更生することを助けること」が、その目的である。その具体的な制度の内容や、それに携わる人達の働きについて講義する。（より実際的な業務を知るために、その業務に携わる職員をゲスト講師として招く予定です。）

《授業の到達目標》

更生保護制度の概要を把握し、この制度の目的を果たすために働いている保護観察官や保護司等の業務やその役割が理解できる。それと共に、これに関する諸機関、更生保護施設等の役割についても理解できる。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座20『更生保護制度』第3版（社会福祉士養成講座編集委員会）、中央法規出版、2014

《参考図書》

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。事情が許せば、矯正施設（刑務所または少年院）の見学学習を考えた。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。  
8週の授業計画です。必要授業時間数＝(90分×7週)＋45分

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	更生保護制度の概要	刑事司法の中の更生保護の果たす役割やこれまでの歴史、位置づけについて理解する。
2	仮釈放等の制度	仮釈放等の制度の流れと更生保護委員会・保護観察所の業務とその役割について理解する。
3	保護観察	保護観察の目的、方法とその担い手である保護観察官・保護司の業務とその役割について理解する。
4	保護観察の実際	更生保護制度の担い手である保護観察官の仕事の実際を理解する。（ゲスト講師予定）
5	触法障害者の福祉的支援	犯罪を犯した障害者に対して、福祉的支援がなぜ必要であるのかを、その支援を行っている福祉職から話を聞いて、その支援の必要性を理解する。（ゲスト講師予定）
6	地域生活定着支援センターの役割	高齢者や障害を抱える自立困難な刑務所出所者等に対する社会復帰の支援内容や、それに携わる支援者のかかわりについて理解する。（ゲスト講師予定）
7	医療観察制度	医療観察制度における処遇の流れと、その中で果たす社会復帰調整官の業務とその役割について理解する。（ゲスト講師予定）
8	まとめ	更生保護制度の全体の流れをもう一度確認して、本制度の役割について理解する。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—



《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神科ソーシャルワーク演習				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

精神障害者に対する援助技術（ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク等）及び地域生活支援の技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰や地域生活支援に対する援助技術を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し、小グループで議論し合う形で事例検討及びロールプレイを行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座8『精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2012

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者の生活支援を目指して、精神保健福祉士としての援助の視点を踏まえて、精神保健福祉士のもつ専門的援助技術及び地域生活支援の技法について理解できる。

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える技術・技法の習得を目指すので、学生自身も率直な意見・質問を積極的に考えて来て授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）  
レポート課題に対する取り組み（50%）

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	インテーク面接	インテーク面接での留意事項や面接内容について、ロールプレイを行いながら学習する。
2	事例2/ストレングスマデル①	ストレングスマデルによるアセスメントを理解する。
3	事例2/ストレングスマデル②	ストレングスマデルに基づいたアセスメントからケアプランを作成する。
4	事例3/SSTを用いたりハビリテーション①	相談援助の過程でのSSTの活用を理解する。
5	事例3/SSTを用いたりハビリテーション②	SSTとは、何を目的として、どのように実施するのかを理解する。
6	事例5/デイケアでのリハビリテーション①	デイケアにおける精神保健福祉士の役割について理解する。
7	事例5/デイケアでのリハビリテーション②	グループワークの意義や手法について理解する。
8	社会復帰施設見学予定	社会復帰施設を見学学習することによって、地域で生活している精神障害者の生活支援について考える。
9	精神保健福祉士の実際業務	精神保健福祉現場で働いている精神保健福祉士の実際業務について理解する。（ゲスト講師予定）
10	当事者理解	当事者の体験談を聞くことによって、当事者の思いやニーズを知り、支援者の役割を考える。（ゲスト講師予定）
11	事例11/自殺予防①	自殺の危機にある人の、どのような様子や態度に気づくべきかを学ぶ。
12	事例11/自殺予防②	自殺の危機にある人を適切な機関や人へつなげる方法を学ぶ。
13	事例14/地域定着支援①	地域定着支援の目的およびプロセスを知り、そこにかかわる精神保健福祉士の視点、役割について理解する。
14	事例14/地域定着支援②	地域定着支援のための社会資源の活用を通して、関係機関等との連携、協働によるネットワーク形成の意味を理解する。
15	夏季休暇課題説明（社会資源調査）	自分が住んでいる地域の精神保健福祉領域の社会資源調査とマップ作りについて

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神科ソーシャルワーク演習				
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力)</li> <li>○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる(人に働きかける力)</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)</li> </ul>				

《授業の概要》

精神障害者に対する援助技術(ケースワーク・グループワーク・コミュニティワーク等)及び地域生活支援の技法について学生が実感し、その技術・技法が身につくよう、精神障害者の社会復帰や地域生活支援に対する援助技術を具体的に検討し、学生自身が積極的に報告し、小グループで議論し合う形で事例検討及びロールプレイを行う。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座8『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2012

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者の生活支援を目指して、精神保健福祉士としての援助の視点を踏まえて、精神保健福祉士のもつ専門的援助技術及び地域生活支援の技法について理解できる。

《授業時間外学習》

実際現場で実践的に使える技術・技法の習得を目指すので、学生自身も率直な意見・質問を積極的に考えて来て授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み(50%)  
レポート課題に対する取り組み(50%)

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	夏季休暇の課題報告	学生に夏休暇に調べた自分の住んでいる地域の精神保健福祉領域の社会資源調査報告(マップ)を発表する。
2	事例2 1/障害年金の活用①	精神障害者が障害年金を活用することの意味と意義について理解する。
3	事例2 1/障害年金の活用②	精神保健福祉士による障害年金受給支援のあり方について学ぶ。
4	事例2 4/アルコール依存①	アルコール依存の進行により、依存症本人が抱える問題の構造を理解する。
5	事例2 4/アルコール依存②	アルコール依存への介入における精神保健福祉士の役割・援助方法について学ぶ。
6	自助グループの実際	AAのメンバーを招いて、当事者の体験談を聞き、自助グループの役割を理解する。(ゲスト講師予定)
7	事例2 6/うつ病(成人)①	気分障害の当事者が地域生活を送るために精神保健福祉士が果たす役割を学び、病院と地域の連携の必要性について理解する。
8	事例2 6/うつ病(成人)②	職場との関係調整について考える。
9	地域で働く精神保健福祉士の業務について	地域生活を行っている精神障害者に対して、地域で様々な形で支援を行っている精神保健福祉士を招き、その支援内容や役割について学習する。(ゲスト講師予定)
10	事例3 1/医療観察法の対象者①	医療観察法の概要と社会復帰調整官の業務を理解し、社会復帰調整官である精神保健福祉士の専門性について学ぶ。
11	事例3 1/医療観察法の対象者②	地域ケアを展開するうえで関連する社会資源とその連携について学ぶ。
12	事例3 3/低所得者への支援①	低所得の問題に対し手、社会福祉制度を活用しながら支援を組み立てていく過程を実践的に学ぶ。
13	事例3 3/低所得者への支援②	経済的な支援のみにとらわれず、利用者・家族の思いを受けとめて支援を行うことの重要性を理解する。
14	生活保護制度の実際	事例を通して生活保護制度の実際の活用について考える。
15	学習の振り返り	これまでの事例検討を通して、精神保健福祉士としての援助の視点や援助技術、関係機関との連携の仕方について、考えてきたことについて振り返る。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導				
担当者氏名	光田 豊茂、和田 光徳				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《授業の到達目標》

精神保健福祉士のあるべき姿を学び、これまで勉強してきたことを実習をとおして理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2013年

《参考図書》

《授業時間外学習》

実習計画書作成、実習先の特性調査など授業時間内では出来ない内容については各自その学習をする。  
機会があれば、精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容（30%）  
実習記録及び実習先の評価（40%）  
実習報告会、実習報告書の内容（30%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 実習先の検討および調整	精神保健福祉援助実習の意味および組み立てについて 実習生の住所地、興味、進路に応じ実習先の検討を行う
2	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
3	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
4	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表する
5	当事者理解	精神障害者の抱えている生活課題や困難について理解する（ゲスト講師予定：精神障害者当事者）
6	実習に向けての事前学習	実習先（医療機関）の概要を調べ発表する
7	精神保健福祉士業務の実際を知る	精神科医療機関における精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：医療機関で働く精神保健福祉士）
8	実習に向けての事前学習	実習先（地域の事業所）の概要を調べ発表する
9	精神保健福祉士業務の実際を知る	地域で働く精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：地域で働く精神保健福祉士）
10	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
11	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
12	実習計画書作成	各自、実習中のテーマを設定し、それに基づいて実習計画を立てる
13	実習先への事前訪問について	実習先に対する事前訪問の方法や留意点などを理解する
14	個人指導	実習における留意点の確認を行う。実習関連書類の作成など
15	個人指導	実習における留意点の確認を行う。実習関連書類の作成など

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導				
担当者氏名	光田 豊茂、和田 光徳				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感力、観察力、問題発見力) ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる(アドボカシー) ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる(市民性・生涯学習力)				

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《授業の到達目標》

精神保健福祉士のあるべき姿を学び、これまで勉強してきたことを実習をとおして理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2013年

《参考図書》

《授業時間外学習》

実習報告会のプレゼンテーション内容の準備や実習報告書作成などは授業時間外でも各自その準備を行う。  
機会があれば、精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容 (30%)  
実習記録及び実習先の評価 (40%)  
実習報告会、実習報告書の内容 (30%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習の振り返り・各実習施設の印象・特色・全体的な振り返り
2	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習各自の個別振り返り・スーパーバイザーからの学び・印象的なエピソード・課題など
3	精神保健福祉現場実習の振り返り	各自の学び、課題の掘り下げ・ディスカッション
4	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
5	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
6	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会に向けてのプレゼンテーション内容掘り下げ
7	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告会で発表
8	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習で学んだ内容についての実習報告書作り
9	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習で学んだ内容についての実習報告書作り
10	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習報告書提出
11	精神保健福祉現場実習の振り返り	事後学習
12	精神保健福祉現場実習の振り返り	事後学習
13	精神保健福祉現場実習の振り返り	事後学習
14	精神保健福祉現場実習の振り返り	実習の総まとめ
15	精神保健福祉現場実習の振り返り	国家試験に向けての取り組み

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習				
担当者氏名	光田 豊茂、和田 光徳				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力）</li> <li>○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任）</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ）</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> </ul>				

《授業の概要》

厚生労働省指定の精神保健福祉現場（精神科医療機関及び地域の事業所等）においてトータルで210時間以上の実習を行う。実習を通して精神障害者の置かれている状況やその生活課題を理解し、その課題に対して精神保健福祉士がどのように支援を行っているのかを理解する。また、精神保健福祉士が行う支援において、求められる倫理や価値を基にして、必要な知識や技術について実習において会得する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2013年

《参考図書》

浦河べてるの家 『べてるの家の「当事者研究」』 医学書院 2009年

《授業の到達目標》

精神障害者の置かれている状況を理解しながら、その生活課題に対して精神保健福祉士が実際現場でどのような支援を行っているかを自分の頭で理解し、その支援が自分の実践に近づけるように体得する。

《授業時間外学習》

精神保健福祉士法を理解して実習に臨むこと。

《成績評価の方法》

実習記録、実習先の評価、実習報告会、実習報告書、実習に対する参加意欲を総合的に見て評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
2	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
3	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
4	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
5	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
6	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
7	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
8	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
9	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
10	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
11	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
12	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
13	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
14	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。
15	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを実際的に学ぶ。

《専門教育科目 ソーシャルワーク基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習				
担当者氏名	光田 豊茂、和田 光徳				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる(自己管理能力)</li> <li>○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任)</li> <li>○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる(地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ)</li> <li>○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる(共感性、観察力、問題発見力)</li> <li>◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合)</li> </ul>				

《授業の概要》

厚生労働省指定の精神保健福祉現場(精神科医療機関及び地域の事業所等)においてトータルで210時間以上の実習を行う。実習を通して精神障害者の置かれている状況やその生活課題を理解し、その課題に対して精神保健福祉士がどのように支援を行っているのかを理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習』日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2013年

《参考図書》

浦河べてるの家 『べてるの家の「当事者研究」』 医学書院 2009年

《授業の到達目標》

精神障害者の置かれている状況を理解しながら、その生活課題に対して精神保健福祉士が実際現場でどのような支援を行っているかを自分の頭で理解し、実践に近づけるように体得する。

《授業時間外学習》

精神保健福祉士法を理解して実習に臨むこと。

《成績評価の方法》

実習記録、実習先の評価、実習報告会、実習報告書、実習に対する参加意欲を総合的に見て評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
2	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
3	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
4	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
5	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
6	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
7	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
8	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
9	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
10	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
11	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
12	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
13	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
14	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。
15	現場実習	精神保健福祉現場において精神障害者の置かれている状況を理解し、その生活課題に対して、精神保健福祉士がどのような支援を行っているかを实际的に学ぶ。

科目名	インターンシップ				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

インターンシップは、企業やNPOなどの団体で実際に勤務をし、社会の仕組みや団体でのコミュニケーションの方法などの体験を通して学ぶことを目的としています。また企業などの組織について知ることも重要な目的となっています。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考図書》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

- ・インターンシップを通し、企業や労働の実態の理解を深めるとともに職種ごとの働き方について理解することが出来ます。
- ・インターンシップを通し、社会との関わり方や多様な世代とのコミュニケーションの取り方を身につけることが出来ます。
- ・インターンシップを通し、企業研究を進め、将来の進路を見定めることが出来るようになります。

《授業時間外学習》

インターンシップ先の検討、企業研究においては、インターネットでの情報収集、有価証券報告書や新聞記事、雑誌記事などの読解を通し自主的な取り組みで実施するため、その準備はすべて授業時間外で実施することになります。インターンシップ中は業務日報の作成が必要になります。

《成績評価の方法》

授業中の課題達成度(30%)、インターンシップ先での評価(30%)、事後の振り返りにおけるレポート等(40%)

《備考》

この授業は、ソーシャルワーク実習を履修しない学生のみ履修することが出来ます。ソーシャルワーク実習と両方の履修はできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	インターンシップの目的とスケジュールについて
2	キャリア教育とインターンシップ	雇用の現状と大学設置基準等によるキャリア教育の位置づけについて 社会人基礎力
3	社会人基礎力の形成	一般教養とSPI試験 ビジネスマナー・書類の書き方等、ビジネス等の活動に必要なスキル
4	企業研究	法人組織の仕組み 会社概要、事業内容、企業業績等の理解
5	インターンシップ先の検討	インターンシップ先の希望調査と調整
6	インターンシップ計画の作成	インターンシップ計画について検討し、計画書を作成する
7	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
8	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
9	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
10	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
11	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
12	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
13	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
14	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
15	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))

科目名	インターンシップ				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度(社会的責任) ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる(知識・技能の統合) ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる(創造的思考力)				

《授業の概要》

インターンシップは、企業やNPOなどの団体で実際に勤務をし、社会の仕組みや団体でのコミュニケーションの方法などの体験を通して学ぶことを目的としています。また企業などの組織について知ること重要な目的となっています。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考図書》

授業時間中に指示します。

《授業の到達目標》

- ・インターンシップを通し、企業や労働の実態の理解を深めるとともに職種ごとの働き方について理解することが出来ます。
- ・インターンシップを通し、社会との関わり方や多様な世代とのコミュニケーションの取り方を身につけることが出来ます。
- ・インターンシップを通し、企業研究を進め、将来の進路を見定めることが出来るようになります。

《授業時間外学習》

インターンシップ先の検討、企業研究においては、インターネットでの情報収集、有価証券報告書や新聞記事、雑誌記事などの読解を通し自主的な取り組みで実施するため、その準備はすべて授業時間外で実施することになります。インターンシップ中は業務日報の作成が必要になります。

《成績評価の方法》

授業中の課題達成度(30%)、インターンシップ先での評価(30%)、事後の振り返りにおけるレポート等(40%)

《備考》

この授業は、ソーシャルワーク実習を履修しない学生のみ履修することが出来ます。ソーシャルワーク実習と両方の履修はできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	インターンシップ帰校日	進行中のインターンシップにおける現状について評価・検討し、改善方法について検討する。
2	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
3	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
4	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
5	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
6	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
7	(実習)	インターンシップ(3週間(予定)) 実習巡回指導
8	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
9	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
10	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
11	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
12	(実習)	インターンシップ(3週間(予定))
13	インターンシップ報告書の作成	インターンシップ報告会のための資料を整備する
14	インターンシップ報告会	インターンシップの報告会を実施する
15	授業のまとめ	インターンシップの振り返りと反省を行う



《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	福祉工学				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）</li> <li>◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力）</li> <li>○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）</li> <li>○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）</li> <li>○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）</li> </ul>				

《授業の概要》

高齢者、障害者が地域社会の中で普通の生活を送るためには、福祉の視点にたった住環境整備を欠かすことが出来ない。本講義では、(1)住環境整備の背景となる社会福祉の現状について概観するとともに、(2)住宅改修、バリアフリー、ユニバーサルデザインを中心に福祉住環境整備手法について学ぶ。

《テキスト》

「福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改訂3版」東京商工会議所, 2015

《参考図書》

「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級過去問題集 2015年版」HIPS合格対策プロジェクト, 2015

《授業の到達目標》

- 福祉住環境コーディネーター3級に相当する能力を身につける。
- 生活環境の不適合に対して、物理的な問題解決手段を提案する事ができる能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法  
シラバスを参考に、テキストの該当箇所に目を通し、疑問点を明確にしておく。
- ・復習の方法  
テキストの必要箇所を暗記する。配布プリントの問題を復習し、次回の小テストの準備を行う。

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施する小テスト(100%)によって評価する。

《備考》

原則として「福祉住環境コーディネーター検定試験3級」の受験を目指す学生を対象とする。  
試験日程に合わせて、開講日を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	少子高齢社会と福祉住環境整備	少子高齢社会の現状と今後のあり方について理解する
2	日本の住環境と福祉住環境整備	日本の住空間の特性と福祉住環境整備の必要性について理解する
3	福祉住環境と在宅ケア	介護保険制度と障害者総合支援法を中心に在宅生活の支援について理解する
4	高齢者の健康と生活	老化の特性とヘルスプロモーションについて理解する
5	障害者の自立と生活	障害の種類と障害者の社会参加状況について理解する
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリー、ユニバーサルデザインの歴史、概念について理解し、具体的なデザイン手法について理解する
7	福祉用具の分類と活用	共用品、福祉用具の概念、分類、役割について理解する
8	居住環境整備の技術(1)	居住環境整備に必要な空間設計について理解する
9	居住環境整備の技術(2)	居住環境整備に必要なデザイン、設備計画、避難防災計画について理解する
10	生活行為と空間整備	移動、入浴、排泄等の生活行為に必要な空間整備方法について理解する
11	ライフスタイルの多様化と住まい	戦後の家族形態の変化とそれに伴う生活形態について理解する
12	安心できる住生活	高齢者居住法、住宅セーフティネット法等の居住安定政策について理解する
13	安心して暮らせるまちづくり	福祉のまちづくり条例等、地域における福祉住環境整備について理解する
14	授業の補足と重要箇所の復習	授業内容の重要ポイントについて補足し、「福祉住環境コーディネーター検定試験」の準備を行う。
15	授業のまとめ	授業のまとめと小テストの解説

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	仏教と社会福祉				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

この講義は、仏教の教えについて理解を深めることから始める。社会福祉の現場で求められる、他者へのやさしさや利他のことについて学びを深める。さらに実践の場を取り上げ、現代社会における仏教社会福祉の取り組みを解説する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活領域にある仏教への理解を深め、人間や生老病死について考える。縁起や利他や慈悲といった仏教の教えを学び、社会福祉の現場に立つときの他者理解のきっかけとしてほしい。

《授業時間外学習》

学内で行われる仏教行事への積極的な参加  
 定例礼拝  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《成績評価の方法》

受講態度30%  
 小テスト・レポート25%  
 期末レポート45%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	仏教社会福祉とは	仏教社会福祉の概要を理解する
2	仏教のはじまりと釈尊	釈尊の生涯やジャータカ物語から釈尊と他者との関わりについて学ぶ
3	大乘仏教の興隆	大乘仏教登場の背景と特徴について学ぶ
4	大乘仏教の発展	インド発祥の大乘仏教の教えの展開と広がりについて学ぶ
5	大乘仏教と利他	大乘仏教の利他について学び理解を深める
6	日本仏教社会福祉①	聖徳太子など日本仏教社会福祉のはじまりについて学ぶ
7	日本仏教社会福祉②	浄土仏教と日本仏教社会福祉について学ぶ
8	日本仏教社会福祉③	明治時代以降の日本仏教社会福祉と実践について学ぶ
9	高齢者福祉と仏教	高齢者福祉と仏教の関係について理解を深める
10	こどもと仏教	仏教の児童養護施設やこどもと仏教に関する取り組みについて学ぶ
11	若者と仏教	若者がかかえる諸問題について仏教社会福祉の視点から理解を深める
12	障がい者と仏教	障がい者福祉と仏教について学ぶ
13	仏教の死生観	死や生やいのちについて仏教の考えを学ぶ
14	仏教ターミナルケア	仏教のターミナルケアであるビハラー活動を理解し学びを深める
15	仏教社会福祉の現場	仏教社会福祉の現場を知り具体的な活動について理解を深める

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

授業のねらいは、教育実習の目的を達成することにある。具体的には、事前指導において、教育現場や教員の職務範囲などについて理解するとともに、すでに履修している教職に関わる科目の振り返りによって、実習時に必要な知識と理論を統合化する。事後指導においては、教育実習の成果を自己確認するとともに、他の実習生との意見交換、情報交換、討議などにより経験の共有化を図る。

《授業の到達目標》

- (1) 教職に関する科目のふり返しを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でどのように用いるのか説明できる。
- (2) 教科に関する科目のふり返しを行い、それらの知識や技術を現場実習のどの場面でどのように用いるのか説明できる。
- (3) 教職を希望する者にとって、教育実習がどのような意義をもつか説明できる。

《成績評価の方法》

実習校による実習評価(50%)、およびレポート(30%)、実習報告会における発表(20%)の総合評価

《テキスト》

『教育実習の研究』 教師養成研究会（学芸図書，2001）

《参考図書》

『教育実習の新たな展開』 有吉秀樹・長沢憲保（ミネルヴァ書房，2001）『福祉教育論』 村上尚三郎他（1998、北大路書房）『福祉教育の理論と実践』 阪野貢編著（2000、相川書房）

《授業時間外学習》

履修期間だけでなく、日常生活および学業生活全体のなかで、教職をめざす者としての自覚を持って行動することが求められる。

《備考》

授業案作成および模擬授業に関しては授業外の指導も合わせて行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習全体の理解	教科「教育実習」の目的と方法の理解
2	教育実習の全体（1）	1）教員養成と教育実習 2）教育実習の目的
3	教育実習の全体（2）	3）教育実習の展開 4）教育実習の心得
4	教育実習の内容（1）	1）学校経営 2）学校の組織
5	教育実習の内容（2）	3）生徒の理解 4）教育課程 5）学習指導
6	教育実習の実際（1）	1）教材研究の実際 2）学習指導の実際
7	教育実習の実際（2）	3）学習指導案の事例
8	教育実習の実際（3）	4）授業研究の実際
9	教育実習の実際（4）	5）道徳・特別活動・生活指導の実際 6）教育実習の評価
10	教育の方法及び技術（1）	1）授業の仕組みとはたらき
11	教育の方法及び技術（2）	2）教育方法および教育技術
12	教材研究と指導案づくり（1）	1）学習指導要領 2）学習分野
13	教材研究と指導案づくり（2）	3）発問や応答 4）時間配分 5）学習目標と評価
14	模擬授業（1）	1）授業の位置づけ 2）授業の構成要素
15	模擬授業（2）	3）授業内容の難易度 4）授業目標の達成と評価

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（高）				
担当者氏名	吉原 恵子、尾池 良一				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

学生は「教職」を教科指導を中心とした教職イメージで捉えがちである。本演習では、学校現場の視点から見た教員とその職務について学習することを中心として、これまでの教職課程で得られた知識・技術を総合的に用いる能力を実践的授業方法により養う。

《テキスト》

・「自己成長を目指す教職実践演習」（原田 恵理子、森山 賢一著）、「教職実践演習ワークブック -ポートフォリオで教師力アップ」（西岡 加名恵、川地 亜弥子著）

《参考図書》

《授業の到達目標》

- (1) 教職課程においてすでに習得している専門的な知識・技能および教育実習経験の統合を図ることができる。
- (2) 教員としての使命感や責任感を説明できる。
- (3) 教科指導のほか生徒指導など教員の多様な職務内容を説明できる。
- (4) 教育現場で実践するために必要な諸能力（汎用的技能など）を身につけ、示すことができる。

《成績評価の方法》

・毎回の授業記録（ポートフォリオ等）に基づく学生による自己評価（40%）と教員による評価（60%）の相互評価を実施する。

《授業時間外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習というよりは、日頃から教育問題に関心を持ち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。教授・指導上の観点だけでなく、教育法規的な側面、学校の社会的な役割など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション 教員の職務について	・授業方法および学習方法についての説明 ・教育関係法規の体系、教職員の職務についての理解（講義および討議）
2	教員の資質と使命(1)	教員に求められる資質能力を考える（事例研究および討議）
3	教員の資質と使命(2)	望ましい教員像を考える（事例研究および討議）
4	学校の組織と運営(1)	・職務構成の理解（講義および討議） ・学級担任の職務（講義および討議）
5	学校の組織と運営(2)	・教員の勤務とサービス（ロールプレイングおよび討議）
6	教員の教育活動の実際(1)	教科指導の基本と課題（模擬授業の事前学習）
7	教員の教育活動の実際(2)	教科指導の基本と課題（模擬授業および事後学習）
8	教員の教育活動の実際(3)	生徒理解と生徒指導（ロールプレイングおよび討議）
9	教員の教育活動の実際(4)	進路指導の意義と役割（講義および討議）
10	学級経営の実際(1)	特別活動の領域（模擬授業の事前学習）
11	学級経営の実際(2)	特別活動の領域（模擬授業および事後学習）
12	学級経営の実際(3)	問題行動への対処（ロールプレイングおよび討議）
13	学校教育の広がり と課題	・保護者および地域との連携 ・特別支援教育について
14	社会の変化と教育問題	・教育問題の動向（世界と日本） ・〈カウンセリングマインドと福祉マインド〉
15	学習のまとめ	学習のふり返りと学習成果の評価

授業科目索引一覧 (50音順)

授業科目の名称	ページ
<イ> 医療ソーシャルワーク	140
インターンシップ	190～191
<エ> 英語	27～28
<カ> 介護概論	93
化学	48
家族福祉論	94
加齢及び障害に関する理解	167
韓国語 (初級)	55
韓国語 (中級)	56
<キ> 基礎ゼミナールⅠ	73
基礎ゼミナールⅡ	74
教育課程論	126
教育原理	83
教育心理学	124
教育制度論	84
教育相談 (含カウンセリング)	85
教育方法・技術論	128
教職概論	82
教職実践演習 (高)	195
行政法	71
<ケ> 経済学	47
芸術	35～36
健康・スポーツ科学Ⅰ (講義)	57～58
健康・スポーツ科学Ⅱ (演習)	59
健康・スポーツ科学Ⅲ (演習)	60
現代社会と福祉Ⅰ	75
現代社会と福祉Ⅱ	76
権利擁護と成年後見制度	109
<コ> 更生保護制度	183
高等学校教育実習	194
行動分析論	166
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	103
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	104
国際福祉論	125
国際理解と宗教Ⅰ (キリスト教)	39
国際理解と宗教Ⅱ (イスラム教)	40
こころの基盤の理解	95
コミュニケーション論	96
コンピュータ演習	29
<シ> 色彩とデザイン	41
事前・事後指導	172
実用英語 (初級)	51
実用英語 (中級)	52
児童・高齢者・障害者の心理	81
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	106

授業科目の名称	ページ
<シ> 社会学	46
社会心理学	97
社会調査の応用	137
社会調査の基礎	77
社会福祉特別演習	178～179
社会保障論Ⅰ	101
社会保障論Ⅱ	102
社会理論と社会システム	69
宗教と人生	31
集団心理学	161
就労支援の制度とサービス	144
生涯学習社会とライフデザイン	177
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	105
生涯発達心理学	72
食と健康	50
人権の歴史	44
人体の構造及び日常生活行動に関する理解	168
人体の構造と機能及び疾病	67
心理学	37
心理学基礎実験	162
心理学研究実習	163
心理学理論と心理的支援	68
心理検査法実習	165
心理療法	164
<セ> 生活支援技術	123
政治学	45
精神科ソーシャルワーク演習	184～185
精神科ソーシャルワーク論Ⅱ	156～157
精神科ソーシャルワーク論Ⅲ	158～159
成人教育と地域発展	151
精神疾患とその治療Ⅱ	119
精神疾患とその治療Ⅰ	118
精神障害者の生活支援システム	153
精神保健の課題と支援Ⅰ	154
精神保健の課題と支援Ⅱ	155
精神保健福祉援助実習	188～189
精神保健福祉援助実習指導	160、186～187
精神保健福祉相談援助の基盤 (専門)	120
精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	116
精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	117
生徒指導論 (進路指導を含む)	129
生物学	49
生物基礎	30
生命倫理学	32
専門プレゼミナールⅠ	99
専門プレゼミナールⅡ	100

授業科目の名称	ページ
<ソ> 相談援助演習ⅠA	111
相談援助基礎実習	130～131
相談援助実習指導Ⅰ	78、112
相談援助実習指導Ⅱ	113～114
相談援助の基盤と専門職Ⅰ	91
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	92
相談援助の理論と方法Ⅰ	110
ソーシャルワーク演習Ⅰ	149
ソーシャルワーク演習Ⅱ	150
ソーシャルワーク実習	147～148
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	145～146
ソーシャルワークの理論と実践Ⅱ	142
卒業演習	143、180～181
<タ> 態度の心理学	98
<チ> 地域ソーシャルワーク実践	182
地域福祉の理論と方法Ⅰ	107
地域福祉の理論と方法Ⅱ	138
中国語 (初級)	53
中国語 (中級)	54
<テ> 低所得者に対する支援と生活保護制度	108
哲学	33
<ト> 統計学の基礎	115
特別活動論	127
<ニ> 日本語 (読解と表現)	26
日本国憲法	43
<フ> 福祉科教育法	170～171
福祉行政財と福祉計画	141
福祉工学	192
福祉サービスの組織と経営	152
福祉住環境論	79
福祉レクリエーションⅠ	121
福祉レクリエーション演習Ⅰ	122
仏教と現代社会	38
仏教と社会福祉	193
文学	34
<ホ> 法学	70
法と社会	42
保健医療サービス	139
<マ> まちづくり論	169
<レ> レクリエーションワーク	80
<ワ> 私のためのキャリア設計	61